



STREETFIGHTER

オーナーズマニュアル

日本語

STREETFIGHTER V4 SP2

ドゥカティスタの皆様

弊社に対するご信頼の元、新しい Streetfighter V4 SP2 をご購入いただいた皆様に心より感謝いたします。

Ducati にすばやく慣れ、**そのすべての機能をご利用いただけるために、本オーナーズマニュアルを注意深くお読みになること**をお勧めします。本マニュアルでは、**安全性、車両のお手入れ方法、専門的なサービスによる適切なメンテナンス**により車両の価値を高く保つ方法について、多くの役立つヒントと情報を提供しています。

また、**本オーナーズマニュアルはデジタル形式でもご利用いただけ、Ducati ウェブサイトの専用エリアと、コンピュータと電話の両方から参照できる MyDucati アプリで、常に更新されています。**



このようにして、常に**最新版のマニュアル**をご利用いただけ、バイクと Ducati ワールドに関する**情報やよくある質問**もご覧いただくことができます。

本オーナーズマニュアルの内容に関する皆様のご意見・ご提案は、OwnerManual@ducati.com までご連絡ください。

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

重要

Ducati のウェブサイトでは、お客様のモーターサイクルの機能や特長に関する最新情報をお届けしております。ウェブサイトから、専用の「よくある質問 (FAQ)」とチュートリアルをご確認ください。本マニュアルに掲載されている情報は、印刷時点で最新のものです。Ducati モーターサイクルの品質基準および安全基準は日々更新されています。Ducati ウェブサイトから、モーターサイクルの最新版オーナーズマニュアルに記載されている機能や特徴をご確認ください。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで (書面による) 許可の申請をしなければなりません。車両の修理に関するお問い合わせや、その他のご質問等につきましては、ドゥカティ正規アシスタンスセンターにご連絡ください。

ご不明な点等ございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。
contact_us@ducati.com

役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

重要

詳細については、ウェブサイト www.ducati.com のサービスとメンテナンスセクションで「お問い合わせ」をクリックして、Ducati サポートまでお問い合わせください。役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

楽しいライディングを！

目次

ソフトウェアのアップデート	9	ライダーの教育	28
ソフトウェアのアップデート	9	服装	29
		"安全のための""ベストプラクティス""	29
		燃料の補給	32
		最大積載時の運転	33
		車両への積載に関する注意	33
		危険物 - 警告	34
		車両識別番号	36
		エンジン識別番号	37
		シリアル番号	38
インフォテインメント	10	主要構成部品 / 装備	39
インフォテインメント (搭載している場合)	10	車両上の配置	39
Bluetooth デバイスのペアリングと操作 (装備 している場合)	11	燃料フィルタープラグ	40
音楽 (ある場合)	18	シートの取り外しおよび取り付け	41
電話 (装備している場合)	21	バッテリー充電の維持	45
		サイドスタンド	49
		Bluetooth コントロールユニット	51
		ステアリングダンパー	53
		フロントフォーク調整	54
		リアショックアブソーバーの調整	55
一般情報	26		
取扱説明書内で使用される頭字語および略語	26	運転時に必要なコマンド	56
本マニュアルで使用されている警告シンボル	26	コマンド類の配置	56
用途	27		
ライダーの義務	27		

スイッチ類.....	57	インストルメントパネル(ダッシュボ	91
ライトコントロール.....	60	ード).....	91
キー.....	64	インストルメントパネル.....	92
イグニッションスイッチ/ステアリングロック.....	66	警告灯.....	96
PIN Code による車両の解除.....	67	画面上の主要要素.....	101
クラッチレバー.....	68	インタラクティブメニューと情報表示.....	108
スロットルグリップ.....	69	Riding Mode.....	111
フロントブレーキレバー.....	70	エンジン回転数表示.....	113
リアブレーキペダル.....	71	パラメーターとクイックレベル変更メニュー.....	116
ギアチェンジペダル.....	72	Lap.....	123
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整.....	73	ヒートッドグリップ (装備している場合).....	125
		Setting menu.....	127
運転の方法.....	76	Setting menu - Service.....	131
車両の使用開始時期の慣らし運転.....	76	Setting menu - Riding Mode.....	133
走行前の点検事項.....	77	Setting menu - Riding Mode - DAVC.....	135
ABS 装置.....	79	Setting menu - Riding Mode - DAVC - DTC.....	141
エンジンの始動/停止.....	80	Setting menu - Riding Mode - DAVC - DWC.....	147
車両の発進.....	84	Setting menu - Riding Mode - DAVC - DSC.....	151
ブレーキ操作.....	85	Setting menu - Riding Mode - Power.....	152
車両の停止.....	87	Setting menu - Riding Mode - ABS.....	158
パーキング.....	88	Setting menu - Riding Mode - EBC.....	163
燃料の補給.....	89	Setting menu - Riding Mode - DQS.....	166
付属アクセサリ.....	90	Setting menu - Riding Mode - Info Mode.....	168
		Setting menu - Riding Mode - DES.....	186
		Setting menu - Riding Mode - Default.....	

Setting menu – Info display	188	ハイビーム/ロービーム電球の交換	264
Setting menu – DRL	191	ターンインジケーター	264
Setting menu – Display setup	193	ヘッドライトの光軸調整	265
Setting menu – PIN Code	198	リアビューミラーの調整	267
Setting menu – Date and time	203	チューブレスタイヤ	268
Setting menu – Lap	210	エンジンオイルレベルの点検	270
Setting menu – Tyre calibration	214	車両の清掃	272
Setting menu – DDA	220	スパークプラグの清掃と交換	274
Setting menu – Turn indicators	222	長期間の保管	275
Setting menu – Language	224	重要注意事項	275
Setting menu – Units	226	車両の運搬	277
Setting menu – Info	232		
ドゥカティパワーローンチ (DPL)	234	メンテナンスプログラム	278
エンジン自動停止	240	メンテナンスプログラム：ディーラーでおこな うメンテナンス	278
警告表示	241	メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメ ンテナンス	283
エラー表示	245		
主な整備作業とメンテナンス	247	テクニカル仕様	284
フェアリングの取り外し	247	重量	284
クーラントレベルの点検および補充	248	サイズ	285
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	249	補給	286
ブレーキパッドの摩耗点検	251	エンジン	288
バッテリーの充電	252	タイミングシステム	290
トランスミッションチェーン張力の点検	258		
チェーンの潤滑	259		

性能データ.....	291
スパークプラグ.....	291
燃料供給.....	291
ブレーキ.....	291
トランスミッション.....	292
フレーム.....	293
ホイール.....	293
タイヤ.....	293
サスペンション.....	294
エキゾーストシステム.....	295
カラーバリエーション.....	295
エレクトリカルシステム.....	296

オープンソースソフトウェア.....	301
オープンソースソフトウェアに関する情報.....	301

EU 適合宣言書.....	302
EU 適合宣言書.....	302

ソフトウェアのアップデート

インストールして、利用可能なアップデートに関する情報を確認するようにしてください。

ソフトウェアのアップデート

一部の車両構成部品には、ソフトウェアによって管理されるもの、またはソフトウェアの使用が想定されているものがあります。このようなソフトウェアはアップデートの対象であり、アップデートを必要とする場合があります。

- 車両の安全性を保証するために必要なアップデートは Ducati から通知され、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- 車両の適合性を維持するために必要なアップデートの情報は Ducati ウェブサイトに公開され、車両購入日から2年間、または保証期間中(車両に有効な場合)、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- ソフトウェアの更なるアップデートや新バージョンについては、本オーナーズマニュアルに記載されている車両の定期点検プログラムに則った点検作業を実施する Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。

Ducati ウェブサイトのアップデートに関するセクションを定期的にご覧になり、My Ducati アプリをインス



警告

車両の法的な適合性および保証 (有効な場合) を維持するために、お客様は、利用可能なアップデートを、当該アップデートの重要性も考慮して、可能な限り速やかに、いずれの場合も合理的な期間内にインストールするものとします。合理的な期間内にアップデートがインストールされなかった場合、アップデートがインストールされなかったことに起因する適合性または安全性の欠如について、Ducati は一切の責任を負いません。

インフォテインメント

インフォテインメント (搭載している場合)

Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合は、インフォテインメントシステムが作動します。車両に搭載されているインフォテインメントシステムでは、スマートフォン、ライダーインターコム、パッセンジャーインターコム、衛星ナビゲーターなどの Bluetooth デバイスを介して接続し、電話の発着信の管理や、スマートフォンでの音楽再生が可能です。

- Bluetooth デバイスのペアリングと操作に関しては、ページ 11 を参照してください。
- 音楽プレーヤーの操作に関しては、ページ 18 を参照してください。
- 着信の応答とコンタクトの管理に関しては、ページ 21 を参照してください。



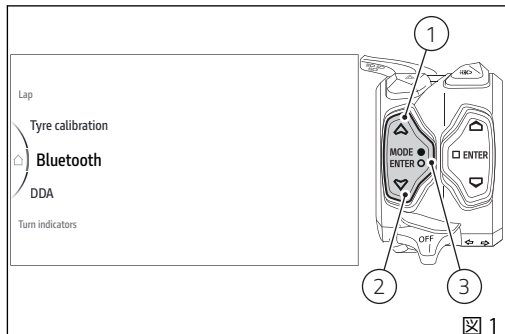
警告

Ducati は、特に人気のある最新スマートフォンの多くのモデルについてテストを行っていますが、スマートフォンメーカーが採用する OS や技術の選択は、Ducati の管理下にあるものではありません。そのため、すべての市販のスマートフォンおよびそのソフトウェア、ファームウェアでの動作を保証するものではありません。対応するスマートフォンや OS の確認は、Ducati ウェブサイトをご覧ください。

Bluetooth デバイスのペアリングと操作(装備している場合)

この機能は Bluetooth コントロールユニットが搭載されている場合にのみ利用することができ、既にペアリング済みの Bluetooth デバイスの管理やその他のデバイスの追加を行うことができます。

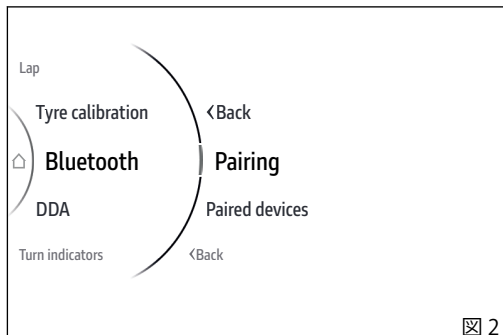
- インタラクティブメニュー (ページ 101 を参照) からボタン (1) とボタン (2) を使用して「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Bluetooth」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



「Pairing (ペアリング)」と「Paired devices (ペアリング済みデバイス)」が表示されます。

- 「Pairing」では、新しいBluetooth デバイスをペアリングします。
- 「Paired devices」では、ペアリング済みデバイスの表示と削除を行います。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。



Pairing

新しい Bluetooth デバイスをペアリングします。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Bluetooth」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Pairing (ペアリング)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

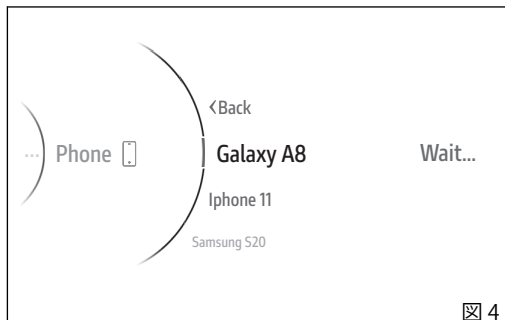
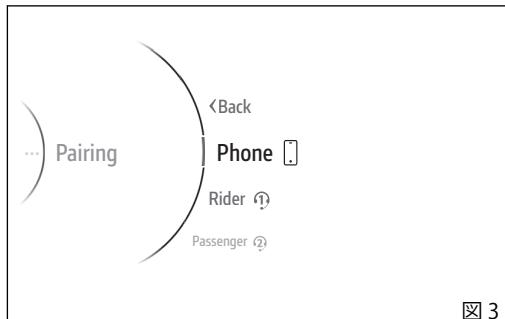
ペアリング可能なスマートフォン、ライダーヘッドセット、パッセンジャーヘッドセット、衛星ナビゲーターの4つのデバイスタイプが表示されます(図3)。

ボタン(1)および(2)を使用して、ペアリングするデバイスタイプを選択します。「ENTER」(3)を押して決定し、デバイス検索を開始します。

インストルメントパネルが周囲の Bluetooth デバイス検索を開始します。「Wait…(お待ちください)」の文字が表示され、検出されたデバイスが表示されます。検索が終了すると、検出された全デバイスがリスト表示されます(図4)。

ボタン(1)とボタン(2)で希望のデバイスを選択し、「ENTER」ボタン(3)を押します。

Bluetooth デバイス側の検証待ちの間は、画面の右側に「Pairing…(ペアリング中)」と表示されます。スマ



ートフォンとのペアリングする場合は、インストールメントパネルとスマートフォンの画面にペアリングコードと確認要求が表示されます。ペアリングを続行するには両方のデバイス上でコードを承認します。

コードを確認すると、デバイスのペアリングが正常に完了した場合は、右側に「Paired (ペアリングされました)」と数秒間表示されてから、前のメニュー画面に戻ります。「Pairing error (ペアリングエラー)」と表示された場合は、もう一度ペアリング手順を実行できません。



参考

最大スマートフォン2台、ライダーヘッドセット1台、パッセンジャーヘッドセット1台、衛星ナビゲーター1台をペアリングできます。

新規に1台のスマートフォン、ヘッドセット、ナビゲーターのいずれかをペアリングするには、先にペアリング済みのデバイスを削除する必要があります(「Paired devices」をご覧ください)。

Paired devices

この機能では、ペアリング済みのBluetoothデバイスの表示と削除を行います。



参考

最大スマートフォン2台、ライダーヘッドセット1台、パッセンジャーヘッドセット1台、衛星ナビゲーター1台をペアリングできます。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Bluetooth」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Paired devices (ペアリング済みデバイス)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

ペアリング済みデバイスのリストが表示されますので(図5)、ボタン(1)とボタン(2)を使用して目的のデバイスを選択し、「ENTER」(3)を押します。

右側に「Delete? (消去しますか)」と表示され(図6)「ENTER」(3)を押して選択したデバイスをリストから消去します。その後、「Wait… (お待ちください)」と数秒間表示されてから、ペアリング済みデバイスのリストが更新されます。

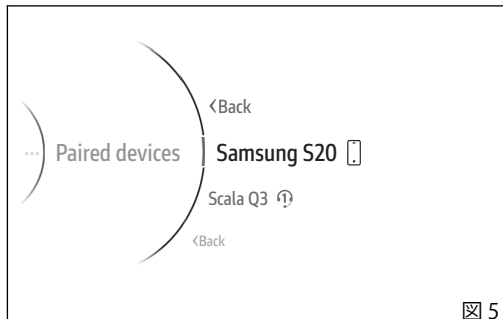


図5

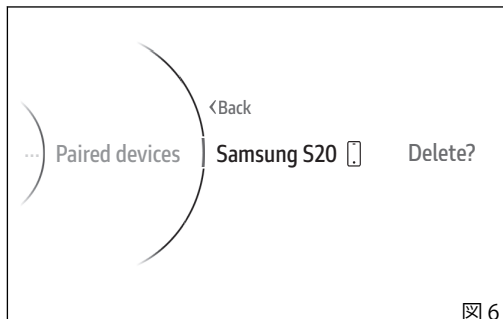


図6



参考

ペアリングされているデバイスがない場合は、「No device」と表示されます。



警告

Bluetooth スマートフォンおよびヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります (スマートフォン、ヘッドセット)。



警告

Ducati はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth スマートフォンおよびヘッドセット (音楽共有、マルチメディア再生など) の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン (Bluetooth 対応プロファイルによる) に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- 1) 市販されているヘッドセットとスマートフォンの全機種
- 2) 規定の Bluetooth プロファイルをサポートしていないスマートフォン



警告

Ducati は、特に人気のある最新スマートフォンの多くのモデルについてテストを行っていますが、スマートフォンメーカーが採用する OS や技術の選択は、Ducati の管理下にあるものではありません。そのため、すべての市販のスマートフォンおよびそのソフトウェア、ファームウェアでの動作を保証するものではありません。対応するスマートフォンや OS の確認は、Ducati ウェブサイトをご覧ください。

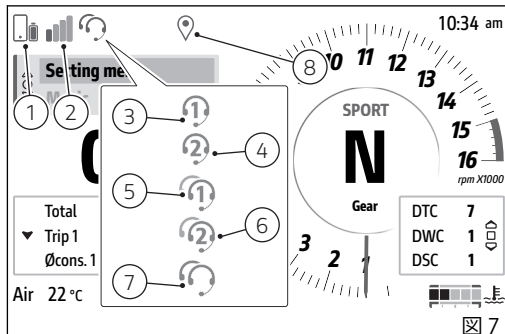
スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

ペアリング済み Bluetooth デバイスのアイコン
ペアリングが完了すると、Bluetooth デバイスは次の
ように表示されます。

- 1) 接続スマートフォンと充電レベル
- 2) 接続スマートフォンの電波強度
- 3) 接続ライダーインターコム
- 4) 接続パッセンジャーインターコム
- 5) 接続ライダーインターコムとペアリング済みパッセンジャーインターコム
- 6) ペアリング済みライダーインターコムと接続パッセンジャーインターコム
- 7) 接続ライダーインターコムと接続パッセンジャーインターコム
- 8) 接続ナビゲーター

接続されているデバイスは水色のアイコンで表示されます。一方、接続されていないペアリング済みデバイスはグレーのアイコンで表示されます。



音楽(ある場合)

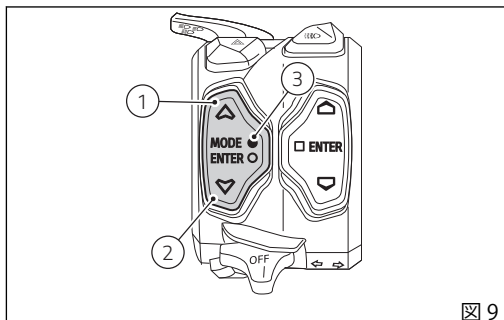
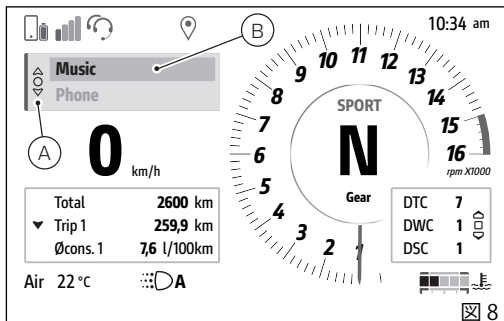
この機能はBluetoothコントロールユニットが搭載されている場合にのみ利用することができます。この機能はインタラクティブメニュー(ページ101参照)内のInfo Mode Road(ページ96参照)にあり、音楽プレーヤーの起動、停止、操作を行います。スマートフォンがBluetooth接続されている場合にのみ利用できません。

Bluetoothのペアリング手順については、「Bluetoothデバイスのペアリングと操作」(ページ11)の章を参照してください。

- ボタン(1)を長押しして、インタラクティブメニュー(A)を選択します。
- ボタン(1)とボタン(2)で「Music」を選択し(B)、「ENTER」(3)を押します。

参考

Bluetooth接続されているスマートフォンで音楽が再生されます。ライダーとパッセンジャーのインターコムをインストルメントパネルに接続している場合は、インターコムから音楽が流れます。





警告

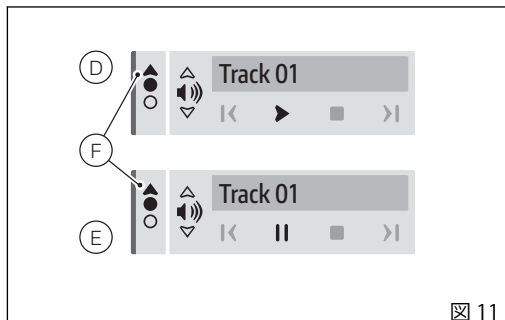
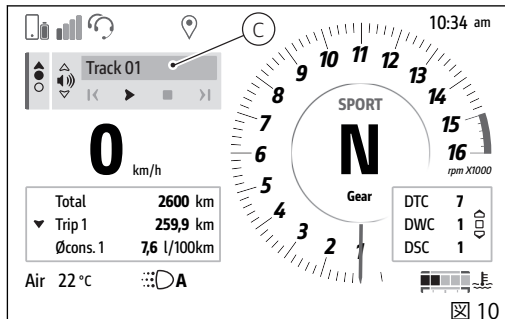
Ducati は、特に人気のある最新スマートフォンの多くのモデルについてテストを行っていますが、スマートフォンメーカーが採用する OS や技術の選択は、Ducati の管理下にあるものではありません。そのため、すべての市販のスマートフォンおよびそのソフトウェア、ファームウェアでの動作を保証するものではありません。対応するスマートフォンや OS の確認は、Ducati ウェブサイトをご覧ください。

プレーヤーウィンドウが表示され(C)、音楽プレーヤーの操作類と現在再生中の曲が表示されます。この機能に入ったときに曲が再生中でない場合は、再生コマンドがアクティブになっているウィンドウ(D)が、そうでない場合は一時停止コマンドがアクティブになっているウィンドウ(E)がプレーヤーウィンドウに表示されます。

- ボタン(1)とボタン(2)を短く押すと、音量を増減することができます。
- 「ENTER」ボタン(3)を短く押すと、以下の操作類をスクロールして選択することができます。選択した操作を決定するには「ENTER」ボタン(3)を長押しします。
 - ◀ 前の曲へ移動
 - ▶ 再生 / || 一時停止
 - ■ 停止
 - ▶ 次の曲へ移動

曲の再生中は上向き矢印(F)が表示され、ボタン(1)を長押しすると、曲を再生したまま音楽プレーヤーの画面からメイン画面の別のメニューに切り替えることができますことを示します。

停止コマンド■を選択して「ENTER」ボタン(3)を長押しすると、曲の再生を停止して音楽プレーヤーウィンドウを閉じます。



電話 (装備している場合)

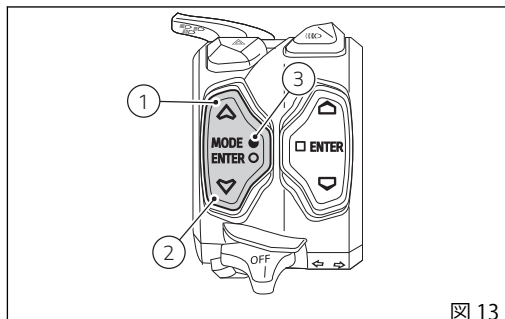
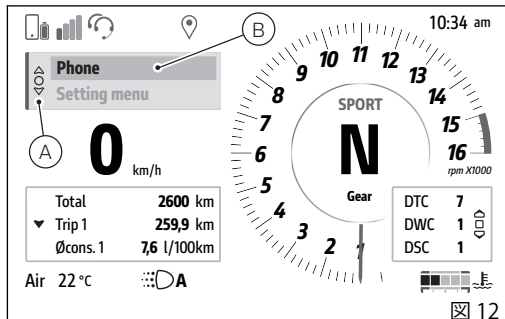
この機能はBluetoothコントロールユニットが搭載されている場合のみ利用することができます。この機能はインタラクティブメニュー (ページ101参照) 内にあり、最近の不在着信、発信、着信の通話履歴を7件表示します。スマートフォンがBluetooth接続されている場合にのみ利用できます。

Bluetoothのペアリング手順については、「Bluetoothデバイスのペアリングと操作」(ページ11)の章を参照してください。

- ボタン(1)を長押しして、インタラクティブメニュー(A)を選択します。
- ボタン(1)とボタン(2)で「Phone(電話)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

警告

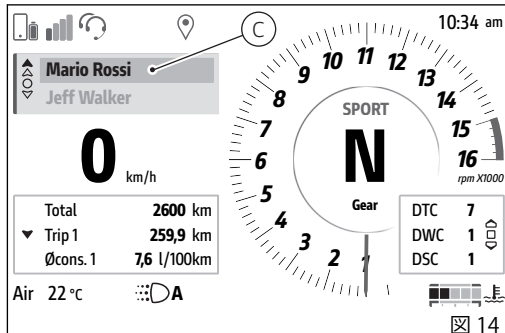
⚠️ Ducatiは、特に人気のある最新スマートフォンの多くのモデルについてテストを行っていますが、スマートフォンメーカーが採用するOSや技術の選択は、Ducatiの管理下にあるものではありません。そのため、すべての市販のスマートフォンおよびそのソフトウェア、ファームウェアでの動作を保証するものではありません。対応するスマートフォンやOSの確認は、Ducati ウェブサイトをご覧ください。



ウィンドウが表示され(C)、直前7件の通話(発信、着信、不在着信)の履歴が表示され、また「Back」の項目が表示されます。履歴中に同じ電話番号や連絡先が存在する場合は、1度だけ表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して、通話一覧をスクロールすることができます。「ENTER」ボタン(3)を押すと、履歴内の選択した電話番号や連絡先に通話を発信できます。

ウィンドウを閉じて前の表示に戻るには、ボタン(1)を長押しするか、「Back(戻る)」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。



通話中

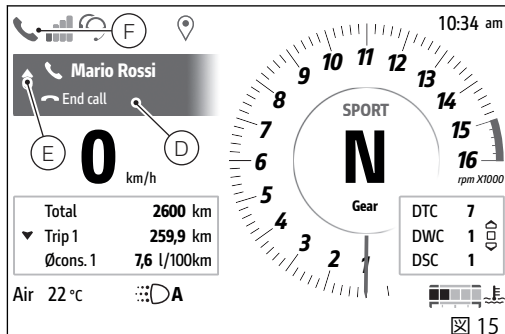
通話中は、通話相手の名前または電話番号と、「End call (通話終了)」の項目がウィンドウで表示されます (D)。「ENTER」ボタン (3) を押して通話を終了します。通話中は上向き矢印 (E) が表示され、ボタン (1) を長押しすると、通話中の画面からメイン画面の別のメニューに切り替えることができることを示します。また、電話アイコン (F) が青色で表示され、通話中であることを示します。

通話中の画面 (D) に戻るには、インタラクティブメニューの「Phone (電話)」(B、図 12) を選択し、「ENTER」(3) ボタンを押してください。



参考

通話中は、音楽プレイヤーは一時停止されます。



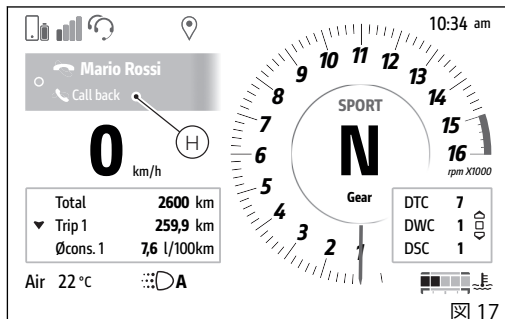
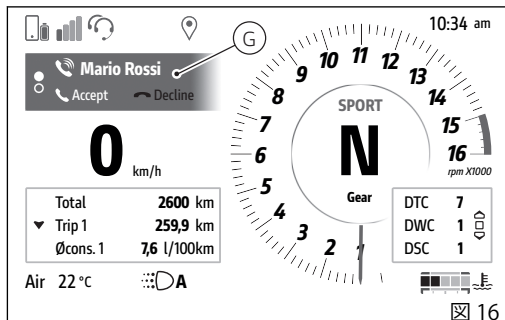
着信

着信が入ると、発信者の名前または電話番号と、「Accept (応答)」と「Decline (拒否)」の項目がウィンドウに表示されます (G)。

この場合、「ENTER」ボタン (3) を短く押しして「Accept (応答)」または「Decline (拒否)」を選択し、「ENTER」ボタン (3) を長押しして選択を決定します。

Call back (リダイヤル)

通話終了時や着信拒否後は、名前または電話番号と「Call back (リダイヤル)」の項目がオレンジ色のウィンドウで5秒間表示されます (H)。「ENTER」(3) を押しすと、通話が発信されます。



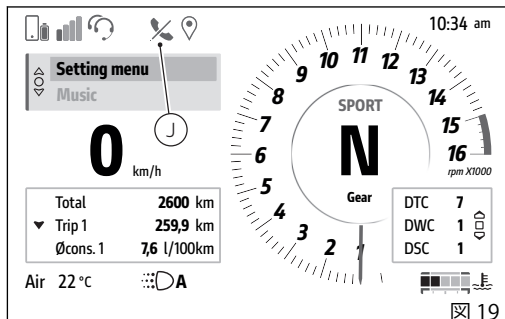
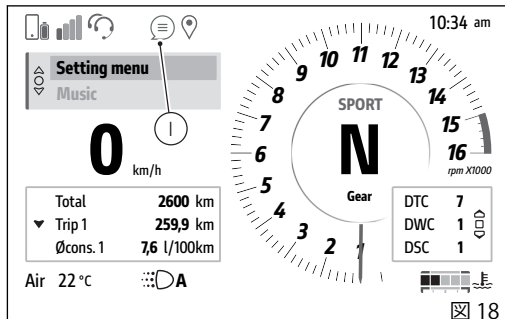
受信メッセージと不在着信

接続スマートフォンでメッセージを受信した場合や不在着信があった場合は、それぞれマーク (I)、(J) が 60 秒間ディスプレイに表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。



参考

受信メッセージや不在着信の相手先番号は表示されません。



一般情報

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS	アンチロックブレーキシステム
DDA	ドゥカティデータアナライザー
DES	ドゥカティエレクトロニックサスペンション
DPL	ドゥカティパワーローンチ
DQS	ドゥカティクイックシフト
DRL	デイトタイムランニングライト
DSB	インストルメントパネル
DSC	ドゥカティスライドコントロール
DTC	ドゥカティトラクションコントロール
DWC	ドゥカティウィリーコントロール
EBC	ドゥカティエンジンブレーキコントロール
GPS	グローバルポジショニングシステム

IMU

慣性計測ユニット

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ



警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーや他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。



重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。

警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。

警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

警告

車両総重量が絶対に 199 kg / 438.72 lb を超えないようにしてください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を所持していなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。



警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないでください。



警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。



警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。



警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。



警告

事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。



警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されていることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。



警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、バックプロテクター、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5本指のもの、また指にはナックルプロテクターと補強を備えた規格適合品を着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアングルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- バックプロテクターは、メーカーの仕様に応じて、ライダーの体格に合ったサイズの規格適合品を着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付

いている規格適合品を着用してください。規格適合プロテクターを備えた製品を選ぶようにしてください。



重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。



重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

"安全のための""ベストプラクティス""

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。



重要

慣らし運転期間中は、本冊子の"使用規定"の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。



警告

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

エンジンを始動する前に、本冊子の「エンジン始動前の点検」の章で定める点検を必ず実施してください。



警告

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーに重大な傷害を招くおそれがあります。



警告

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ってください。



重要

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。



警告

走行中、ライダーは必ず足をペダルに乗せてください。



重要

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。



重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。



重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。



重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。



警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。エンジンとエキゾーストシステムが高温の間は、カバーシートが破損するおそれがありますので、バイクをカバーしないでください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。

給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。



警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。



警告

燃料は非常に引火しやすいため、間違っても衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとっても重要です。

警告

最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要

バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

"チューブレスタイヤ"の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレングリコール)は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは

加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリーを充電する際は、作業エリアが適切に換気されていること、気温が40° C (104° F)を下回っていることを確認してください。バッテリーは開けないでください。本バッテリーには酸性液やその他の液体を充填する必要はありません。

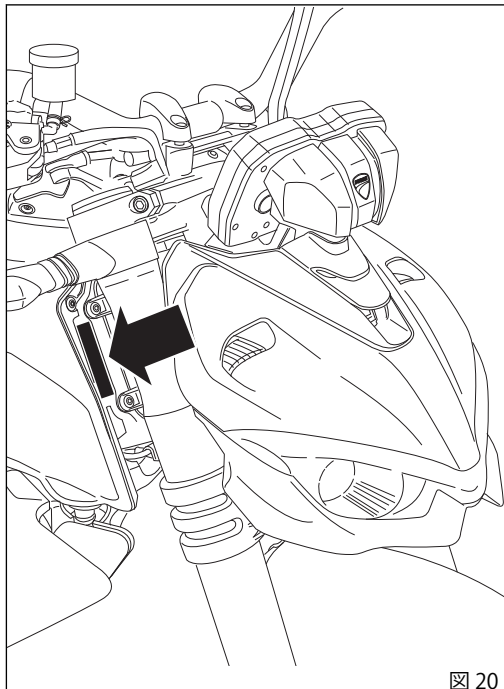
車両識別番号

フレーム識別番号は、車両フロント右側、右側フォークレグとウォーターリザーバータンク近くに設けられています。



参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

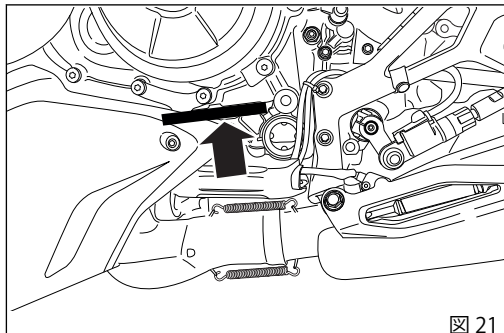


エンジン識別番号

参考

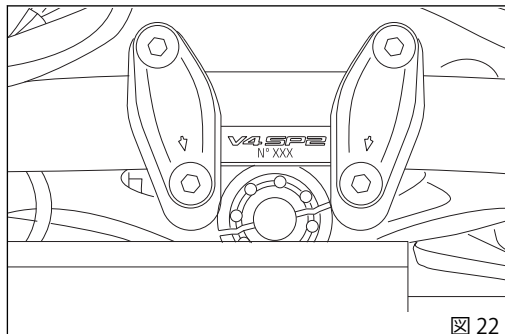
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

エンジン識別番号は車体フロント左側、ジェネレーターカバーとキャニスターフィルター付近の水平シリンダー下側に設けられています。



シリアル番号

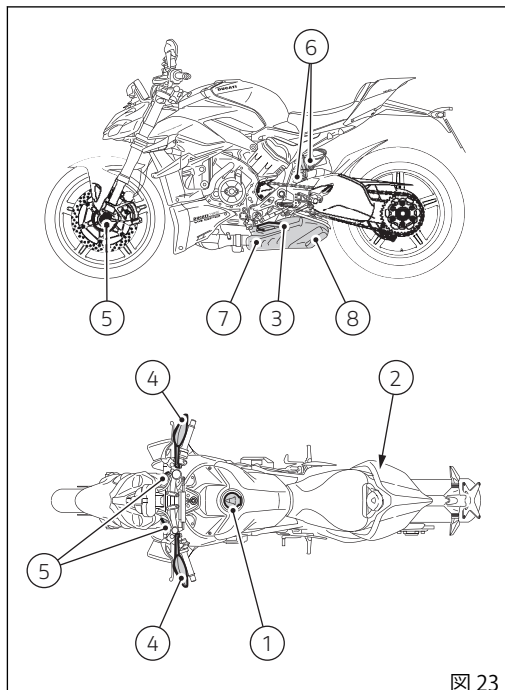
本モデルはその特殊性から、限定数のみの生産となっております。各モーターサイクルは、ハンドルバーに印されているシリアル番号とモデル名で識別されます。



主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) リアビューミラー
- 5) フロントフォークアジャスター
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒システム (両側)
- 8) エキゾーストサイレンサー (両側)



燃料フィルタープラグ


開け方

- 保護カバー (1) を持ち上げ、キーをロックに挿入します。
- キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。
- フィラープラグ (2) を起こします。


閉じ方

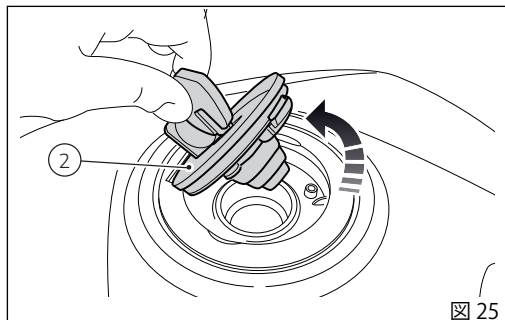
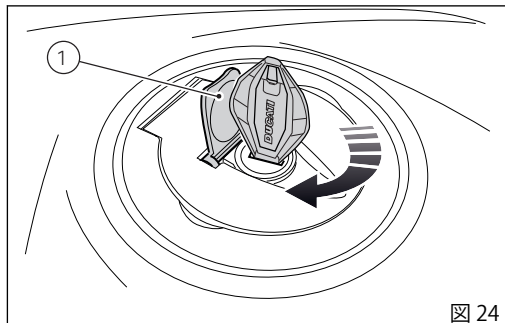
- キーを差し込んだ状態でプラグ (2) を閉じ、プラグを押します。
- キーを抜き取り、保護カバー (1) を閉じます。

参考

 キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告

 燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。



シートの取り外しおよび取り付け

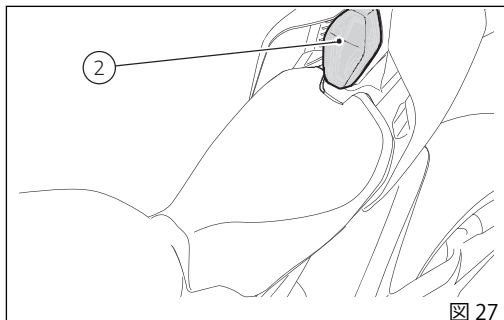
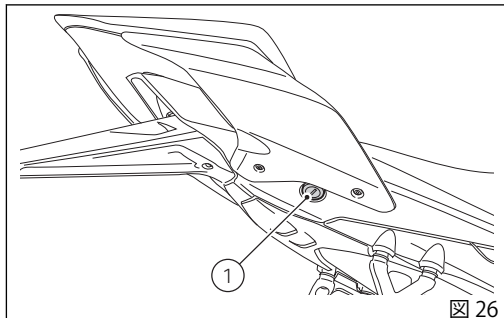
六角レンチを取り出すには、ロック(1)を操作し、背もたれ(2)を取り外してテールボックスにアクセスします(「付属アクセサリー」参照)。

背もたれの取り外し

- 鍵穴(1)にキーを差し込みます。
- カチッと音が鳴りパッセンジャーシート(2)のロックが外れるまで、キーを時計回りに回します。
- 背もたれ(2)を車両の前方に抜き取ります。

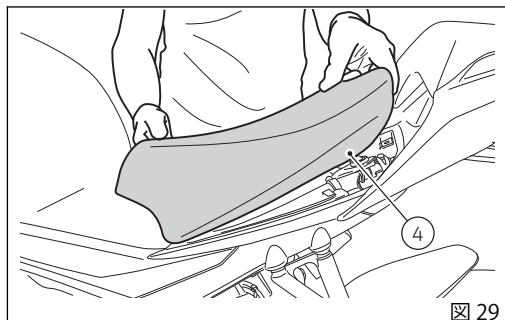
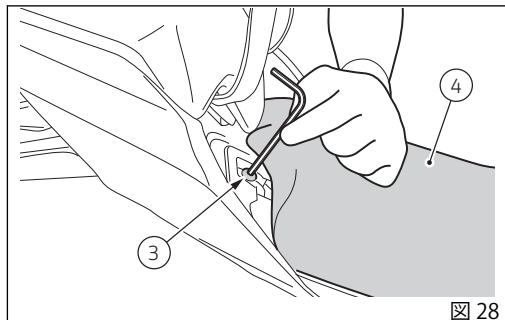
背もたれの取り付け

- 鍵穴(1)にキーを差し込みます。
- キーを時計回りに回し、背もたれ(2)を所定の取り付け位置に戻します。
- キーを抜いて、背もたれがロックに正しく固定されていることを確認してください。



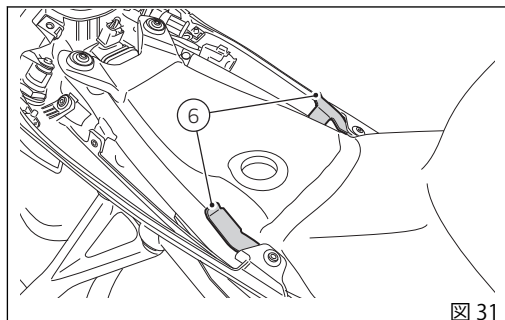
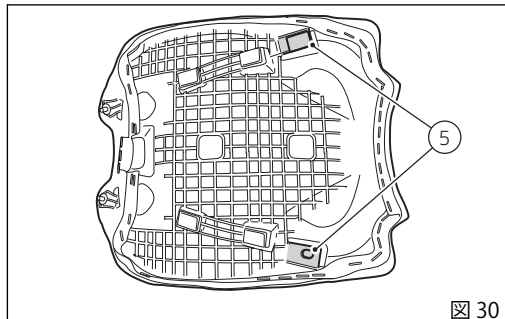
シートの取り外し

- テールボックスに付属の六角棒レンチを使用して、シート(4)の両側にある2本のスクリュー(3)を緩めて外します。
- 車両の後方からシートを抜き取ります。

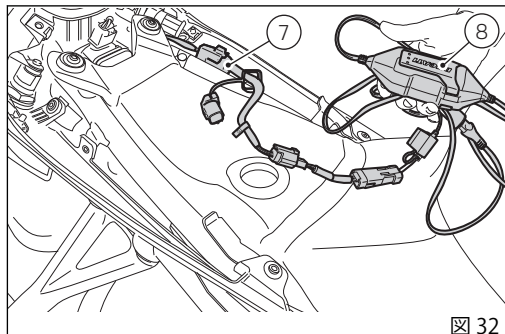


シートの取り付け

- 先にシートのブラケット(5)をフレームのブラケット(6)に挿入し、次にシート後部をフレームに乗せてシートを取り付けます。
- シート(4、図28)の後端を持ち上げ、スクリュー(3、図28)を締め付けて固定します。
- シートの前部を持ち上げてみて、正しく取り付けられていることを確認してください。



シートを取り外すと、バッテリーメンテナー接続用コネクタ(7)にアクセスできます。使い方は「バッテリー充電の維持」の記載に従い、コネクタを抜いてバッテリーメンテナー(8)に接続してください。



バッテリー充電の維持



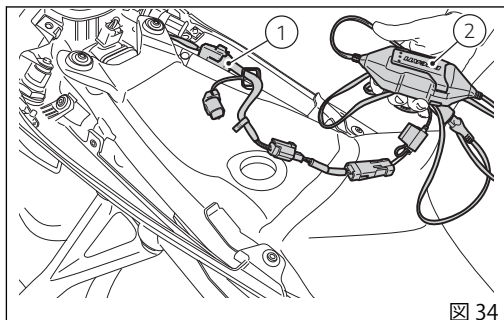
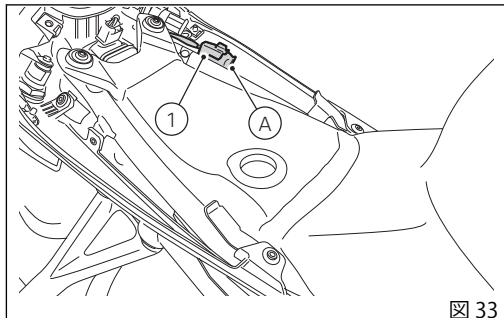
警告

本車両の電気システムは、エンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

本車両のライダーシート下にはコネクタ(1) (診断ソケット)が装備されています。このコネクタには専用バッテリーチャージャー(2)を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社の販売店にてお求めいただけます。

使用するには、「シートの取り外しおよび取り付け」の記載に従ってライダーシートを取り外す必要があります。

タブを押してコネクタ(1)の底部からキャップ(A)を抜き取り、コネクタをバッテリー充電器(2)に接続します。



警告

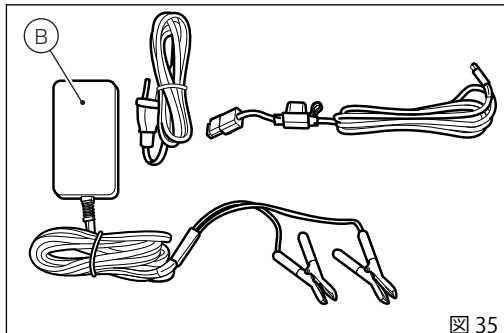
バッテリーメンテナーとして使用する場合にも、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器 (B) を使用してください。

バッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601A (各国) またはバッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601AX (日本、中国、オーストラリア) は鉛バッテリー専用ですので、絶対に使用しないでください。

バッテリー充電器/メンテナー (B) を使用してバッテリー電圧の最小値が維持されず電圧値が8Vを下回ると、バッテリーが影響を受けるおそれがあります。

参考

Ducati 純正リチウム電池用バッテリー充電器以外のバッテリーメンテナーや充電器を使用すると、車両の電気システムやリチウムバッテリーに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。



重要

リチウム電池を搭載する車両については、エンジンを始動できないレベルまでリチウム電池が放電した場合に、ジャンプスターターやリチウム電池に並列に接続する補助バッテリーなどの装置は絶対に使用しないでください。ジャンプスターターとの接続や充電されたバッテリーとの並列接続などにより無制限の電流で充電すると、深放電を起こしているリチウム電池のセルに修復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

車両を使用しない期間 (およそ30日以上)、Ducati バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット) の

使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大1.5 A/hです。バッテリーメンテナーを診断ソケットに接続します。

低温時のエンジンの始動手順



重要

車両は、リチウムイオンバッテリーを搭載しています。リチウム電池は、軽量、自己放電電流が少ない、鉛バッテリーより始動電流が大きい、充電が早いなどの利点があるのは疑いの余地はありません。注意点として、8 ボルトを絶対に下回らないようにしてください。そうしないと、修復不可能な損傷を受けることとなります。

リチウムバッテリー - 低温時のエンジンの始動手順 (0°C、32° F 以下)

この手順により、バッテリーを予熱して、低温でのエンジン始動段階でより良い電流を確実に供給することができます。

この車両には低温 (0°C 以下) での性能が保証されているリチウムイオンバッテリーが搭載されていますが、これはバッテリー自体を暖めることで保証されます。この暖機は、例えばハイビームライトを数分間 (3 ~ 5 分) 点灯させるなどして、バッテリーに電流を供給することで行われます。

このことは、バイクを長時間 (一晩など) 極めて低い温度の環境に放置した場合に必要です。特に低温 (<

0°C、32° F) で始動する場合は、エンジンを始動する前に以下の手順を実施することをお勧めします。

- 1) 車両を KEY-ON にします
- 2) 車両のハイビームライトを 3~5 分点灯させます
- 3) ハイビームライトのスイッチを切ります
- 4) エンジンがかかるまでスターターボタンを押し続けて、エンジンを始動させます (モーターは最大 5 秒間作動します)。

気温が -5° C (23° F) 以下の場合、または最初の始動に失敗した場合、2 回目のエンジン始動を試みる前にステップ 1 から手順を繰り返してください。

サイドスタンド

⚠ 重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確認してください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

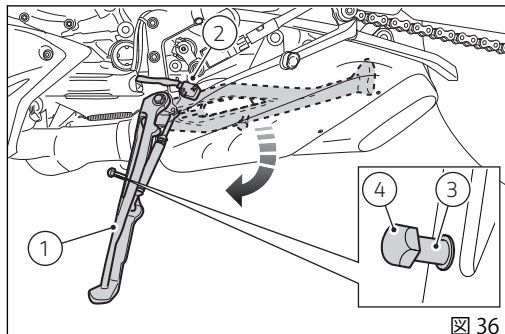
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。

次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

開く段階でサイドスタンドを探しやすくするには、足でピン(3)を押します。

⚠ 警告

車両をサーキットでスポーツ目的に使用する場合、レンチ(4)を使用してピン(3)を取り外すことをお勧めします。



サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

⚠ 警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。



参考

定期的にスタンド(内側と外側2つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態ではエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください(この時サイドスタンドは上がっていない必要があります)。


Bluetooth コントロールユニット

車両にはBluetooth コントロールユニットを装備することができます。これによりBluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。


Bluetooth コントロールユニットは本車両に装備されておりません。Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

警告

Bluetooth スマートフォンおよびヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

 **警告**
ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetooth ヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth 対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット(部品番号：981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン("Ducati キット 部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

 **警告**
外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット(部品番号：981029498)ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができません(詳しくはDucati キット(部品番号：981029498)に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。



参考

Ducati キット (部品番号： 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。



警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット



参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

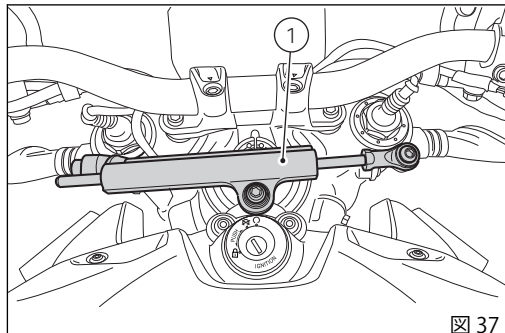
ステアリングダンパー

ステアリングダンパー (1) はハンドルバーの前にあり、ステアリングヘッドに固定されています。このダンパーがステアリングのより正確で安定した操作に貢献し、あらゆるコンディションでの操縦性をアップします。

ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

ライダーが選択したショックアブソーバーのレベルを調整する必要があるイベントは、通常次の2通りしかありません。

- 1) 高頻度の振動 (Wobble) : バイクのステアリングは、衝撃による急激な動きの影響を受けます (例: ウィリー後の着地時)。ステアリングの減衰力を強くしてください。
- 2) 低頻度の横すべり (Weave) : バイクは蛇行運動し、通常大きく横すべりします (例: 高速スピードでの加速時)。ステアリングの減衰力を弱くしてください。



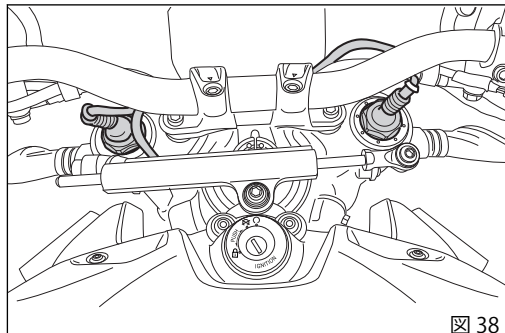
フロントフォーク調整

本車両のフロントフォークはフルアジャスタブルタイプです。

フロントフォークのリバウンドダンピングおよびコンプレッションダンピング調整は、インストルメントパネルからフォークレグ内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

警告

スプリングプリロードの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



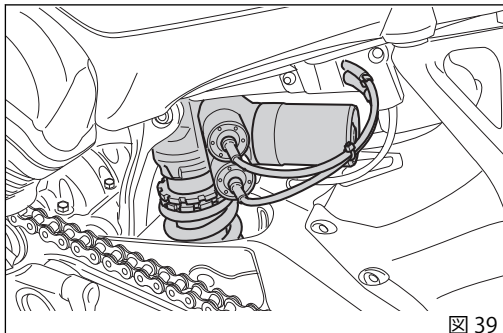
リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。



ショックアブソーバーの調整については、「SETTING MENU - Riding Mode -DES」(ページ 168)の章の記載に従ってください。

調整に関する情報：

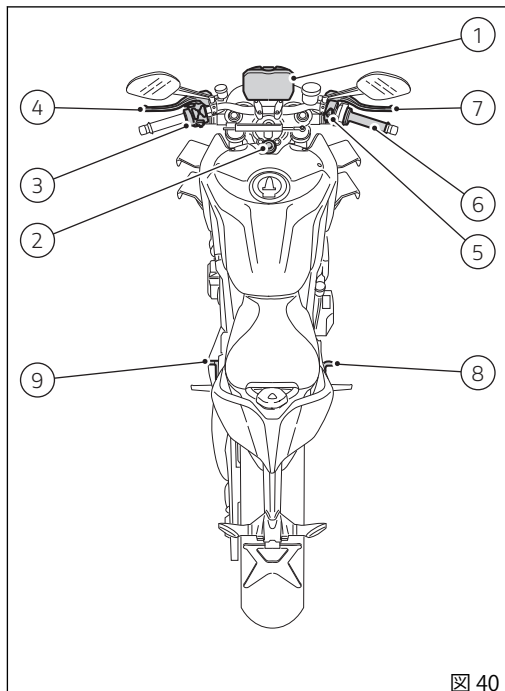
- 1) スプリングプリロード：14 mm (0.55 in)
- 2) スプリング自由長：170 mm (6.69 in)
- 3) スプリング取付長：156 mm (6.14 in)

運転時に必要なコマンド

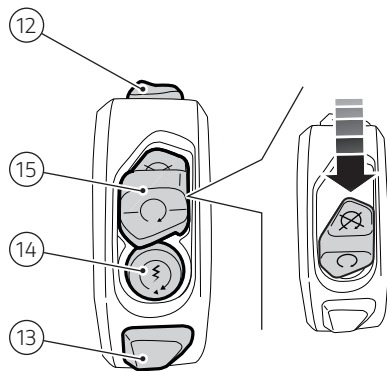
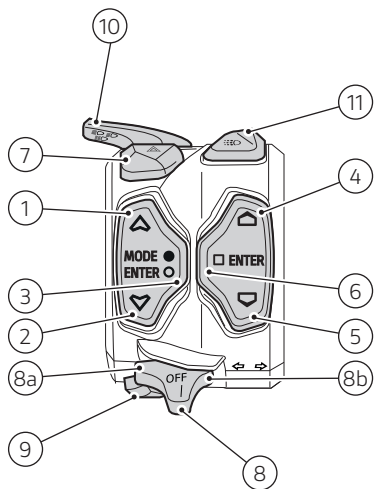
コマンド類の配置












警告 この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。



- 1) インストルメントパネル
- 2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) 右側スイッチ
- 6) スロットルグリップ
- 7) フロントブレーキレバー
- 8) リアブレーキペダル
- 9) ギアチェンジペダル



スイッチ類



1		コントロールボタン UP
2		コントロールボタン DOWN
3	MODE ● ENTER ○	ライディングモード変更と「ENTER」機能ボタン
4		パラメーターメニューのコントロールボタン UP
5		パラメーターメニューのコントロールボタン DOWN
6		パラメーターメニューの選択ボタン
7		ハザードランプ (赤色)
8	 OFF	3 ポジション、ターンインジケーター： <ul style="list-style-type: none"> ● ポジション (8a)、左ターンインジケーター ● 中央、OFF ● ポジション (8b)、右ターンインジケーター
9		警告ホーン
10		ライトセレクター： <ul style="list-style-type: none"> ● ハイビーム、上に押す ● ロービーム、中央位置 ● フラッシュライトと「ラップ Start/Stop」機能、下に押す
11		DRL (装備している場合)
12		ヒートッドグリップ (装備している場合)
13	DPL	ドゥカティパワーローンチ (DPL - Ducati Power Launch)

14		エンジンの始動
15		エンジンの停止、下に押す (赤色)

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームライト

ボタン(1)を使用して、ロービームとハイビームの切替えを行います。

- ポジション(A、前に押す)ハイビームライト
- ポジション(B)ロービームライト

ボタン(1)をポジション(C)に押すと、ライトがフラッシュ(ハイビーム点滅)します。

インストルメントパネルを起動してからエンジンをかけない場合でも、各ライトやフラッシュライトを作動させることはできます。

ただし、ロービーム/ハイビームライトを手動で起動してから60秒以内にエンジンを始動しないと、ライトは消灯します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、エンジン始動時にヘッドライトが自動的に消灯します。エンジンが始動した時点で再び点灯します。

DRLの「Auto」モードーDRL搭載バージョンのみ

DRLを「Auto」モードに設定すると(ページ191参照)、検出された外光の明るさに基づいて、インストルメントがDRLを以下のように自動管理します。

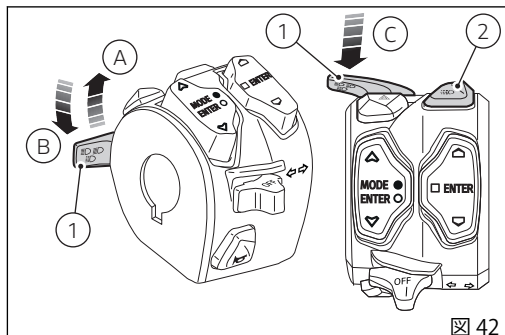


図 42

- 十分な外光が検出されると(昼間)、DRLを点灯してロービームライトを消灯します。
- 十分な外光が検出できない場合(夜間)は、ロービームライトを点灯してDRLを消灯します。

DRLが「Auto」モードで点灯しているときは、該当するランプ(8、図70)が点灯します。ボタン(2、図42)を押すと、DRLが消灯します。もう一度ボタン(2、図42)を押すと、DRLが「Manual」管理モードで再び点灯します。

この場合、次回のインストルメントパネル起動時に、DRLは再び「Auto」モードに設定されます。



警告

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を「Auto」モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームライトを手動で点灯するようにしてください。

DRL の「Manual」モードー DRL 搭載バージョンのみ

DRL を「Manual」モードに設定すると (ページ 191 参照)、ボタン (2、図 42) を押して DRL を消灯・点灯する必要があります。



警告

外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険があるだけでなく、対向車のドライバーにとって眩しく不快に感じさせることがあります。



警告

日中に DRL を使用することで、ロービームライトよりも優れた視界を確保することができます。

ターンインジケータ

インストルメントパネルはターンインジケータの自動リターンを行います。

左ターンインジケータを起動するにはボタン (3) をポジション (D) に押します。右ターンインジケータを起動するにはボタンをポジション (E) に押します。ターンインジケータを解除するには、ボタン (3) を中央位置に戻します。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケータが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケータボタンを操作することにより、車両速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えると作動します。

ターンインジケータは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケータボタンが操作された時の車両速度に応じて、200~2,000メートル (656~6,562 フィート) までの範囲で変化します。ターンインジケータの作動中、ターンインジケータを作動させようとしてターンインジケータボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

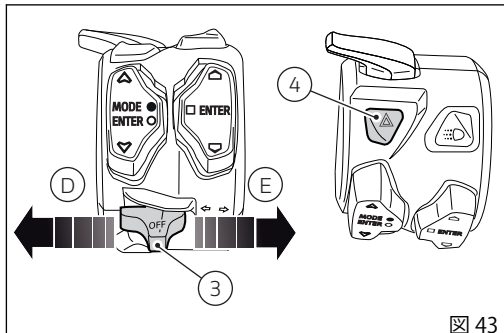


図 43

ターンインジケータ操作を自動モードまたは手動モードに設定する方法は、ページ 222 を参照してください。



警告

自動解除システムは、ライダーがターンインジケータをより快適に操作できるように助ける、ライダー支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケータの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません (必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザードランプ

ハザードランプは、車両が起動している状態(Key-ON)でのみ、赤色ボタン(4、図43)を押して作動または解除が可能です。

ハザードランプ作動中に車両をオフにした場合、ハザードランプは2時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、ハザードランプは2時間後に自動的に消灯します。



参考

ハザードランプが作動しているときにKey-ONを行うと、ハザードランプは作動を続けます。



参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。



参考

ハザードランプは、通常のターンインジケータ機能より優先されます。

キー

車両には2個のキーが付属しています。

キーには"イモビライザーシステムの暗号"が含まれています。

キーは通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告

キーは別々に保管し、車両を使用する際は2本のキーのどちらか一方を使用してください。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducatiアシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。Ducatiアシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。Ducatiアシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただきます場合があります。登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

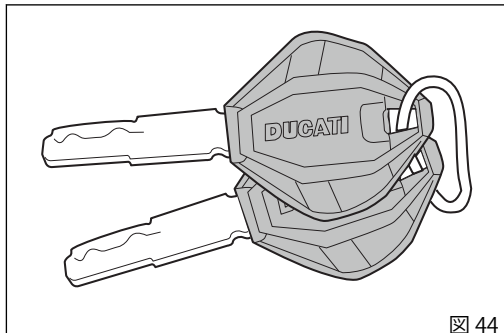


図 44

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる"パスワード"から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

イグニッションスイッチ/ステアリングロック

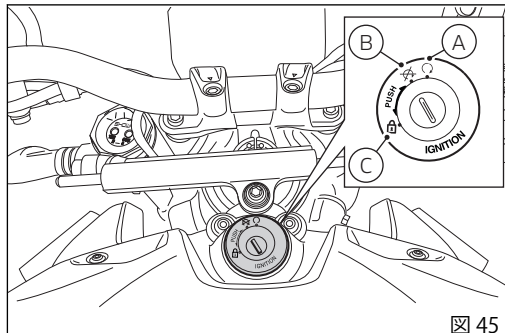
燃料タンクの前にあり、3つのポジションがあります。

- A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
- B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
- C) LOCK : ステアリングロック状態



警告

キーを最後のポジションに合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C)の位置でキーを引き抜くことができます。



PIN Code による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

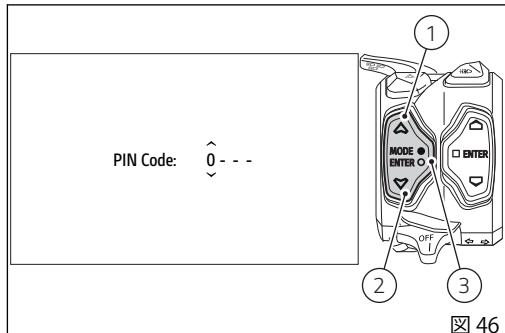
「Setting menu (設定メニュー)」(ページ 198 参照)の「PIN code」機能から PIN Code を有効にしている場合は、インストルメントパネルに「PIN code」の文字と 4 桁の PIN Code 入力スペースが表示されます。

コードの入力：

- 数字の上にある数字は、ボタン (1)、(2) を使用して数字を 0~9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」(3) を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。

4 桁目を入力してから「ENTER」ボタン(3)を押すと、以下のようになります。

- PIN Code の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに「Time out」が 2 秒間表示され、その後メイン画面に戻ります。
- PIN Code が正しくない場合、インストルメントパネルは「Wrong」を 2 秒間表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。



- PIN Code が正しい場合は、インストルメントパネルは「Correct」を 2 秒間表示し、その後メイン画面に戻ります。

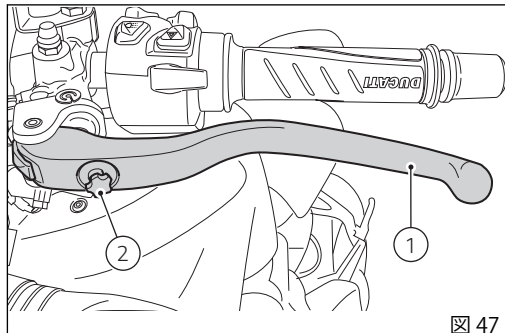


重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

クラッチレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター (2) がついており、レバーとグリップとの間隔の調整が可能です。レバーとハンドグリップとの距離を調整するには、希望するクリック数だけアジャスター (2) を回します。アジャスター (2) を時計回りに回すと、レバーはグリップから離れます。アジャスター (2) を反時計回りに回すと、レバーはスロットルグリップに近づきます。レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

重要

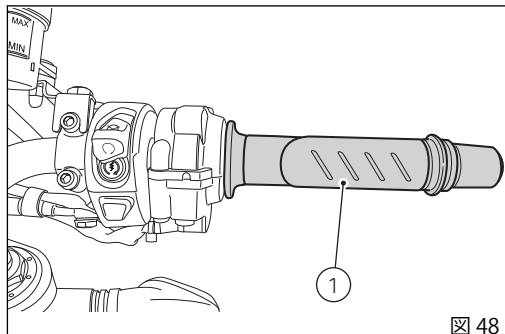
クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態ではエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください (この場合は、ギアを入れる前にサイドスタンドを上げてください)。

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

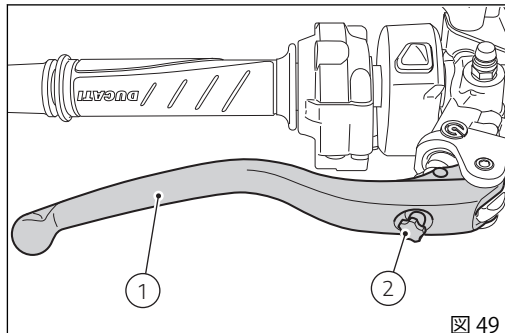


☒ 48

フロントブレーキレバー

調整

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。コントロールレバー (1) には調整用つまみ (2) が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整できます。レバーとハンドグリップの距離を調整するには、希望するクリック数だけアジャスター (2) を回します。アジャスター (2) を時計回りに回すと、レバーはスロットルグリップから離れます。アジャスター (2) を反時計回りに回すと、レバーはスロットルグリップに近づきます。



警告

これらのコマンドを使用する前に"車両の起動および走行"に記載されている内容をお読みください。

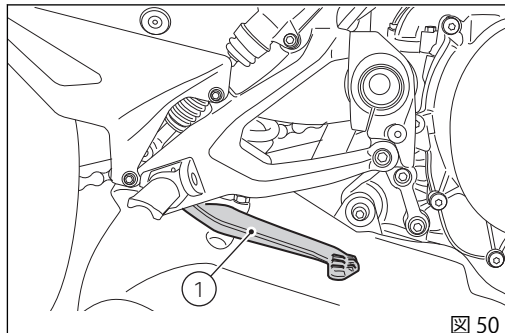
警告

フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル(1)を足で下に押し
してください。

制御システムは油圧式です。



ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダル (1) は中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプ N で表示されます。

ペダルは次のように動かします。

- 下へ＝シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

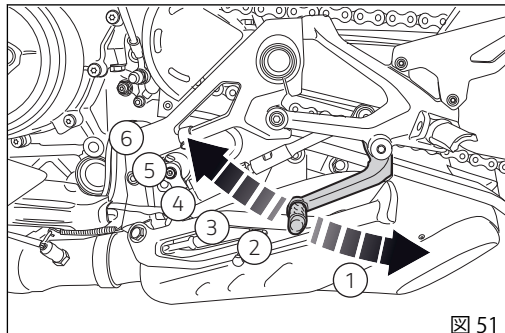


図 51

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

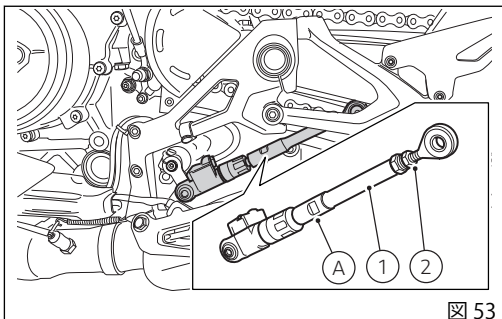
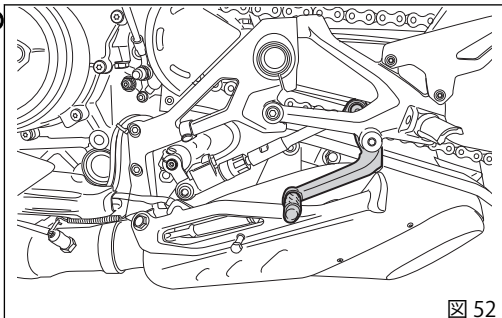
警告

ギアチェンジロッドの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ロッド (1) を所定のキーソケット (A) で固定し、ナット (2) を緩めます。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド (1) の六角部分を回します。

ロッドにナット (2) を締め付けます。



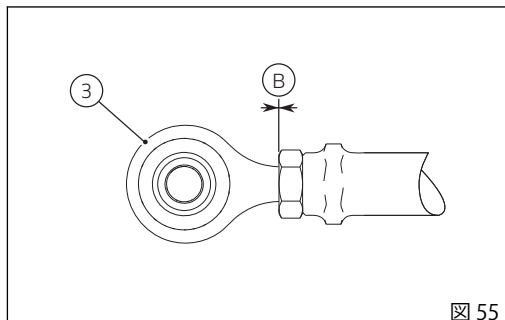
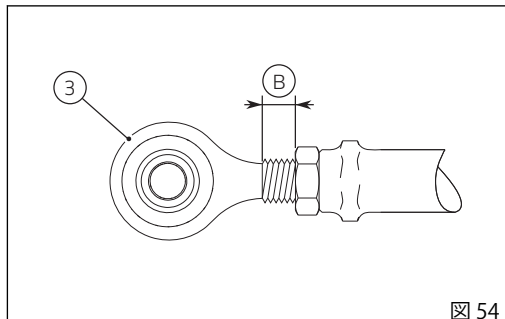
調整が完了したら、ユニボール(3)の緩み値(B)が正しいことを確認します。

ユニボール(3)の緩み値(B)は、最小 $B = 0\text{ mm}$ (0 in) (ユニボールを完全にねじ込んだ状態)～最大 $B = 6\text{ mm}$ (0.24 in) の間になければなりません。



警告

緩み値が規定の範囲内でない場合は、上記の調整作業を最初から繰り返してください。



リアブレーキペダル

ロックナット (7) を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー (6) を回します。ロックナット (7) を締め付けます。

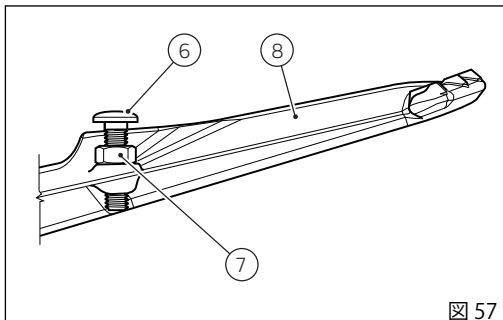
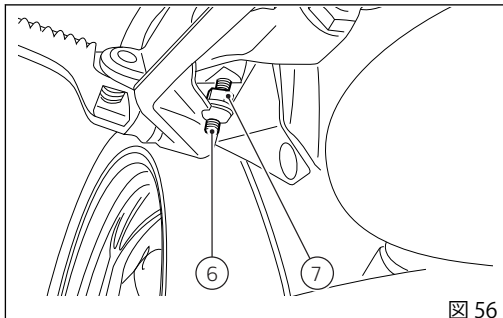
ペダル (8) を手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5~2 mm (0.06~0.09 in) の遊びがあることを確認します。

上記のような遊びが確認できない場合は、マスターシリンダーのロッドの長さを調整します。



警告

ペダルの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



運転の方法

車両の使用開始時期の慣らし運転

慣らし運転期間中は、下表の規定の回転数を超えないでください。

最初の使用期間中は、最高エンジン回転数を超えないこと

1,000 km (621 mi) まで	7,000 rpm
----------------------	-----------

車両の慣らし運転期間中の注意事項：

- 最初の数時間は、表に示された規定回転数の範囲内で、エンジンが温まっている状態で、エンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。
- エンジンが「疲労」しないように、エンジンに「過負荷」がかかる前に必ずギアを下げてください。
- 特に上り坂では、長時間エンジンを高回転に保ち続けしないでください。ギアを上げると、燃料消費量と騒音を低減できます。
- 低速・高速を問わず、一定の速度で長時間運転することは避けてください。

- 特にエンジンが冷えているときは、スロットルを全開にしないでください。
- フルスロットルでの発進や急加速は避けてください。
- 丁寧に慎重にブレーキ操作を行い、急なブレーキングや長い間ブレーキングを避けて下さい。
- 定期的にチェーンを点検し、必要に応じて潤滑してください。



重要

初めて車両をご使用になる前に、リアビューミラーにラベルが付いていないことを確認してください。ラベルが付いている場合ははがしてからご使用ください。

走行前の点検事項

警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください(「燃料の補給」を参照)。
- エンジンオイル量
点検窓からオイルパン内のレベルを点検します。必要であれば補充してください(「エンジンオイルレベルの点検」を参照してください)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
各フルードタンクのフルードレベルを点検してください(「ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検」を参照してください)。
- クーラント量
リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください(「クーラントレベルの点検および補充」を参照)。
- タイヤコンディション
タイヤ空気圧と摩耗度を点検します(「チューブレスタイヤ」を参照)。
- コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

- ランプ類、インジケーター
ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください(「ヘッドライト電球の交換」を参照)。
- ロック類
フィルタープラグのロックを点検します(「燃料フィルタープラグ」を参照してください)。
- サイドスタンド
サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します(「サイドスタンド」を参照)。

警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

エンジンウォーターポンプが正常に作動するためにはベントを必要とします。そのため、クランクケース上部のベント穴から微量の冷却液が漏れることがありますが、冷却システムやエンジン自体の正常な動作に影響を及ぼすことはありません。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

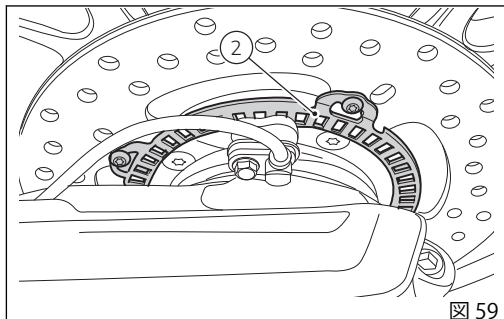
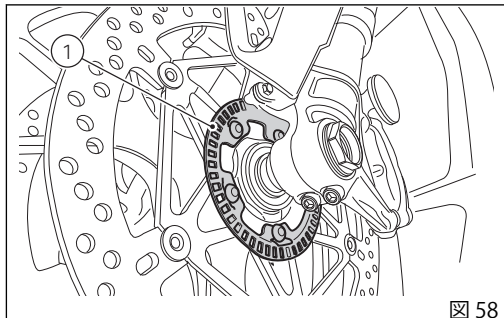
フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。




エンジンの始動 / 停止

警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

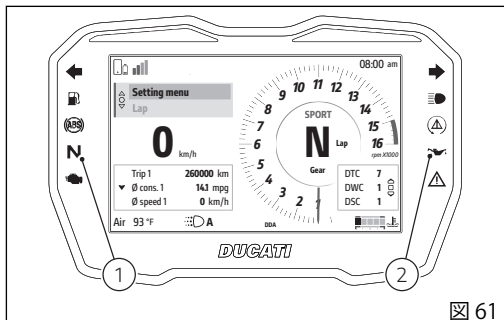
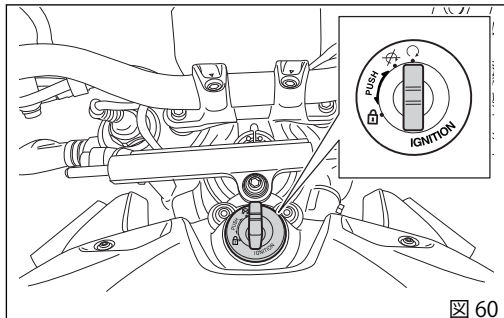
警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

キーを ON の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N (1) と赤のランプ  (2) が点灯していることを確認してください。

重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。





警告

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態ではエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態では始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていません)。



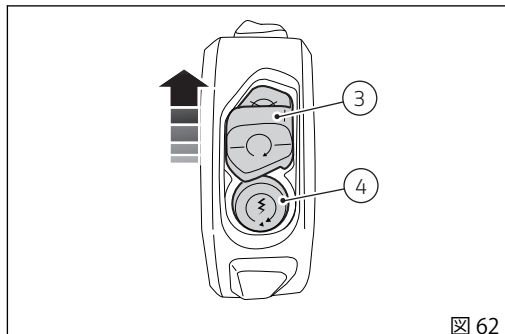
重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。



警告

停車して長時間エンジンをかけたままにしていると、冷却が十分に行えないためにオーバーヒートによる損傷につながるおそれがあります。停車した状態で、不必要にエンジンをかけ続けしないでください。エンジンの始動後は、速やかに発進してください。



右側スイッチの赤色スイッチ (3) を上に動かし、ボタン (4) を押します⁽⁴⁾。この時、スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

低温時のエンジンの始動手順



重要

車両は、リチウムイオンバッテリーを搭載しています。リチウム電池は、軽量、自己放電電流が少ない、鉛バッテリーより始動電流が大きい、充電が早いなどの利点があるのは疑いの余地はありません。注意点として、8 ボルトを絶対に下回らないようにしてください。そうしないと、修復不可能な損傷を受けることとなります。

リチウムバッテリー - 低温時のエンジンの始動手順 (0°C、32° F 以下)

この手順により、バッテリーを予熱して、低温でのエンジン始動段階でより良い電流を確実に供給することができます。

この車両には低温 (0°C 以下) での性能が保証されているリチウムイオンバッテリーが搭載されていますが、これはバッテリー自体を暖めることで保証されます。この暖機は、例えばハイビームライトを数分間 (3 ~ 5 分) 点灯させるなどして、バッテリーに電流を供給することで行われます。


このことは、バイクを長時間 (一晩など) 極めて低い温度の環境に放置した場合に必要です。特に低温 (<

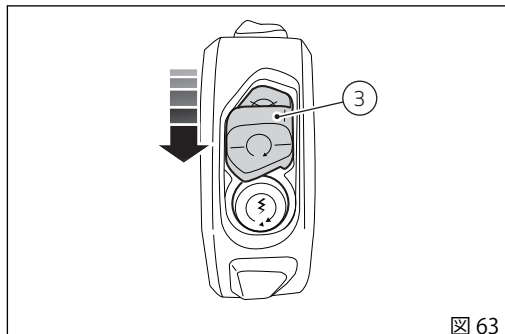
0°C、32° F) で始動する場合は、エンジンを始動する前に以下の手順を実施することをお勧めします。

- 1) 車両を KEY-ON にします
- 2) 車両のハイビームライトを 3~5 分点灯させます
- 3) ハイビームライトのスイッチを切ります
- 4) エンジンがかかるまでスターターボタンを押し続けて、エンジンを始動させます (モーターは最大 5 秒間作動します)。

気温が -5° C (23° F) 以下の場合、または最初の始動に失敗した場合、2 回目のエンジン始動を試みる前にステップ 1 から手順を繰り返してください。

エンジンの停止

スイッチ (3) を下に押し、 (エンジン停止) に合わせ、キーを OFF の位置 (に合わせてエンジンを停止します)。



車両の発進

- 1) サイドスタンドを水平位置まで上げます。
- 2) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
- 3) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 4) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 5) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 6) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。



参考

エンジンがアイドリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECUはリアバンクの2本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー（ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある）の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。この戦略はライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。

続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

本車両が搭載する ABS システムは、車両を倒した状態においても ABS 機能が作動する「コーナリング」機能も備えます。この機能は、車両の傾斜角度に応じてフロントブレーキとリアブレーキに作用します。車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で、車輪のロックおよびスリップを防止することを目的としています。



警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱やベーパーロック(ブレーキフルードの過熱)を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。


規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

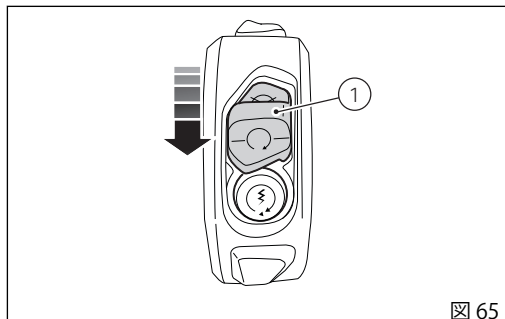
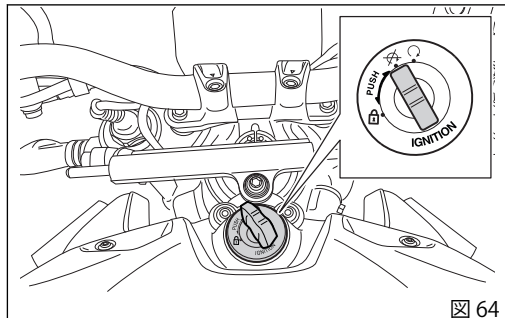
車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

エンジンが突然停止するのを防ぐために、ギアを入れた状態でクラッチを戻さないでください。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

スイッチ (1) を下に押しして  に合わせてエンジンを切り、キーを OFF の位置に回します。



パーキング

パーキングランプの点灯

エンジンを切ってから 20 秒間、インストルメントパネルにパーキングランプを点灯させる方法が表示されます。

パーキングランプを点灯させる場合は、画面が表示されている間に、左ターンインジケーターの位置にボタン (1) を長押しする必要があります。

パーキングランプが正常に点灯すると、インストルメントパネルにパーキングランプが点灯したことの確認が表示されます。

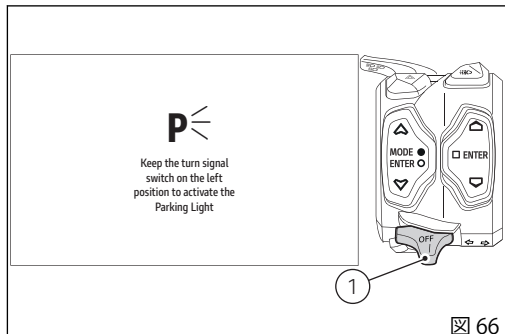
点灯しない場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを LOCK 位置に回します。

車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

! 重要

監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。



! 警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

! 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスクロック、リアスプロケットロック等) は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。

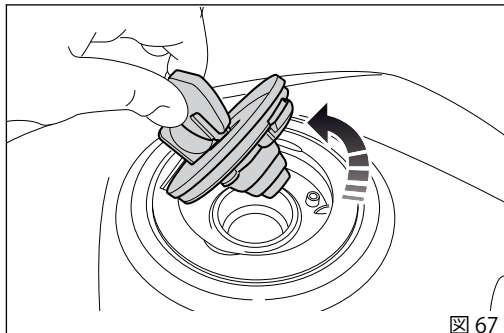
キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。

キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。

このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリ

背もたれ (A) 内に設けられている小物入れスペースには、付属のL型六角棒レンチ (1) 4 mm (0.16 in) が収納されています。

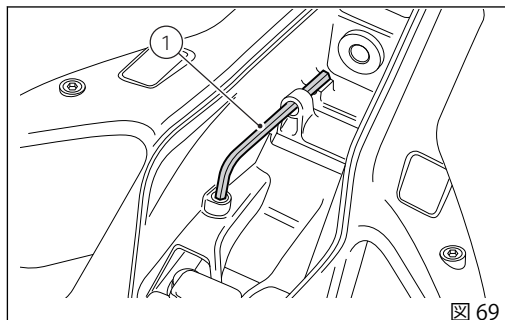
このスペースを利用するには、「シートの取り外しおよび取り付け」の章を参照しながら、背もたれ (A) を取り外してください。

以下の付属部品の取り付けは、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

- リアビューミラー取り外しキット
- ナンバープレートホルダー取り外しキット
- カーボン製オープンクラッチカバー
- ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

警告

本キットはサーキット専用品です(クローズドサーキットにおける競技使用)。キット全体または一部を取り付けた車両で公道を走行することはできません。車両の所有者の責任に基づき競技用車両の使用に関する現行法を遵守してください。



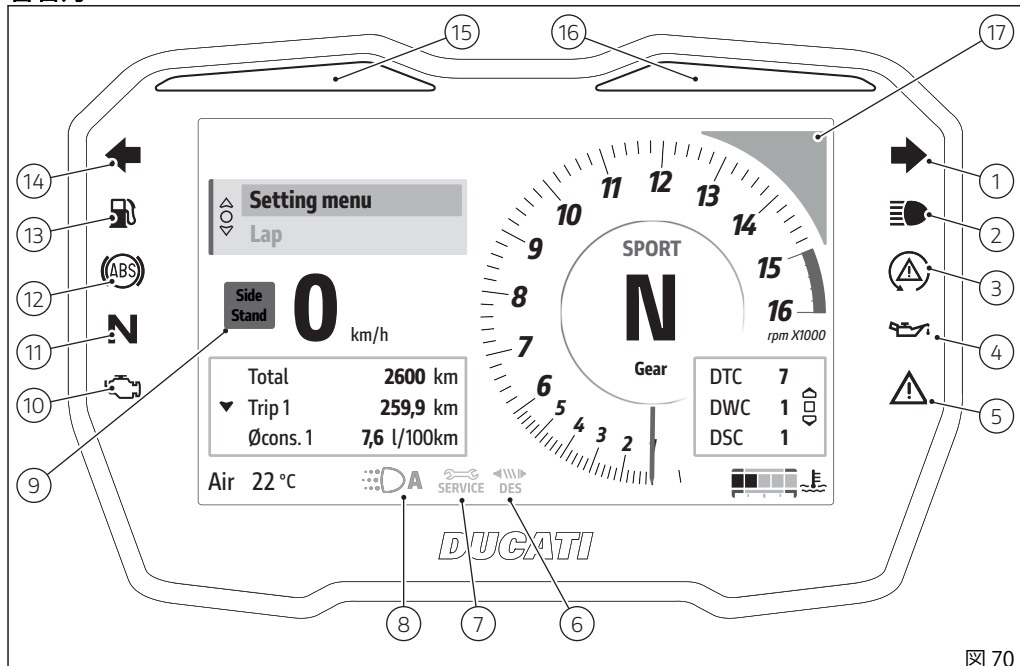
インストルメントパネル(ダッシュボード)


インストルメントパネル

本車両には、5インチTFTカラーディスプレイを備えるインストルメントパネルが搭載されています。


インストルメントパネルには、安全運転に必要なすべての情報が表示され、車両の設定やパラメーターをカスタマイズすることができます。

警告灯



番号	説明	色
1	右ターンインジケータ	緑色
2	ハイビームライト点灯	青色
3	DAVC 診断 <ul style="list-style-type: none"> 点滅：DTC / DWC / DSC は起動しているが、性能が制限されている 点灯：コントロールユニット不具合のため、DTC / DWC / DSC は解除されているか作動していない 	オレンジ色
4	油圧低下  重要 エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。	赤色
5	一般的なエラー	オレンジ色
6	DES 診断 <ul style="list-style-type: none"> 点滅：DES は作動しているが、機能制限中または初期化中 点灯：問題発生のため、DES は解除され作動していない 	オレンジ色 (ディスプレイ)
7	Service (定期点検)	オレンジ色 (ディスプレイ)
8	DRL - DRL が「Auto」モードで点灯 (ページ 191 参照) (中国、カナダバージョンには装備されていません)	緑色 (ディスプレイ)
9	サイドスタンド警告灯	赤色 (ディスプレイ)

番号	説明	色
10	<p>MIL</p> <ul style="list-style-type: none"> エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。 警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能であれば Ducati 正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けてゆっくりと走行してください。 	オレンジ色
11	ニュートラルギア	緑色
12	<p>ABS システムの不具合</p> <ul style="list-style-type: none"> 点滅：ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている 点灯：ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない 	オレンジ色
13	燃料リザーブ	オレンジ色
14	左ターンインジケーター	緑色
15	ギア表示	緑色
16	<p>レブリミッター / イモビライザー</p> <ul style="list-style-type: none"> レブリミッター (ページ 111 参照): ランプ点滅、リミッター介入。 	赤色

番号	説明	色
	 参考 エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションでリミッター値の設定が異なる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> イモビライザー：ランプ点滅、車両 Key-OFF 状態 	
17	DTC 介入	オレンジ色 (ディスプレイ)

重要

ディスプレイに“TRANSPORT MODE”の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

起動時、インストルメントパネルに Ducati のロゴが表示され、LED ランプのチェックを順番に実行します。チェック終了時、インストルメントパネルには Key-OFF 前に使用していた設定モードのスクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

画面上の主要要素

メイン画面には次の3種類の表示モード (Info Mode) があります。Track、Road、Track Evo。

Info Mode では、ライディングモード (ページ 108 を参照) と以下のようにデフォルトで連動しています。

- Track はライディングモード「SPORT」
- Road はライディングモード「Street」および「Wet」
- Track Evo はライディングモード「RACE」

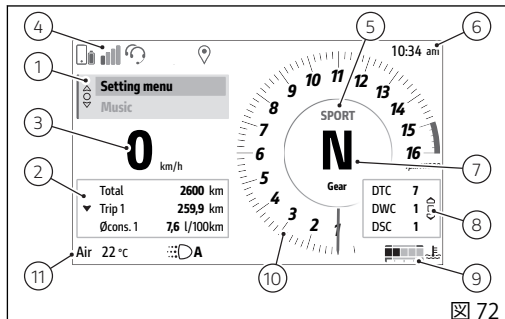
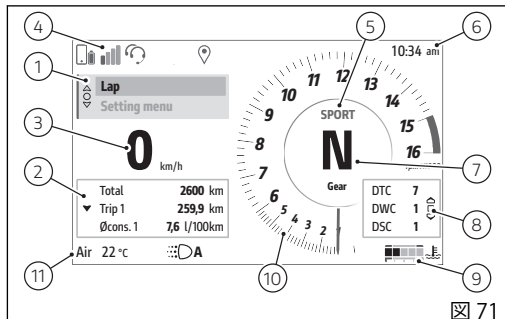
Info Mode Track (図 71) および Road (図 72)


Info Mode Track および Road では、運転に必要なすべての情報と項目が表示されます。


表示単位の変更については、ページ 226 参照してください。

また、画面テーマを「Light」と「Dark」のモードに設定することができます (ページ 193 参照)。

下表には、利用できる項目を一覧で示します。



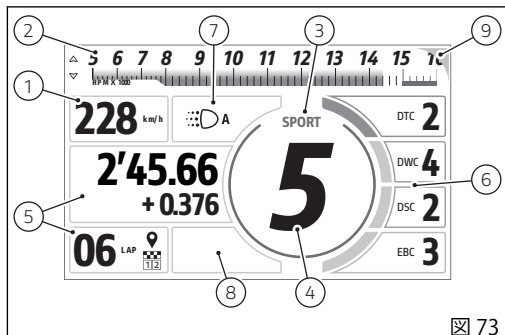
番号	説明
1	インタラクティブメニュー (ページ 101 参照)
2	情報表示 (ページ 101 参照)
3	速度 速度は 5% 増加した速度値と設定単位 (km/h または mph) で表示されます。
4	Bluetooth 接続端末 (ページ 11 参照)
5	使用中のライディングモード (ページ 108 参照)
6	時計 12 時間制と 24 時間制を選択できます。「Setting menu (設定メニュー)」内の「Date and Time (日付と時間)」機能から設定することができます (ページ 203 参照)。
7	ギア
8	パラメーターとクイックレベル変更メニュー (ページ 113 参照)
9	エンジンクーラント温度 (° C または ° F) エンジン温度の表示範囲は +40 ° C ~ +165 ° C (+104 ° F ~ +329 ° F) です。 温度が +165 ° C (+329 ° F) を超えると、"HIGH" の文字が赤色で点滅します。
	 警告 過熱状態の時は、冷却システムがエンジン温度を下げるができるように、できるだけ低速で走行してください。低速で走行できない交通状況の時は、停車してエンジンを切ってください。 エンジンが過熱した状態で車両を使用し続けると、深刻な損傷を引き起こすおそれがあります。 エンジンが通常の温度に戻ってから、インストルメントパネルの警告灯を確認しながら走行してください。

番号	説明
10	エンジン回転計 (ページ 111 参照)
11	外気温 (° C または ° F)
	 参考 エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

Info Mode Track Evo

Info Mode Race では、最も重要な情報と電子制御の介入を即座に確認することができます。
表示単位の変更については、ページ 226 参照してください。

下表には Info Mode Track Evo で利用できる項目の一覧を表示しています。



番号	説明
1	速度 速度は 5% 増加した速度値と設定単位 (km/h または mph) で表示されます。
2	タコメーター (ページ 111 参照) インタラクティブメニュー および情報表示 (ページ 101 参照)
3	使用中のライディングモード (ページ 108 参照)
4	ギア
5	ラップ (ページ 116 参照)
6	パラメーターとクイックレベル変更メニュー (ページ 113 参照) DTC、DWC、DSC、EBC 枠：関連するシステムが介入している場合に色が変わります (例：図中 DTC)。
7	オート DRL インジケーター (中国、カナダバージョンには装備されていません) / ヒーテッドグリップ レベル表示 (装備している場合、ページ 123 参照)
8	警告 / エラー表示エリア
9	DTC 介入

インタラクティブメニューと情報表示

インタラクティブメニュー (A)

このメニューには、ライダーが起動できる一連の機能が含まれています。

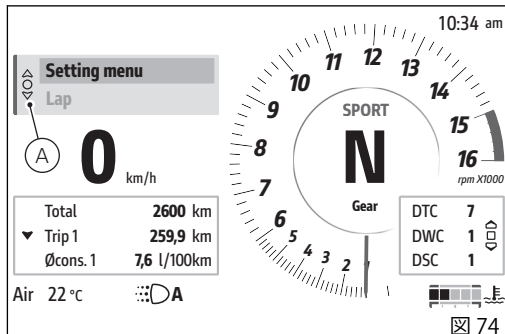
この機能を有効にすると、インタラクティブ操作が可能なウィンドウが表示されます。

利用できる機能が2行に表示され、選択している機能はインタラクティブメニューの上側にハイライト表示されます。

インタラクティブメニューの選択方法は、本章の「選択とブラウズ」の項を参照してください。

選択可能な設定は、

- Setting menu (ページ 125 を参照)
- ラップ、Info Mode Track でのみ利用できます (ページ 116 参照)
- Music (装備している場合、ページ 18 参照)
- Phone (装備している場合、ページ 21 参照)



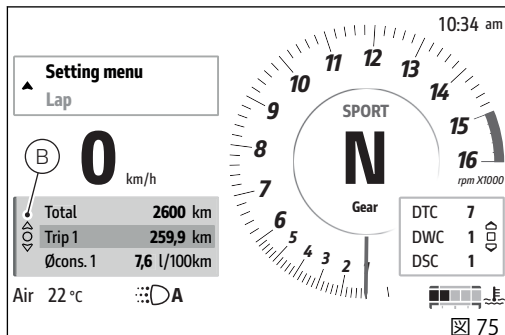
Info display (B)

このメニューには、利用できるトリップ情報に関するメーター類がすべて入っています。利用できる情報が2行に表示され、選択している情報はInfo displayメニューの上側にハイライト表示されます。


情報表示メニューの選択方法は、本章の「選択とブラウズ」の項を参照してください。

情報が表示される順番は、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Info display (情報表示)」機能から変更することが可能です(ページ 188 参照)。

トリップ情報の表示単位の変更については、ページ 226 参照してください。

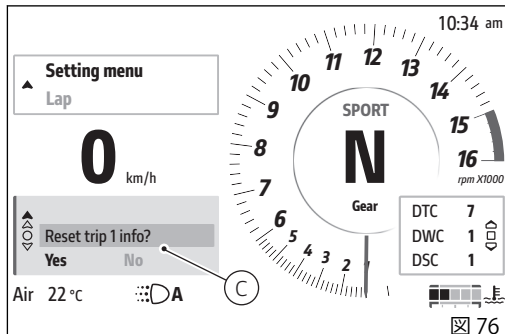


下表に「Info display (情報表示)」メニュー内にある情報を一覧で示します。

名称	説明	測定単位 / 形式
Total	総走行距離	km、miles
Trip 1	部分走行距離 1	km、miles
∅ cons.1	平均燃費 1	L/100、km/l、mpg UK、mpg US
∅ speed 1	平均速度 1	km/h、mph
Trip 1 time	走行時間 1	hhh:mm
燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)	<p>航続可能距離 車両がリザーブ走行になると、この機能が有効になり、それまで表示されていた項目に関係なく、自動的にメニューに表示されます。ただし、他の項目をスクロール表示することは可能です。</p> <p> 参考 「Trip fuel」機能の表示中にリザーブ走行が終了すると、インストルメントパネルは自動的に「Total」機能の表示に戻ります。</p>	km、miles
Trip 2	部分走行距離 2	km、miles
Cons.	瞬間燃費	L/100、km/l、mpg UK、mpg US

Trip 1 情報のリセット

「Trip1」、「 \emptyset cons.1」、「 \emptyset speed1」、「Trip1 time」のトリップ情報は、それぞれの項目を選択してから「ENTER」ボタン(3)を押してリセットすることができます。「Reset trip 1 info? (Trip 1 情報をリセットしますか)」と「Yes」、「No」が表示されます(C)。ボタン(1)とボタン(2)を使用して「Yes」または「No」を選択し、「ENTER」(3)を押して決定します。変更せずに終了するには、ボタン(1)を長押しします。Trip 1の情報をリセットすると、参照するすべてのカウンター類もリセットされます。

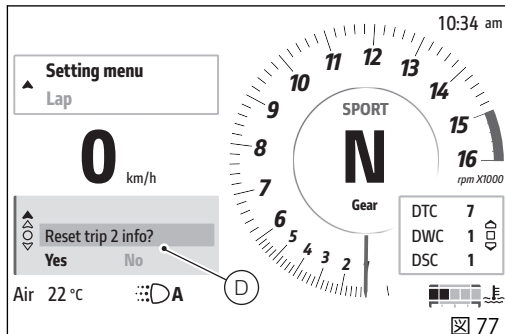


TRIP 2 情報のリセット

「Trip 2」のトリップ情報は、項目を選択してから「ENTER」ボタン(3)を押してリセットすることができます。「Reset trip 2 info? (Trip 2 情報をリセットしますか)」と「Yes」、「No」が表示されます(D)。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して「Yes」または「No」を選択し、「ENTER」ボタン(3)を押して決定します。

変更せずに終了するには、ボタン(1)を長押しします。

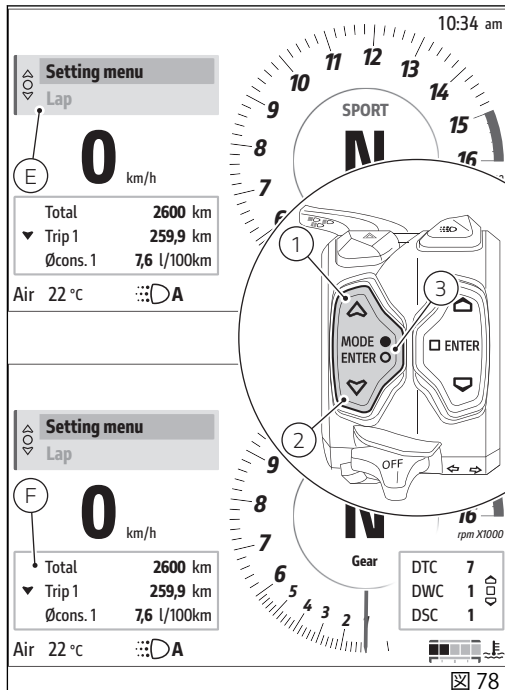


選択とブラウズ

いずれかのメニューを選択すると、対応するウィンドウ (E) または (F) が強調が表示され、ボタン (1)、(2)、「ENTER」(3) でブラウズとメニュー操作が可能になります。

「Interactive menu」と「Info display」セクション間の移動は、

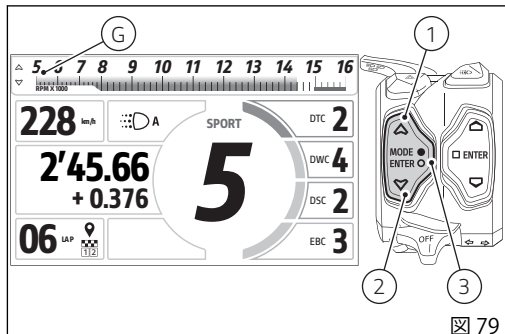
- 「Interactive Menu」(E) が選択されているときに、ボタン (2) を長押しすると、「Info display」(F) に選択が移動します。
- 「Info display」が選択されているときに (F)、ボタン (1) を長押しすると、「Interactive Menu」(E) に選択が移動します。



Info Mode Track Evo - 機能メニュー

Info Mode Track Evo (ページ 96 参照) には、ボタン (1)、(2)、(3) で操作できるメニュー (G) が用意されています。利用可能な機能：

- 時計付きタコメーター
- タコメーター
- 設定メニュー
- 総走行距離、エンジンクーラント温度、時計



Riding Mode

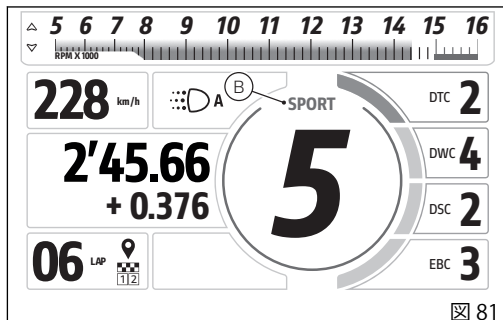
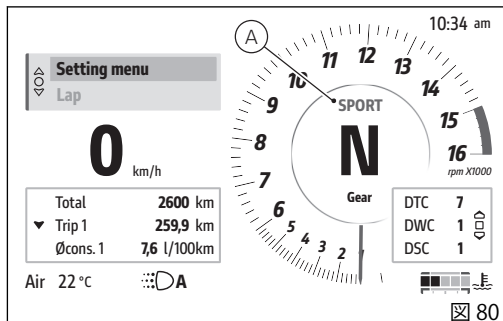
4通りのライディングモード：Sport、Street、Wet、Raceです。

使用しているライディングモード名は、Info Mode TrackとRoad (A、図80)ではギア表示の上、Info Mode Track Evo (B、図81)ではギア表示の下に表示されます (ページ96参照)。

ライディングモード名とタコメーターは、それぞれのライディングモードの色で表示されます。

各ライディングモードに関連するパラメーターは、DAVC (DTC、DWC、DSC)、Power、ABS、EBC、DQS、Info Mode、DESです。

それぞれのライディングモードのパラメーターは、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Riding Mode (ライディングモード)」機能から変更することができます (ページ131参照)。



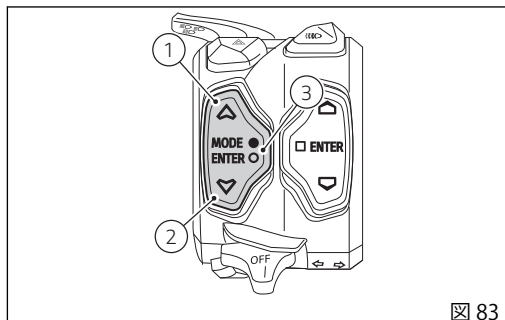
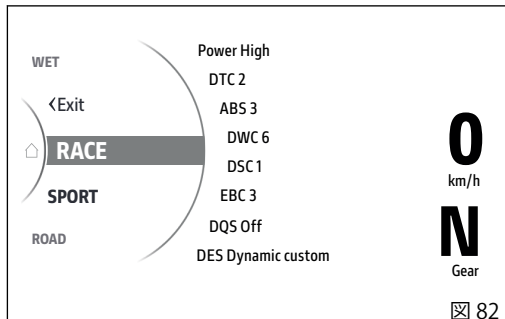
ライディングモードの変更

- 「MODE/ENTER」 ボタン (3) を長押しします。
- 専用画面が表示されます。ボタン (1) とボタン (2) を使用して選択可能なライディングモードをスクロールして、各パラメーターと設定値を表示することができます。
- 「MODE/ENTER」 ボタン (3) を押して決定します。

変更を行わずにライディングモードの変更を終了するには、「Exit」を選択して「MODE/ENTER」ボタン (3) を押します。

新しいライディングモードが決定されると、インストルメントパネルは以下の検証を行います。

- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが開いている場合は、「Close throttle (スロットルを閉じてください)」の文字が表示されます。スロットルグリップが閉じられたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。
- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップは閉じていても、ブレーキがかかけられている場合は、「Release brakes (ブレーキを放してください)」の文字が表示されます。ブレーキが放されたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。



- 上記の両方に相当する場合は、「Close throttle and release brakes (スロットルを閉じて、ブレーキを放してください)」の文字が表示されます。両方の条件が満たされたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻りません。

上記のいずれかの条件が表示されてから5秒以内にライディングモードの変更を有効にする条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストールメントパネルは設定を変更せずにメイン画面に戻ります。



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中に変更を行なう場合は十分にご注意ください(低速での変更をお勧めします)。

エンジン回転数表示

エンジン回転数は次のように表示されます。

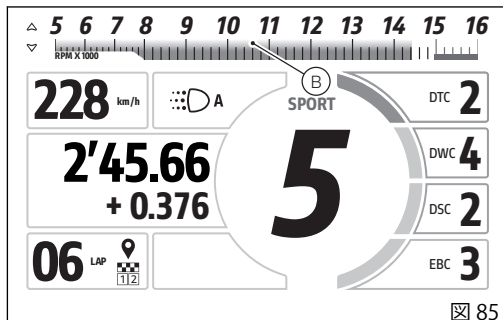
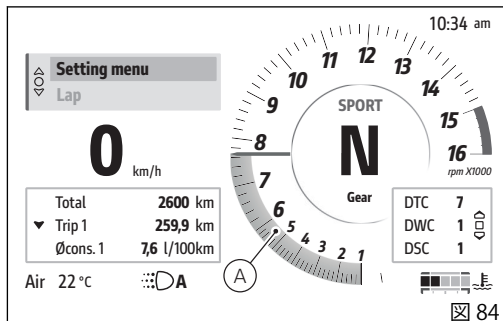
- Info Mode Track、Road 内ではメーター針と灰色の軌跡 (A) で表示 (ページ 96 参照)。
- Info Mode TrackEvo 内では軌跡 (B) で表示 (ページ 96 参照)。

オドメーターが最初の 1,000 km (620 mi) に達するまで (慣らし運転期間中)、もしくは初回定期点検までは、エンジン温度に関係なく仮想リミッターが設定されています。仮想リミッターでは、軌跡がオレンジ色で表示されます。

慣らし運転期間終了後、または初回定期点検の実施後、仮想リミッターはエンジンが十分温まっていない状態でエンジン回転数を抑える指示として表示されます。

仮想リミッターのしきい値は、エンジン温度に応じて変化します。

- エンジン温度が 40° C (104° F) を下回っている場合、回転数の限界値は 5000 rpm です。
- エンジン温度が 40° C (104° F) ~ 70° C (158° F) の場合、回転数の限界値は 9,000 rpm です。
- エンジン温度が 70° C (158° F) を上回っている場合、回転数の限界値は 10,000 rpm です。



エンジン回転数表示の軌跡がオレンジ色の点滅に変わり、警告灯 15、ページ 92 が点灯すると、シフトアップするタイミングであることを示します。

リミッターが作動すると(オーバーレブ)、軌跡が赤色に点滅し、レブリミッター警告灯 16、ページ 92 も点灯します。



回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、軌跡は表示されません。


パラメーターとクイックレベル変更メニュー

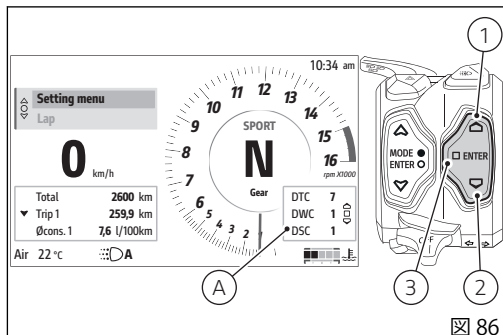
TrackとRoad(ページ96参照)のどちらのモードでも、メイン画面の右下の角に、選択したパラメーターのレベルをクイック変更できるパラメーターメニュー(A)が表示されます。

以下のパラメーターとパラメーターの現在の設定値がスクロール表示されます。

- DTC
- DWC
- DSC
- EBC

クイックセレクトボタン  (1)と  (2)を使って、パラメーターをスクロールさせることができます。選択したパラメーターがメニュー(A)の中央に表示されます。

ボタン  ENTER (3)を押すと、選択したパラメーターのレベルを変更できます。



レベル変更

ボタン **ENTER** (3) を押すと、選択されたパラメータとその現在の設定レベルが表示され、上下に利用できる値 (B) が表示されます。

ナビゲーションボタン **▲** (1) と **▼** (2) を使用してスクロールし、目的のレベルを選択することができます。

ボタン **ENTER** (3) を押すと選択したレベルを決定し、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。このように設定したレベルは、使用中のライディングモードに保存されます。

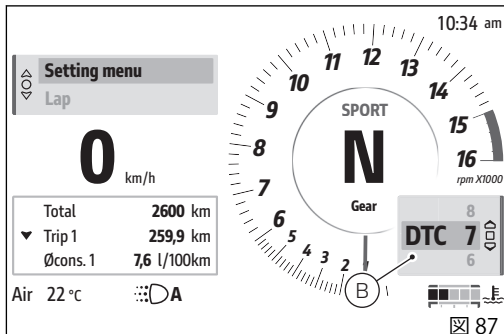
正しいレベル選択とライディングモードごとに利用できるパラメータのカスタマイズについては、「Setting Menu (設定メニュー)」内の「Riding Mode」機能を参照してください (ページ 131 参照)。

参考

SETTING MENU (例：DTC、DWC、DSC) からパラメーターが「Off」に設定されている場合は、「Off」ステータスが表示され、クイック変更は実行できません。

参考

クイック変更からは、パラメーターレベルを「off」に設定して機能を停止することはできません。





Info Mode Track Evoのパラメーターとレベル変更メニュー


Info Mode Track Evoが起動している場合(ページ96参照)は、画面右側に以下のパラメーターと現在の設定値が表示されます。



- DTC
- DWC
- DSC
- EBC


現在設定されているパラメーターが、対応するカーソルの色で表示されます(図中例C、DTC)。

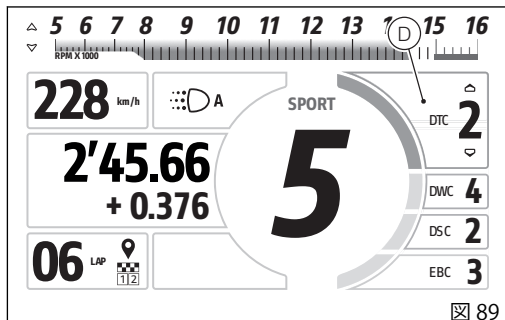
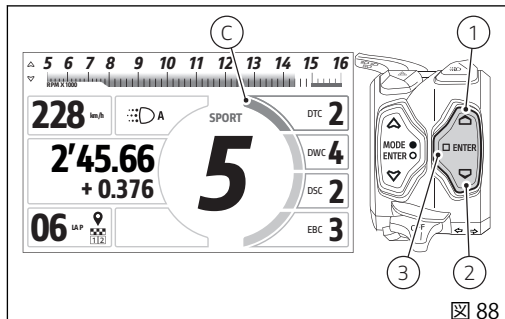
クイックセレクトボタン  (1)と  (2)を使って、

目的のパラメーターを選択することができます。

ボタン  ENTER (3)を押して、レベルを変更することができます。

選択したパラメーターのウィンドウが大きく表示されます(図中例D、DTC)。現在設定レベルの上と下に矢印ボタンが表示され、ボタン  (1)と  (2)を使用して、変更中のパラメーターのレベルをスクロールすることができます。

ボタン  ENTER (3)を押すと選択したレベルを決定し、インストールメントパネルは前の画面に戻ります。このように設定したレベルは、使用中のライディングモードに保存されます。



Lap

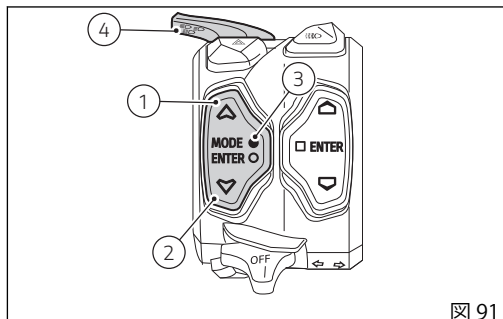
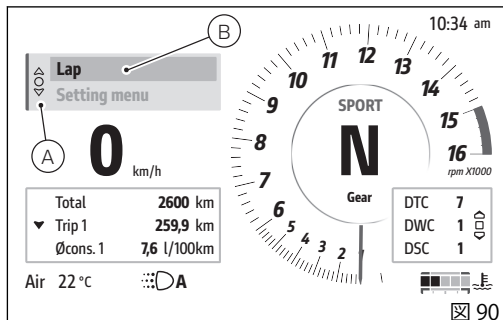
この機能はインタラクティブメニュー（ページ 101 参照）内にあり、ラップタイムを記録することができます。Info Mode Track でのみ利用できます（ページ 96 参照）

- ボタン (1) を長押しして、インタラクティブメニュー (A) を選択します。
- ボタン (1) とボタン (2) で「Lap」(B) を選択し、「ENTER」ボタン (3) を押します。

ラップタイム記録の起動と停止は、「Setting Menu (設定メニュー)」の「Lap」機能から行うことができます（ページ 210 参照）。

GPS を搭載しているかどうかに応じて、車両には 2 通りの異なるラップタイム記録が存在します。

- LAP BASIC、GPS 信号がない場合
- LAP EVO、車両に GPS EVO が搭載されている場合



LAP BASIC

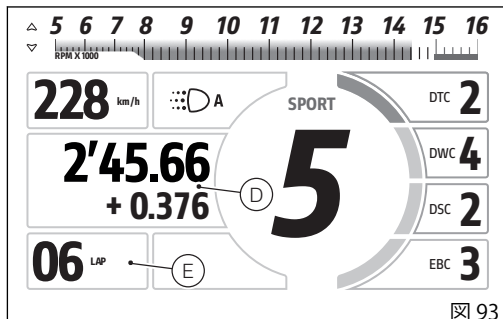
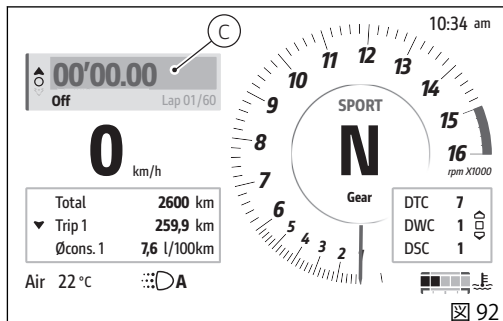
Info Mode Track では、該当するウィンドウに表示されます (C) :

- 機能を無効にしている場合は、「Off」の文字、ストップウォッチ、記録可能なラップ数が表示されます。「ENTER」ボタン(3)を押すと、機能が有効になります。
- 機能を有効にしている場合は、「On」の文字、ストップウォッチ、記録可能なラップ数が表示されます。「ENTER」ボタン(3)を押すと、機能が停止します。

機能が起動しているときは、ギア表示の横に「Lap」の文字が表示されます。ウィンドウを閉じるには、ボタン(1)を長押しします。機能を作動させたままでウィンドウを閉じることができます。

Info Mode Track Evo では、ラップタイムが枠(D)内に表示され、ラップ数が枠(E)内に表示されます。

最大60ラップまで記録することができます。機能を起動してからは、ストップウォッチのスタート/ストップにはフラッシュボタン(4、☒91)を使用する必要があります。フラッシュボタンを1回押すと、ストップウォッチが1秒間点滅します。



その後フラッシュボタン(4)を押すたびに、ストップウォッチが1秒間点滅して直前の周回のタイムが表示されてから、周回中のタイム表示に戻ります。

直前の周回のタイムがそれまでに記録されたタイムを上回っていた場合は、記録されたベストタイムが1秒間点滅表示され、さらに5秒間通常表示されます。その後、周回中のタイム表示に戻り、ラップ数が更新されます。60ラップ目に達すると「Full(満杯)」と表示され、新たにラップタイムを記録することができなくなります。この場合に新たに記録を行うには、保存されているラップを削除する必要があります。

「Setting menu(設定メニュー)」内の「Lap」機能(ページ210)から、以下の操作が可能です。

- 機能の起動または停止
- 記録ラップのデータ閲覧
- 記録データの削除

以下のような場合には、インストルメントパネルがラップの記録を中止し、ストップウォッチがリセットされます。

- 一周目をスタートしてから5秒が経過しても、車両速度がゼロである場合。
- ラップ記録中に走行速度5 km/h (3 mph)を5秒以上下回った場合。
- エンジンが止まった場合。

ラップごとに以下の情報が記録されます。

- Time(タイム)
- Speed max(最高速度)
- RPM max(最高回転数)
- 最大リーン角
- 最大ヨー角



参考

ストップウォッチは、走行速度が5 km/h (3 mph)を超えると作動を開始します。



参考

ラップ記録中に、フラッシュボタン(4)を押してストップウォッチをスタート/ストップさせた場合、5秒以内にボタンが押されてもインストルメントパネルはこの操作を無視します。

LAP EVO

車両に GPS EVO モジュールが搭載されている場合は、LAP EVO 機能が有効になります。画面にはストップウォッチとラップカウントに加えて、GPS マーク (E) が現れます。

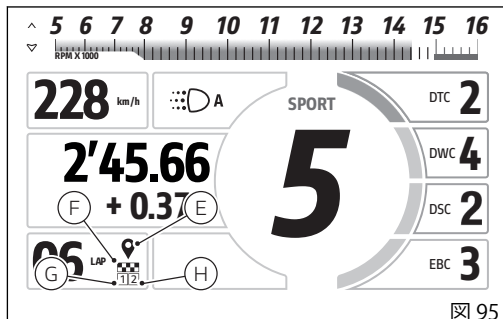
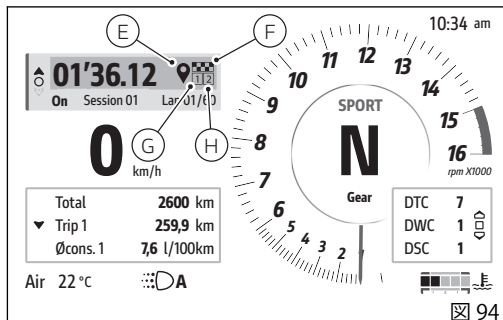
Info Mode Track での表示 (図 94) と Track Evo での表示 (図 95) を示します。

LAP BASIC とは異なり、LAP EVO ではフィニッシュ地点と 2 つの中間地点を登録することができます。フィニッシュラインと中間タイム地点の座標を設定した後は、GPS がラップタイム管理を行います。

フィニッシュラインと中間タイム地点の座標設定は、次のように行います。

- 車両をフィニッシュライン地点に配置し、FLASH ボタン (4) を短く押して座標を保存すると、マーク (F) が表示されます。
- 車両を第一中間タイム地点に配置し、FLASH ボタン (4) を長押しして座標を保存すると、マーク (G) が表示されます。
- 車両を第二中間タイム地点に配置し、FLASH ボタン (4) を長押しして座標を保存すると、マーク (H) が表示されます。

設定した座標は Key-OFF 後も保存されます。



いずれかの地点座標を変更するには、上記の記録手順をフィニッシュライン-中間タイム1-中間タイム2の順に繰り返す必要があります。

記録した座標から 15 km 以上遠ざかると、インストールパネルが自動的に座標を削除します。

LAP EVO では、6 セッションあわせて最大 60 ラップまで記録することができます

Key-ON のたびに、ラップ機能を起動すると、インストールパネルが新セッションを有効にします。

セッション 6 に達した後に Key-ON すると、インストールパネルはセッション 6 に続けてラップを記録します。

その後 60 ラップに達すると、「FULL」の文字が表示されます。

記録されたセッションとラップを消去するには、「Setting Menu (設定メニュー)」の「Lap」機能を参照してください (ページ 210 参照)。

LAP EVO 機能では、各ラップタイムごとに以下のパラメーターを保存できます。

- ラップタイム
- 中間タイム 1
- 中間タイム 2
- GPS EVO が検出した最高スピード
- 最高回転数
- 最大リーン角

- 最大ヨー角

デルタタイム

Info Mode Track Evo では、ストップウォッチの下に「Delta time (デルタタイム)」機能 (I) が表示され、記録タイムと前のラップタイムとの比較 (プラスまたはマイナス) を通知します。

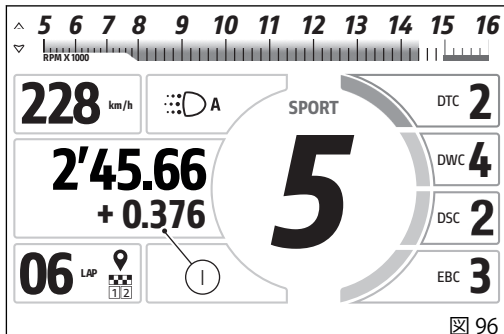
ラップを終了するたびに、

- 1) デルタがマイナスの場合は、今記録したラップの方が速いことを意味し、デルタ、ラップタイム、ラップ番号が 5 秒間点滅します。
- 2) デルタがプラスの場合は、今記録したラップの方が遅いことを意味し、デルタ、ラップタイム、ラップ番号が 2 秒間点滅し、3 秒間点灯します。



参考

一周目ラップの記録中は、「Delta time (デルタタイム)」は表示されません。



以下の注記はLAP BASIC とLAP BASICの両方のタイプに有効です。

参考

第1ラップ記録を開始してから5秒が経過しても車両速度がゼロである場合は、インストルメントパネルが記録を中止し、ストップウォッチがリセットされます。

参考

ラップタイム記録中に車両をオフにした場合、または車両速度が5 km/h (3 mph) を下回った場合は、インストルメントパネルが記録を中止し、ストップウォッチが自動的にリセットされます。

参考

新しいラップタイムが記録されるたびに、保存されている以前のラップタイムを上回っている場合は、ストップウォッチが6秒間点滅します。それ以外の場合、ストップウォッチは1秒間高速で点滅します。ベストラップの算出は、2ラップ以上記録されている場合に行われます。

参考

LAP 機能が起動している場合、インストルメントパネルはその状態を Key-OFF 時に保存します。ラップタイム記録中に Key-OFF が行われると、次の Key-ON 時にインストルメントパネルはストップウォッチを停止してリセットします。

参考

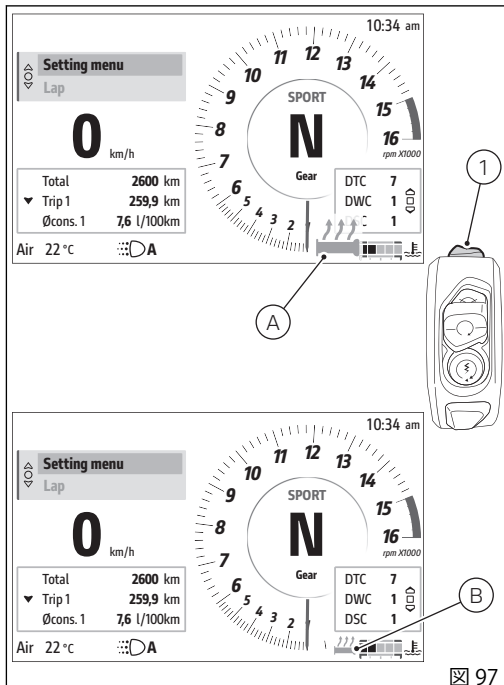
ストップウォッチが作動し、タイムが 08'59.99 を超えると、ストップウォッチはリセットされて再び 00'00.00 からカウントを始めます。

ヒートッドグリップ (装備している場合)

この機能でグリップヒーターの起動や設定を行います。ヒートッドグリップを搭載している場合にのみ利用できます。

ヒートッドグリップの起動とレベル調整を行うには、右側スイッチのボタン(1)を押します。ヒートッドグリップアイコンが大きく表示されます(A)。ボタンを押すたびに、マークの上に矢印で示された「Off」、「Low」、「Medium」、「High」の各レベルに切り替わります(図中例：High)。

設定レベルを決定するには、ボタン(1)を3秒間押します。ヒートッドグリップアイコンが小さく表示されます(B)。



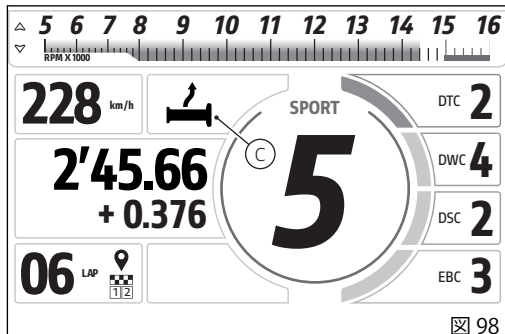
Info Mode Track Evo では、ヒーターの調整中にヒーターグリップのアイコンが枠 (C) 内に大きく表示されます。



参考

ヒーターグリップが実際に作動する(加熱される)のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。エンジン回転数が2,000rpm以下では、ヒーター出力は50%に制限されます。

ヒーターが作動していないとき、ヒーターグリップアイコンは灰色で表示されます。

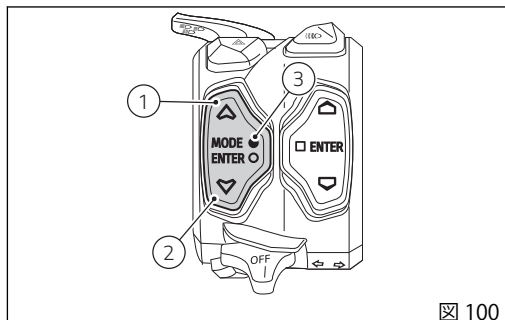
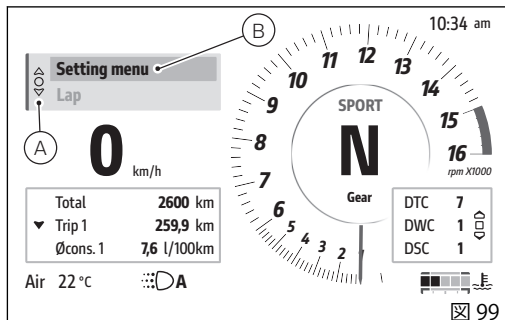


Setting menu

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFFと設定を行います。

安全上の理由により、走行速度が5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。設定メニューが表示されている時に走行速度が5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了します。このメニューは車両を停止した状態で使用してください。

- ボタン(1)を長押しして、インタラクティブメニュー(A)を選択します。
- ボタン(1)とボタン(2)で「Setting menu (設定メニュー)」を選択し(B)、「ENTER」(3)を押します。



インストルメントパネルに専用画面が表示され、以下の設定項目が表示されます。

- Service (定期点検)
- Riding Mode
- Info display (情報表示)
- DRL
- Display setup (ディスプレイの設定)
- PIN Code
- Date and time (日付と時間)
- Lap
- Tyre calibration (タイヤキャリブレーション)
- Bluetooth (搭載している場合)
- Turn indicators (ターンインジケーター)
- Language (言語)
- Units (単位)
- Info

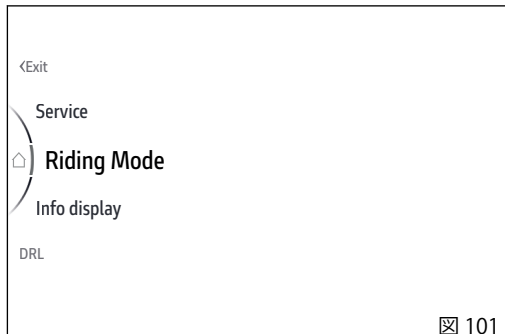


参考

「Setting Menu (設定メニュー)」に入ると、最初に「Riding Mode」の項目が選択されています。

「Setting menu (設定メニュー)」の表示中は、ボタン(1)、(2)、(3)を次のように使用します。

- ボタン(1)とボタン(2)：使用可能な項目をスクロールして選択する。
- ENTER ボタン(3)：項目の選択を決定する。



「Setting menu (設定メニュー)」内のサブメニューを終了するには、「Back」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

「Setting menu (設定メニュー)」を終了してメイン画面に戻るには、「Exit」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

Setting menu – Service

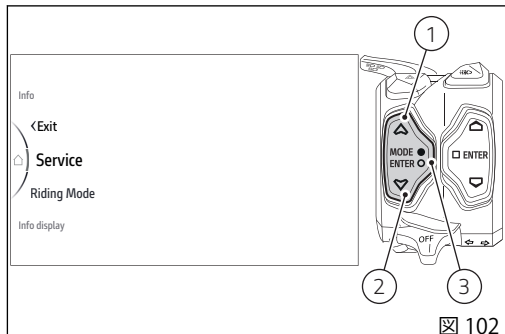
この機能で今後の定期点検を表示します。



参考

「Setting Menu (設定メニュー)」に入ると、最初に「Riding Mode」の項目が選択されています。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Service (定期点検)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。





☒ 102


以下の情報が表示されます。

- Total (km)
- VIN (車両識別番号)
- Oil Service (オイル点検：残りの走行距離 (キロメートルまたはマイル))
- Annual Service (12 カ月点検：日付)
- Desmo Service (残りの走行距離)

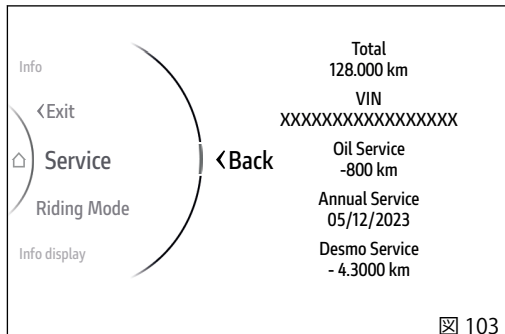
定期点検期限を過ぎると、黄色に変わります。
この機能については変更は一切できません。ENTER (3) ボタンを押して終了します。

1000 走行距離サービスは、慣らし運転 1,000 km / 600 mi 終了後に実施します。

オイル点検 (OIL 走行距離サービス)  は 15,000 km / 9,000 mi 走行ごと、または 24 カ月ごとに実施します。
年次点検 (定期サービス)  は 12 カ月ごとに実施します。

Desmo Service 点検 (DESMO 走行距離サービス)  は、60,000 km / 36,000 mi ごとに実施します。
車両をサーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかるので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。



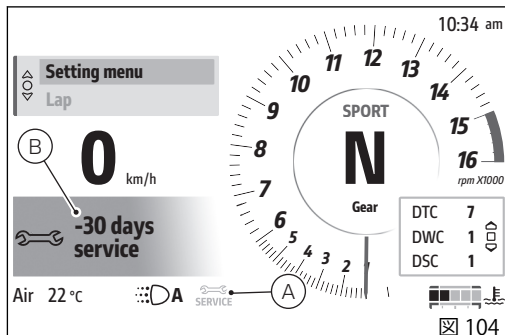
定期点検の種類は、「Oil Service」、「Annual Service」、「Desmo Service」があります。
定期点検プログラムには (ページ 278 を参照)、それぞれ「Oil Service」、「Annual Service」、「DESMO Service」と記載されています。

サービス通知

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス (定期点検) を実施する必要があることをユーザーに通知します。

定期点検ごとに設定されているしきい値に近づくと、警告灯 (A) が点灯し、車両の電源をオンにするたびに、インストルメントパネルに灰色の表示 (B) が 5 秒間表示され、残りの走行距離または日数を知らせます。「Oil Service」と「Desmo Service」は残り 1,000 km (621 miles) を切ると表示され、「Annual Service」は残り 30 日を切ると表示されます。

定期点検のしきい値を超えると、インストルメントパネルを起動する度に、表示 (B) が 5 秒間黄色で表示され、該当する定期点検の規定しきい値から超過した走行距離または日数を知らせます。



定期点検に関する表示には以下のものがあります。

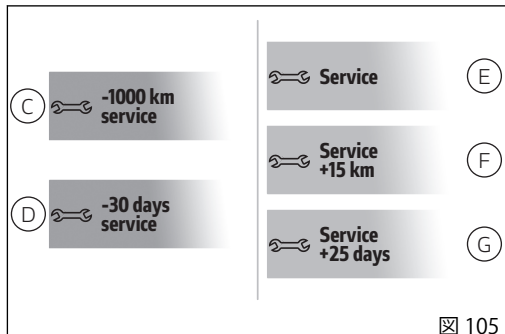
- 1) (C) 灰色の「オイル点検」と「バルブクリアランス点検」：該当する定期点検まで残り 1,000 km (621 miles) になると点灯します。
- 2) (D) 灰色の「Annual Service」：定期点検まで残り 30 日になると点灯します。
- 3) (E) 黄色：定期点検のしきい値に到達した時点で点灯します。
- 4) (F) 黄色：定期点検のしきい値を超えた時点で点灯し、超過した距離を示します。
- 5) (G) 黄色：定期点検のしきい値を超えた時点で点灯し、超過した日数を示します。

デジタルメンテナンス

設定された期限に正規ディーラーに連絡し、ダッシュボードに表示された期限に予定されているメンテナンスを実施する必要があります。

専用の診断テスターを使用して、ディーラーはサービスが実行されたことを確認し、次回の点検まで期限を延期します。

通常のメンテナンスに関連する履歴は、それが実行されたことを証明するために Ducati サーバーに保存されます (これはデジタルメンテナンスブックレットです)。



実行された定期点検の表示は、MyGarage 予約エリア (Ducati.com Web サイト) と MyDucati アプリの両方で、バイクのオーナーが利用することができます。



Setting menu – Riding Mode

この機能でそれぞれのライディングモードの設定が可能になります。

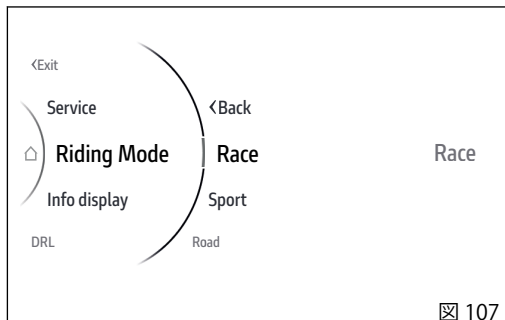
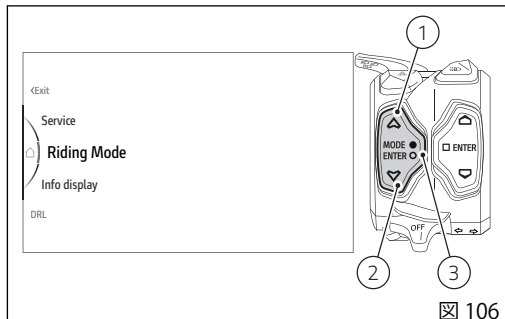
- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

ライディングモード「Race」、「Sport」、「Road」、「Wet」および「Default」(ライディングモードのひとつ以上のパラメーターが変更されている場合のみ) が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してカスタマイズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3)を押します。

警告

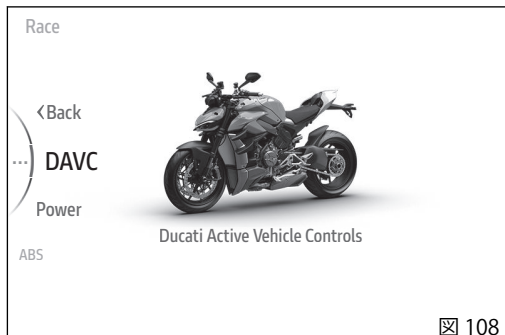
パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れていらっしゃる方のみにお勧めします。パラメーターが誤って変更された場合は、「Default (デフォルト)」機能を使用してパラメーターを回復してください。



カスタマイズできるパラメーターは以下の通りです。

- DAVC (DTC、DWC、DSC)
- Power
- ABS
- EBC
- DQS
- Info Mode
- DES
- Default (デフォルト) (ライディングモードのひとつ以上のパラメーターが変更されている場合のみ表示)

画面中央にはバイクが表示され、選択した項目に関する部位がハイライト表示されます。パラメーターを変更するには、「ENTER」(3) を押します。



Setting menu – Riding Mode - DAVC

この機能は、各ライディングモードに連動する DAVC パッケージの DTC、DWC、DSC 機能のレベルを設定します。

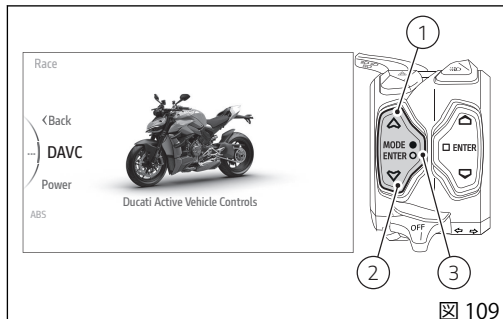
DAVC 機能は、加速時に車両のトラクション管理を行う電子制御パッケージ (DTC、DWC、DSC) です。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「DAVC」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

メニュー内には次の項目が表示されます。「DTC」、「DWC」、「DSC」、「Default」(ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます) ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」ボタン (3) を押して有効にします。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン (3) を押します。

DTC 機能については、ページ 135 を参照してください。



DWC 機能については、ページ 141 を参照してください。

DSC 機能については、ページ 147 を参照してください。

DAVC パラメータの初期値の回復

「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3)を押すと、選択したライディングモードの DTC、DWC、DSC の初期値が復元されます。

この時点から、ひとつ以上のパラメーターが変更されるまで、「Default」表示は表示されなくなります。

Setting menu – Riding Mode - DAVC - DTC



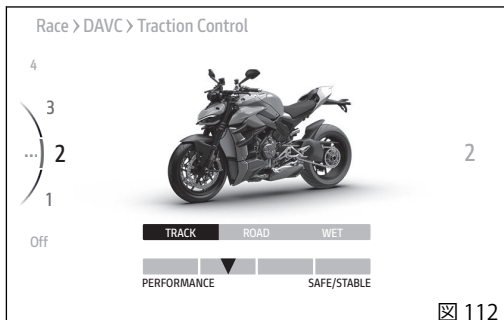
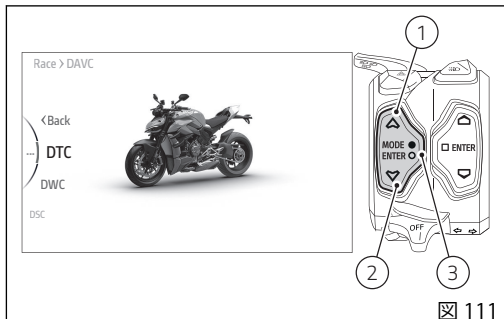
警告

DTCを「Off」に設定するとDWCおよびDSCも自動的に「Off」に設定され、ウィリーコントロールと車両のダイナミクスを安定させるアシストが解除されます。

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知ただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

この機能ではDTC(トラクションコントロール)システムの介入レベルを設定します。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3)を押します。



- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DAVC」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DTC」(図 111)を選択し、「ENTER」(3)を押します。

画面左側に 1~8 のレベルと「Off」が表示されます(図 112)。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」ボタン(3)を押して有効にします。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時のどちらでも使用できます。アシストシステムとは、より確実に安心な運転を可能にすることを旨としたメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単に確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF		DTCシステムは解除されています。	
1	TRACK プロフェッショナル	このレベルは熟練ライダー向けサーキット走行専用設定されており、標準装備のOEMタイヤに合わせて最適化されています。このモードにおいてDTCはスリップを許容します。	
2	TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行用に設定されています。このモードにおいてDTCはスリップを許容します。	
3	SPORT / TRACK	このレベルはサーキット走行用(および上級ライダーや、グリップ力の高いストリート走行用)に設定されています。	ライディングモード「RACE」のデフォルトレベル
4	SPORT	このレベルはグリップの良い一般道でのスポーツ走行用に設計されています。	ライディングモード「SPORT」のデフォルトレベル
5	MEDIUM SAFE & STABLE	このレベルはグリップの良い一般道での走行用に設計されています。ENGINE MEDIUMの使用に適合。	ライディングモード「ROAD」のデフォルトレベル

DTC	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
6	HIGH SAFE & STABLE	このレベルは一般道での走行用に設計されています。ENGINE MEDIUM および LOW の使用に適合。	
7	RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや、やや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。	
8	RAIN SAFE & STABLE	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。このレベルが最善に機能するためには、ENGINE LOW を使用してください。	ライディングモード「WET」のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、DTCシステムの最適な動作が保証されるものです。特に、車両の標準装備タイヤは、本書の「テクニカル仕様」セクションに記載されています。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低下することがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合（サーキット走行においてのみ可）、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。

- 1) グリップ（タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）

- 2) レイアウト/行程（同じような、または全く異なったスピードでのカーブ）
- 3) ライディングスタイル（より「スムーズ」に、またはより「シャープ」に）

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。グリップが弱い場合には、DTCが確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができます。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当なDTC介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし「シャープ」に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して「スムーズ」に操縦する場合にDTCはより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル6に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを6、5、4と変えながら最適なDTCレベルに達するまで調整します。

過度な介入が起こる1つか2つの緩いカーブを除けば、納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し「シャープ」なライディングスタイルで走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル8に設定することをお勧めします。DTCが介入しすぎると感じる場合には、レベルを5、4と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更した時に、設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例：レベル5ではDTCが介入しすぎると感じる場合はレベル4に、レベル5ではDTCの介入が全くないと感じる場合はレベル6に変更します)。

Setting menu – Riding Mode - DAVC - DWC



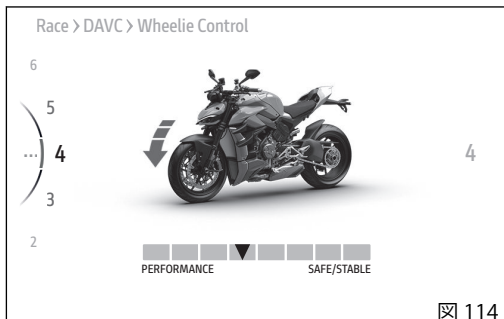
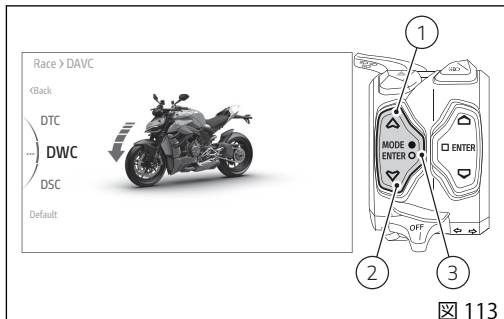
警告

DTCを「Off」に設定するとDWCおよびDSCも自動的に「Off」に設定され、ウィリーコントロールと車両のダイナミクスを安定させるアシストが解除されます。

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル1ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

この機能ではDWCシステムの介入レベルを設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3)を押します。



- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DAVC」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DWC」(図113)を選択し、「ENTER」(3)を押します。

画面左側に1~8のレベルと「Off」が表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています(図114)。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」ボタン(3)を押して有効にします。メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

警告

DWCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単に確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下表は、各ライディングタイプに適した DWC 介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC レベル	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
OFF		DWC システム解除	
1	HIGH PERFORMANCE	非常に熟練したライダー向けサーキットでの使用。システムはウィリーを許容します。	
2	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。このシステムは、加速度を最適化し、ウィリーを減らし、バイクがウィリーする速度をコントロールすることができます。	
3	MEDIUM PERFORMANCE	中級クラスのライダー向けサーキットでの使用。このシステムは、加速度を最適化し、ウィリーを減らし、バイクがウィリーする速度をコントロールすることができます。	ライディングモード「RACE」のデフォルトレベル
4	PERFORMANCE	中級のライダー向けレベル。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	

DWCレベル	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
5	SPORT	中級のライダー向けレベル。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード「SPORT」のデフォルトレベル
6	LOW SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード「ROAD」のデフォルトレベル
7	MEDIUM SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を大幅に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーを防止します。	ライディングモード「WET」のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドウカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。特に、標準装備タイヤは、本書の「テクニカル仕様」セクションに記載されています。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなる場合があります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ(リア = 200/60 ZR17、フロント = 120/70 ZR17)など違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

DWCのレベル8を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。

レベル8からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2、3ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験
- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2、3を適切に利用するためには高い能力が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必

要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することが可能です。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル8に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを7、6と変えながら最適なDWCレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。

一般道での使用時のアドバイス

DWCを起動した後、レベル8を選択し、好みのスタイルで運転します。DWCが介入しすぎると感じる場合は、レベルを7、6と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例：レベル7ではDWCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7ではDWCの介入が全くないと感じる場合はレベル8に変更します)。

Setting menu – Riding Mode - DAVC - DSC



警告

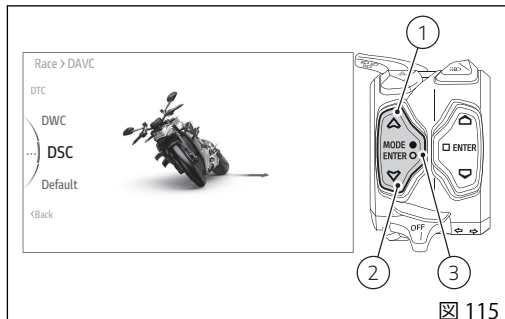
DTCを「Off」に設定するとDWCおよびDSCも自動的に「Off」に設定され、ウィリーコントロールと車両のダイナミクスを安定させるアシストが解除されます。

ドゥカティスライドコントロール (DSC) システムは、リアタイヤのドリフトや横滑りを制御しやすくすることを目的とし、カーブ立ち上がりの加速時にライダーを支援します。タイヤの進行方向でのスリップを制御するDTC機能の介入と併せて、このシステムが極限状態の走行コンディションにおいてより完成度の高い支援を実現します。

DSCは2通りのレベルで動作します。各レベルはDTCの特定レベルと組み合わせてタイヤの横滑りに介入する異なる値が設定されています。

この機能では一つのライディングモードのDSCシステム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」 (3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」 (3) を押します。



- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DAVC」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DSC」(図115)を選択し、「ENTER」(3)を押します。

画面左側に1~2のレベルと「Off」が表示されます(図116)。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」ボタン(3)を押して有効にします。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「Back」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

下表は、各ライディングタイプに適したDSC介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

DSC レベル	特徴	DEFAULT
OFF	DSC システム解除	NO
1	ベースの介入レベルは、選択する DTC レベルに依存します。DSC システムは横滑りを制限するために控えめな介入を行います。	NO
2	ベースの介入レベルは、選択する DTC レベルに依存します。システムは横滑りを制限するためによりはつきりと介入します。	ライディングモード「RACE」、「SPORT」、「ROAD」、「WET」のデフォルトレベル。



警告

DSC システムは、リアタイヤの横滑りを制限することでドリフト状態でのカーブの立ち上りに加速しやすいようにユーザーを支援します。ユーザーが危険を伴うドリフト角に達するのをシステムは防止できませんので、安全のために運転中は常に十分に注意して本システムを使用してください。

レベルの選択に際しての注意事項

DSCシステムは、リアタイヤの横滑りを制限することでドリフト状態でのカーブの立ち上りに加速しやすいようにユーザーを支援します。ユーザーが危険を伴うドリフト角に達するのをシステムは防止できませんので、安全のために運転中は常に十分に注意して本システムを使用してください。

そのためにはまず、DTCシステムの解説の記載内容に従って、最適な DTC レベルを決定することが推奨されます。

次に、よりはっきりした介入を行う DSC レベル 2 を選択し、システムの特性を理解するためにコースを数周してください。サイドグリップへの介入が多すぎると感じる時は、軽い介入を行う DSC レベル 1 を試してください。

標準装備の OEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。



警告

DSCはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを旨としたメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単に確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

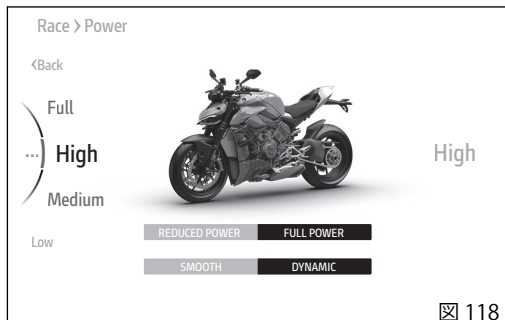
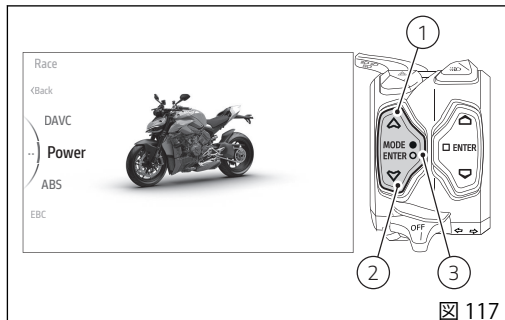
Setting menu – Riding Mode – Power

この機能でエンジン出力を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Power (パワー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

「Full」、「High」、「Medium」、「Low」のレベルが表示されます。また、設定の影響を受ける車両の部分が強調表示され、参考が表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。

ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」(3) を押して確定すると、「Back (戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3) を押して終了します。



Setting menu – Riding Mode – ABS

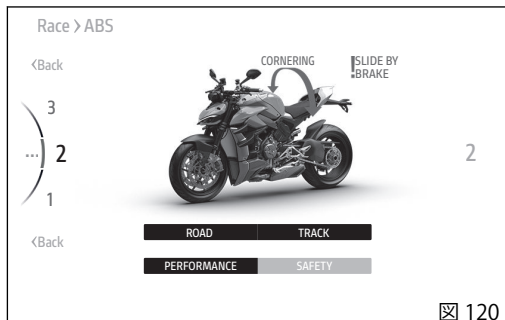
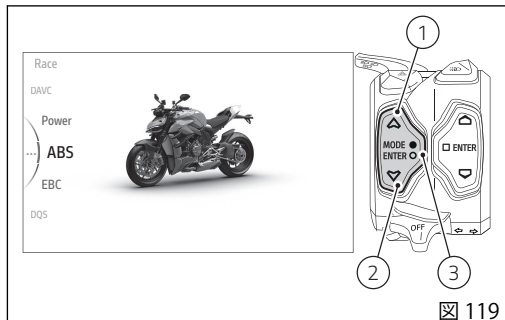
さらに、Streetfighter V4 SP2 が搭載する ABS は、設定レベルによっては「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。Streetfighter V4 SP2 の ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御も含まれ、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

この機能では ABS システムの介入レベルを設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「ABS」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

1~3 のレベルが表示されます。また、設定の影響を受ける車両の部分が強調表示され、参考が表示されます。

右側には現在の設定レベルが表示されています。



ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back(戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。片方または両方のホイールがロックされると、グリップによるバランス力が失われ車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。一時的に油圧が下がることで、タイヤはシステムの限界範囲内で理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。続いて、コントロールユニットは回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーと

ブレーキペダルに「軽く振動する」抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

ストラテジーのアクティブな存在と介入レベルは、選択するレベルによって異なります。ABSには3つの介入レベルが用意されており、それぞれライディングモードと連動しています。

ABSのレベル2では、さらに「ブレーキング時のスライド制御」が作動します。一定の起動条件下で、ライダーの安全を最大限に確保しながらも、ABSシステムは車両のヨーイングまたはスライドを可能にするリアの大幅なスリップを許可し、コーナーに高速で進入できるようにします。フロントブレーキを激しくかけている時に、リアブレーキも操作した場合にこのコントロールが作動します。このシステムの作動中、リーンアングルに応じて安全なレベル内に維持するため、ABSは車両のスリップまたはスライドレベルを監視します。車両のスリップまたはスライドレベルが高くなりすぎると、ABSは通常機能に戻り車両を再調整して安全を確保します。



警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。

過度の力をかける急激なブレーキ操作は、ホイールのブロックや後輪の浮き上がり(リフトアップ)の原因となり、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行時はブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に丁寧なブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下表は、各ライディングタイプに適したABS介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS レベル	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
1	TRACK PERFORMANCE	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行専用設定されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、ABSはフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、コーナリング機能は作動しません。	
2	ROAD PERFORMANCE	このレベルは、グリップの良好なサーキットおよびストリート走行用に設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能が作動します。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようになっています。このレベルではブレーキング時のスライド制御も作動します。	ライディングモード「RACE」のデフォルトレベル。

ABS レベル	ライディングタイプ	特徴	DEFAULT
3	ROAD SAFE / STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。	ライディングモード「SPORT」、「ROAD」、「WET」のデフォルトレベル。

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適な動作が保証されるものです。特に、標準装備タイヤは本書の「テクニカル仕様」セクションに記載されています。標準装備のタイヤやドゥカティ社推奨タイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなる場合があります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムは安定性を優先するブレーキングとリフトアップ制御(大半のリアホイールの浮き上がり防止)を行い、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。



警告

急ブレーキをかけると、特定の走行条件下では後輪が浮くことがあります。このような場合、ドライバーはブレーキ強度を調整する必要があります。

レベル3において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している

時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

レベル2を選択すると、ABSシステムは安定性やリフトアップ制御よりみブレーキ力を優先します。リフトアップ制御はレベル2では作動しません。レベル2において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。また、レベル2では「ブレーキング時のスライド制御」機能が作動します(このレベルでのみ利用できます)。

ABSシステムのレベル1の使用は極めて熟練したライダー向けになります。パフォーマンスを重視してABSはフロントホイールにのみ作用します。このレベルではリフトアップ制御およびコーナリング機能は作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- ライダーの経験と感覚。

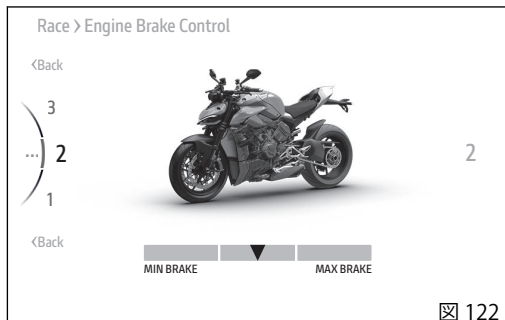
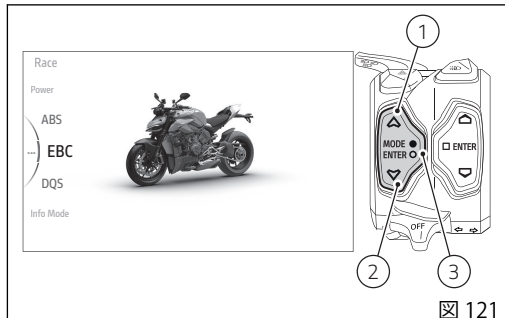
Setting menu – Riding Mode – EBC

エンジンブレーキコントロール (EBC) は走行中アクセルが完全に閉じた時に掛かるエンジンブレーキ制御を行います (ブレーキを掛けているかいないかに関わらず、シフトダウン時やギアは変えずにアクセルだけを戻した時)。このシステムは独立してスロットルバルブを調整し、走行中のホイールからエンジンへのバックトルクを一定に保ちます。

このエンジンブレーキ調整システムでは、エンジンブレーキが最大になるレベル1 設定から、レベルを上げることによってエンジンブレーキが徐々に軽減します。システムの影響はエンジンの高回転域で特に顕著で、回転数が下がっていくにつれ徐々に小さくなっていきます。

警告

EBCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。



この機能では EBC システムの介入レベルを設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「EBC」(図 121)を選択し、「ENTER」(3) を押します。

画面左側に 1~3 のレベルと「Off」が表示されます (図 122)。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」ボタン (3) を押して有効にします。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン (3) を押します。

下表は、各ライディングタイプに適したEBC介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

EBC	特徴	DEFAULT
1	このレベルではエンジブレーキは最大になります。	ライディングモード「RACE」、「SPORT」、「ROAD」、「WET」のデフォルトレベル。
2	このレベルではエンジブレーキは小さくなります。このレベルは、減速時のエンジブレーキを小さくしたいライダーに適します。	
3	このレベルではエンジブレーキは最小になります。このレベルは、減速時のエンジブレーキを最小限に抑えたいライダーに適します。	

レベルの選択に際しての注意事項



警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、EBCシステムの最適な動作が保証されるものです。特に、車両の標準装備タイヤは、本書の「テクニカル仕様」セクションに記載されています。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合(サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

レベル3を選択すると、EBCはエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル3からレベル1の順に

エンジンブレーキレベルが大きくなります。レベル1でエンジンブレーキレベルは最大になります。主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- レイアウト/行程(類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
- ライディングスタイル

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています。

レイアウトタイプからのレベル選択

同じようなブレーキングで走行できるレイアウト/行程の場合(すべて非常に激しい、またはすべて非常に緩やか)、それぞれのブレーキングで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なブレーキングがレイアウト/行程にある場合、EBCシステムの妥当な介入レベルが必要になります。

Setting menu – Riding Mode – DQS

この機能は DQS システムを起動または解除します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「DQS」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

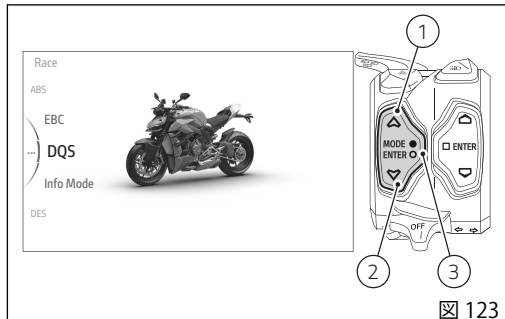
「On」、「Off」のレベルが表示されます。また、設定の影響を受ける車両の部分が強調表示され、参考が表示されます。

右側には現在の設定レベルが表示されています。

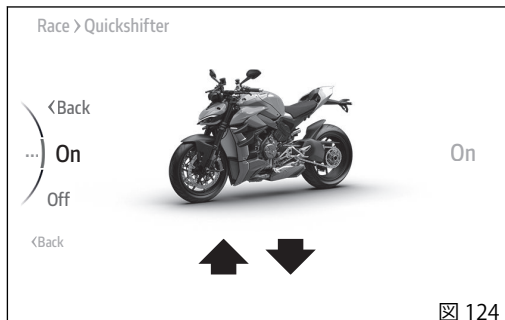
ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望するレベルを選択することができます。「ENTER」(3) を押して確定すると、「Back (戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3) を押して終了します。

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。

ペダルの作動機構に内蔵された双方向マイクロスイッチからなり、このマイクロスイッチがエンジンコン



☒ 123



☒ 124

トロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープンングを制御します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載しない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。
- ギアをチェンジする時(シフトアップまたはシフトダウン)は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギアチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。

- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。
- クラッチレバーを引いているときは、ドゥカティクイックシフトは作動しません。
- スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 万ードゥカティクイックシフトのストラテジーが正常に作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に30秒以上押し続けると(誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、ペダルを放してインストルメントパネルを一旦切り、5秒待ってからもう一度起動してください。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数2,500rpm以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフト

ダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

Setting menu – Riding Mode – Info Mode

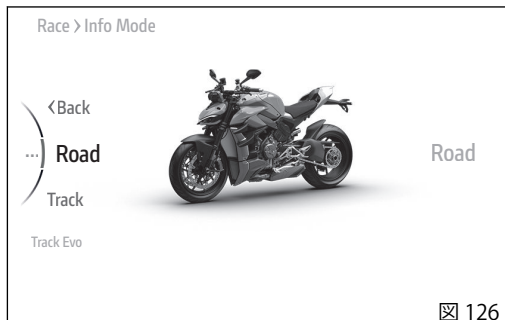
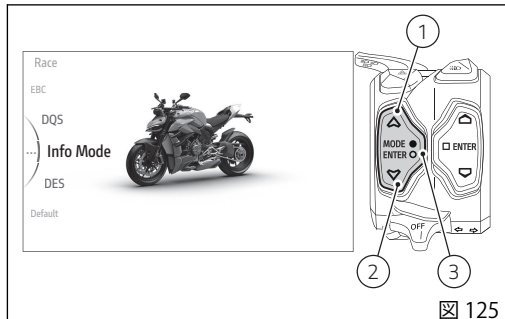
この機能では各ライディングモードと連動するメインスクリーンの表示モードを選択することができます(ページ 108 を参照)。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Info Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

画面左側には、「Road」、「Track」、「Track Evo」、「Default」(現在設定されている Info Mode が初期値と異なる場合にのみ表示)が表示されます。右側には現在の設定モードが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクが表示されます。

ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望する Info Mode を選択することができます。「ENTER」ボタン (3) を押して有効にします。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン (3) を押します。



Info Mode の初期値の回復

「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3)を押すと、選択したライディングモードのInfo Modeの初期値が復元されます。

この時点から、Info Mode の設定が変更されるまで、「Default」表示は表示されなくなります。

Info Mode では、ライディングモードと以下のようにデフォルトで連動しています。

- Track はライディングモード「SPORT」。
- Road はライディングモード「Road」および「Wet」。
- Track Evo はライディングモード「RACE」。

Setting menu – Riding Mode - DES

この機能は、各ライディングモードに連動したエレクトロニックサスペンションの管理タイプを設定します。

このシステムが Bosch 慣性センサーとのインターフェースとなり、変化する道路やライディング条件にダイナミックに対応して、サスペンション本来の性能を引き出し、確実な車両コントロールを可能にします。ダイナミックモードと固定モード2通りの動作モードがあります。固定モードはアクティブモードではなく、フロント/リアサスペンションのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピング、ステアリングダンパーのプリロードをライダーが特定レベルに設定することができます。

一度設定したレベルは、従来型アジャスタブルサスペンションシステムと同様に、ライダーが新たに設定し直すまで維持されます。もうひとつは「Event Based」、イベントベースモードが用意されています。セミアクティブモードで、サスペンションの「挙動」レベルをライダーがハードからソフトまで選択することができます。このモードでは、ライダーが選択した「挙動」を維持しながら、システムは道路状況に応じてダンパーのコンプレッションダンピング、リバウンドダンピングをダイナミックに調整します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「DES」(図 127) を選択し、「ENTER」(3) を押します。

この機能に入ると、左側にはサスペンションの設定やカスタマイズ可能な制御レベルの一覧が、右側には現在設定されているレベルが表示されます。選択可能な項目は以下の通りです。

- Dynamic Suspension (ダイナミックサスペンション)
- Default Dynamic Suspension (デフォルトのダイナミックサスペンション)(*)
- Fixed Suspension (固定サスペンション)
- Default Fixed Suspension (デフォルトの固定サスペンション)(*)
- Modify Suspension (サスペンションの変更)

(*) 項目は、ひとつ以上のパラメーターがデフォルト値に対して変更されている場合にのみ表示されます。

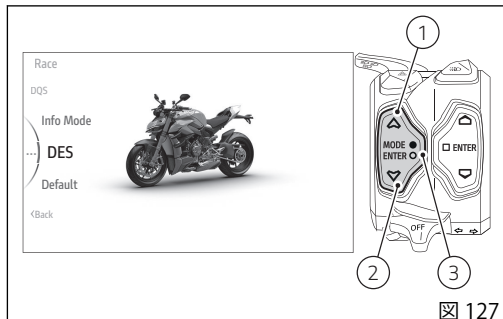


図 127

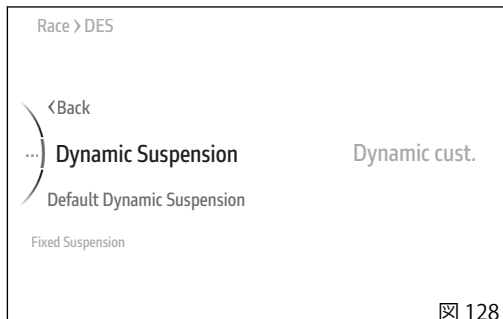


図 128

ボタン (1) とボタン (2) で希望する項目を選択し、「ENTER」ボタン (3) を押します。
メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン (3) を押します。

パーソナライズしたレベルがない場合、以下のことが可能です。

- 「Dynamic Suspension (ダイナミックサスペンション)」を選択し、ダイナミックコントロールを設定
- 「Fixed Suspension (固定サスペンション)」を選択し、固定コントロールを設定

パーソナライズしたレベルがある場合、以下のことが可能です。

- 「Dynamic Suspension (ダイナミックサスペンション)」を選択し、ダイナミックコントロールをカスタム値で設定
- 「Default Dynamic Suspension (デフォルトのダイナミックサスペンション)」を選択し、デフォルト値のダイナミックコントロールを設定；
- 「Fixed Suspension (固定サスペンション)」を選択し、固定コントロールを設定
- 「Default Fixed Suspension (デフォルトの固定サスペンション)」を選択し、デフォルト値の固定コントロールを設定

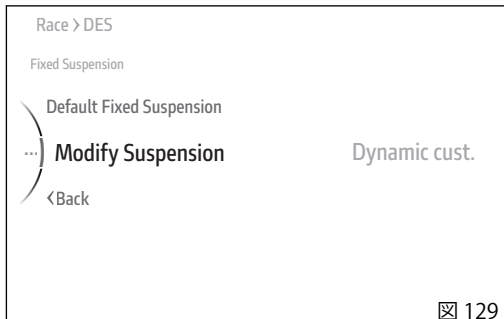
固定またはダイナミックコントロールをカスタマイズすることができます。ボタン (1) と (2) で「Modify Suspension」を選択し、「ENTER」ボタン (3) を押します。

このページ内の選択可能な項目は次の通りです。

- Custom Fixed Suspension (カスタム固定サスペンション)
- Custom Dynamic Suspension (カスタムダイナミックサスペンション)

ボタン (1) とボタン (2) で希望する項目を選択し、「ENTER」ボタン (3) を押します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン (3) を押します。



Custom Fixed Suspension (カスタム固定サスペンション)

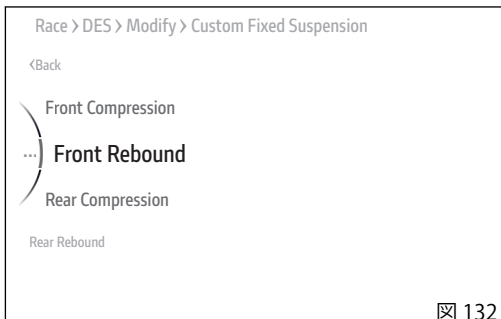
固定モードでは、クリック固定エレクトロニックサスペンションのコンプレッションダンピングとリバウンドダンピングのレベルを設定することができます。

パーソナライズページに入るには、

- ボタン (1) とボタン (2) を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「DES」(図 127) を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Modify Suspension (サスペンションの変更)」を選択し(図 127)、「ENTER」(3) を押します。
- 「Custom Fixed Suspension (カスタム固定サスペンション)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

以下の項目が表示されます。

- Front Compression (フロントコンプレッション)
- Front Rebound (フロントリバウンド)
- Rear Compression (リアコンプレッション)
- Rear Rebound (リアリバウンド)
- Steering Damper (ステアリングダンパー)



- Default (*)

(*)ひとつ以上のパラメーターがデフォルト値に対して変更されている場合にのみ表示されます。

ボタン(1)または(2)を使用して、カスタマイズするパラメーターを選択します。「ENTER」ボタン(3)を押すと、該当するメニューに入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

5つのメニュー (Front Compression、Front Rebound、Rear Compression、Rear Rebound、Steering Damper) のいずれかを選択し機能に入ると、カスタマイズ可能な全レベルの一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。以下のカスタマイズレベルを選択できます。

- 「Front Compression」、「Front Rebound」、「Rear Compression」、「Rear Rebound」メニューではクリック数1~32。
- 「Steering Damper」メニューではクリック数1~19。

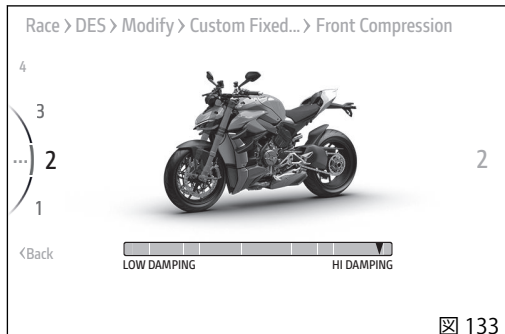
さらに、介入する部分が強調表示されたバイク図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、新しい好みのレベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに相当する値が中央の表に表示されます。

「ENTER」ボタン(3)を押して、選択したレベルを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「Back」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

固定モードの初期設定値に復元させるには、項目「Default」を選択し、「ENTER」ボタン(3)を2秒間長押しすると、「Back」が自動的に強調表示されます。



各ライディングモードのデフォルト値を下表に示します。

Riding Mode	標準設定	用途
RACE	Front Compression (フロントコンプレッション)	Diablo Rosso IV Corsa タイヤを装着して、サーキットで最大のパフォーマンスを発揮
	Front Rebound (フロントリバウンド)	
	Rear Compression (リアコンプレッション)	
	Rear Rebound (リアリバウンド)	
	Steering Damper (ステアリングダンパー)	
Sport	Front Compression (フロントコンプレッション)	Diablo Corsa IV Corsa タイヤを装着して、一般道でのスポーツ走行向け
	Front Rebound (フロントリバウンド)	
	Rear Compression (リアコンプレッション)	
	Rear Rebound (リアリバウンド)	
	Steering Damper (ステアリングダンパー)	

Road	Front Compression (フロントコンプレッション)	30	Diablo Corsa IV Corsa を装着して、一般道 (荒れた路面も含め) で最大の快適性を確保
	Front Rebound (フロントリバウンド)	18	
	Rear Compression (リアコンプレッション)	30	
	Rear Rebound (リアリバウンド)	18	
	Steering Damper (ステアリングダンパー)	12	
WET	Front Compression (フロントコンプレッション)	30	Diablo Rosso IV Corsa を装着して、一般道 (濡れた路面) での使用条件を確保
	Front Rebound (フロントリバウンド)	18	
	Rear Compression (リアコンプレッション)	30	
	Rear Rebound (リアリバウンド)	18	
	Steering Damper (ステアリングダンパー)	12	



ステアリングダンパーのデフォルト設定は、選択されたライディングモードに適した車両の挙動を確保するために最適化されています。ステアリングダンパーのダンピングを上げすぎると、車両のダイナミック挙動に影響を与える可能性があります。特に、レベル8以下のレベルの使用は、熟練ユーザーがサーキット走行で使用する場合にのみ推奨されます。この場合は、レベルを順番に選択し(レベル8からスタート)、一つずつレベルを試してください。

Custom Dynamic Suspension (カスタムダイナミックサスペンション)

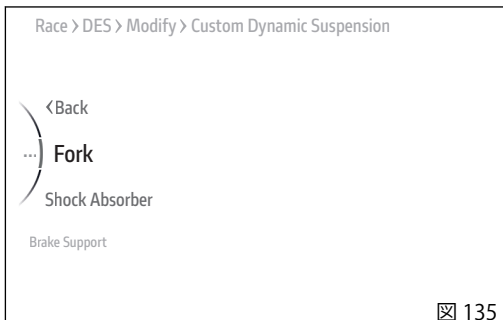
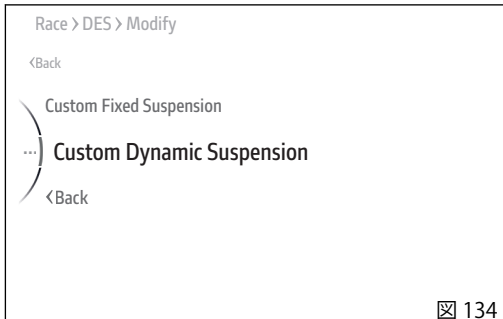
ダイナミックモードでは、様々な条件下においてコントロールユニットがエレクトロニックサスペンションに介入する頻度を設定することができます。

パーソナライズページに入るには、

- ボタン(1)とボタン(2)を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DES」(図127)を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Modify Suspension (サスペンションの変更)」を選択し(図127)、「ENTER」(3)を押します。
- 「Custom Fixed Suspension (カスタム固定サスペンション)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

以下の項目が表示されます。

- Fork (フォーク)
- Shock Absorber (ショックアブソーバー)
- Brake Support (ブレーキサポート)
- Mid Corner (ミッドコーナー)(ライディングモード「RACE」でのみ利用可能)



- Acceleration (加速)(ライディングモード「RACE」でのみ利用可能)
- Steering Damper (ステアリングダンパー)
- Default (*)

(*)ひとつ以上のパラメーターがデフォルト値に対して変更されている場合にのみ表示されます。

ボタン(1)または(2)を使用して、カスタマイズするパラメーターを選択します。「ENTER」ボタン(3)を押すと、該当するメニューに入ります。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

各パラメーターレベルを変更することで、車両の動的条件に応じて、システムによるサスペンションの動的な自動調整の効果を増減することができます。

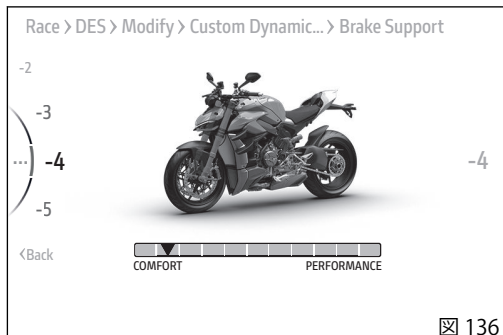
6つのメニュー (Fork、Shock Absorber、Brake Support、Mid Corner、Acceleration、Steering Damper)のいずれかを選択し機能に入ると、カスタマイズ可能な全レベル (+5~-5) の一覧が左側に、現在設定されているレベルが右側に表示されます。さらに、介入する部分が強調表示されたバイク図が表示されます。

ボタン(1)と(2)を使用して、新しい好みのレベルを選択します。レベルを強調すると、そのレベルに相当する値が中央の表に表示されます。

「ENTER」ボタン(3)を押して、選択したレベルを保存します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「Back」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。

ダイナミックモードの初期設定値に復元させるには、項目「Default」を選択し、「ENTER」ボタン(3)を2秒間長押しすると、「Back」が自動的に強調表示されます。

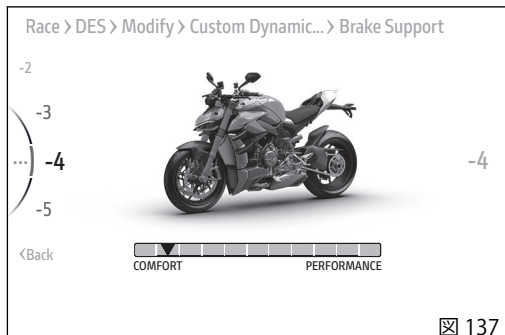


各ライディングモードのデフォルト値を下表に示します。

Riding Mode	RACE	Sport	Road	WET
Brake Support (ブレーキサポート)	2	0	0	0
Fork (フォーク)	2	0	0	0
Shock Absorber (ショックアブソーバー)	3	0	-2	-2
Steering Damping (ステアリングダンパー)	3	0	0	0
Acceleration (加速)	3	-	-	-
Mid Corner (ミッドコーナー)	3	-	-	-

Brake Support (ブレーキサポート)

ブレーキサポートパラメーターを調整することで、制動時のピッチング抵抗を増大(PERFORMANCE)または軽減(COMFORT)することができます。レベルを上げると、フォークがより制御された方法でゆっくりと沈みます。レベルを下げると、沈む速度が速くなります。

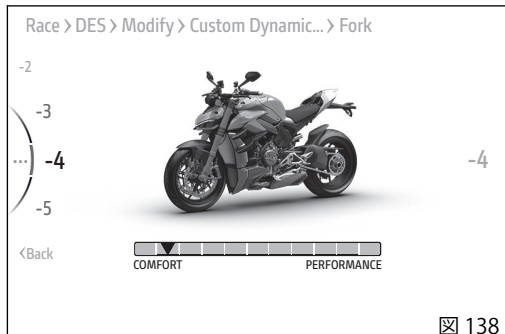


フォークおよびモノショックアブソーバー

フロントフォークとショックアブソーバーのパラメーターを調整することで、各コンポーネント全体の減衰量を増加 (+) または減少 (-) することができます。

ライディングモード RACE では、両方のパラメーターを均等に調整することで、ライダーの好み、路面のグリップ力、サーキットの特性にあわせて減衰レベルを調整するのに役立ちます。パラメーターを個別に調整する方法は、フロントとリアのバランスを個別に変更する場合に使用できます。

ライディングモード SPORT、ROAD、WET では、両方のパラメーターを COMFORT 寄りに設定することで、路面の凸凹や衝撃の吸収が高まります。両方のパラメーターを PERFORMANCE 寄りに設定すると、フレーム振動のダンピングが大きくなります。フロントフォークとリアショックアブソーバーを個別に調整し、フロントとリア間のバランスを変更するには、フロントとリアのパラメーターを個別に設定します。

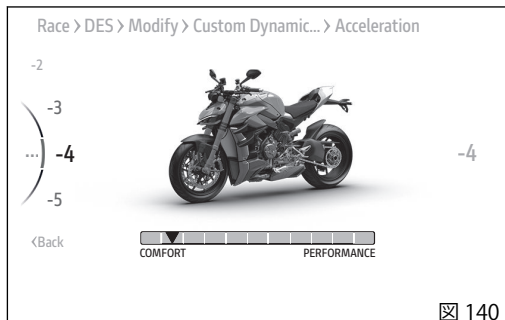
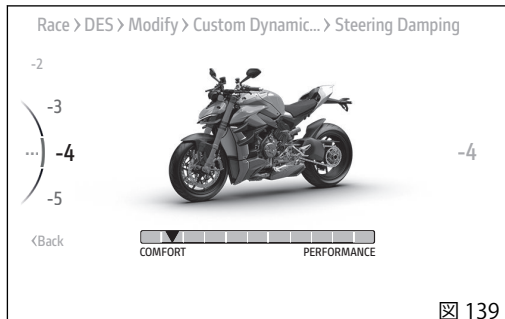


Steering Damper (ステアリングダンパー)

このパラメーターを調整すると、ステアリング全体の減衰量を増減することができます。パラメーターを「LOW DAMPING」に近づけると、ステアリングダンピングが小さくなり、より軽いライディングが可能になります。パラメーターを「HI DAMPING」に近づけると、振動に対する抵抗が大きくなります。

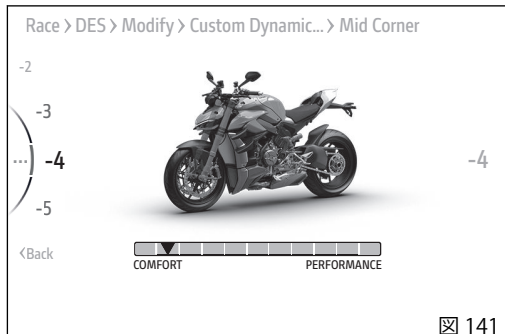
Acceleration (加速) (ライディングモード「RACE」でのみ利用可能)

加速パラメーターを調整することで、急な加速時のグリップと安定性をライダーの好みで設定することができます。パラメーターを PERFORMANCE 寄りに設定すると、後輪のトラクションを高めて最大の接地面を確保するようにシステムが最適化されます。パラメーターを COMFORT 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。



Mid Corner (ミッドコーナー) (ライディングモード「RACE」でのみ利用可能)

ミッドコーナーパラメーターを調整することで、コーナー途中のグリップと安定性をライダーの好みに設定することができます。パラメーターを PERFORMANCE 寄りに設定すると、最大の接地面を確保するようにシステムが最適化されます。パラメーターを COMFORT 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。

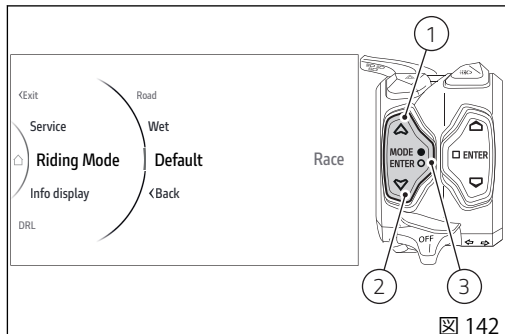


Setting menu – Riding Mode – Default

この機能では、ライディングモード関連パラメーターをDucati設定値に回復することができます。前もってパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

すべてのライディングモードのパラメーター値を回復する場合：

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。「Wait… (お待ちください)」の文字が数秒間表示されてから、「Restored (回復されました)」と表示されます。続いて、「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。



ひとつのライディングモードのパラメーター値を回復する場合：

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」(3) を押しません。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。「Wait… (お待ちください)」の文字が数秒間表示されてから、「Restored (回復されました)」と表示されます。続いて、「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧から消えます。



Setting menu – Info display

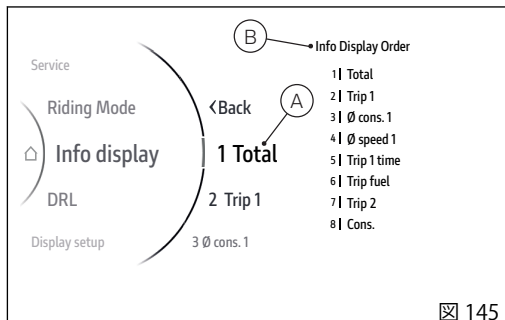
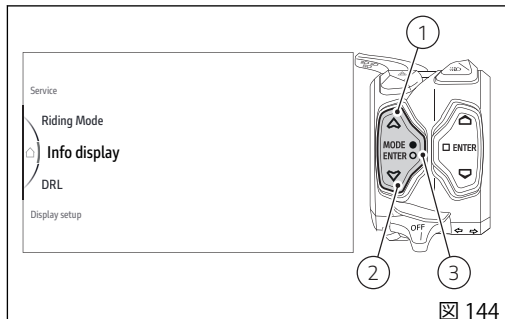
この機能では、「Info display (情報表示)」内に表示される情報の順番を変更します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Info display (情報表示)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

選択可能な項目が、現在の順番を示す番号と一緒に表示されます (A)。右側には、トリップ情報の現在の順番が表示されています (B)。

以前に情報表示の順番を変更している場合は、「Default (デフォルト)」の項目も表示され、初期設定の順番に戻すことができます。

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、リスト内の項目をスクロールできます。選択した項目の順番を示す番号を変更するには、「ENTER」(3) を押します。



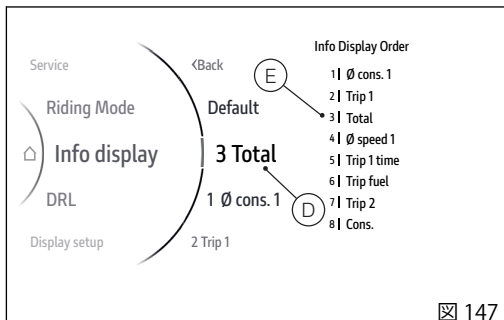
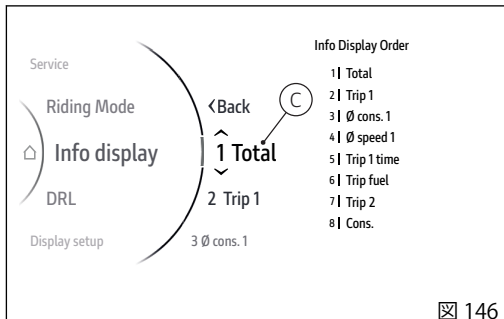
以下の例では、「Total (総走行距離)」の順番を1番から3番に変更します。

- ボタン (1) とボタン (2) で「Total」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 順番を示す番号の上下に2つの矢印が表示されます (C)。これは、ボタン (1) とボタン (2) を使用して、順番を示す番号を変更できることを示しています (この例では「3」)。
- 「ENTER」(3) を押して決定します。すると、トリップ情報の順番が新しい順番に更新されます (E)。



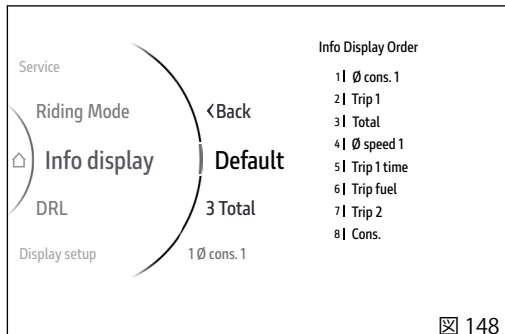
参考

燃料レベル表示が「Range」に設定されている場合は、「Range」の項目はリストの中に灰色で表示されます。



情報の位置が元の順番から変更されている場合は、選択可能な項目一覧の中に「Default(デフォルト)」も表示されます。

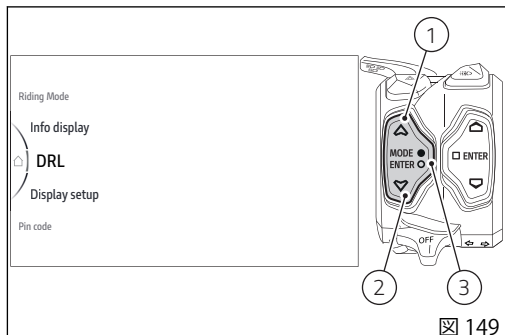
元の順番を回復するには、ボタン(1)と(2)で「Default(デフォルト)」を選択して「ENTER」(3)を押します。「Wait…(お待ちください)」が数秒間表示された後、「Restored(回復されました)」と表示されます。続いて、「Default(デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。項目の位置とトリップ情報の現在の順番が初期状態に戻ります。



Setting menu – DRL

この機能では、DRLの状態をオートモードかマニュアルモードに設定します。DRLを装備している場合にのみ表示されます。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DRL」を選択し、「ENTER」(3)を押します。



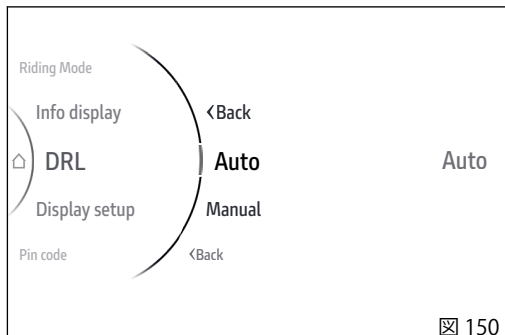
「Auto」と「Manual」が表示されます。
右側には現在の設定レベルが表示されています。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するモードを選択することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back(戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。



参考

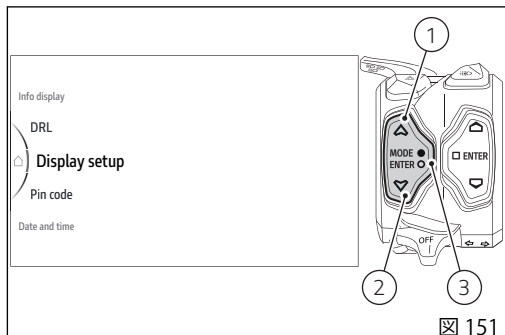
バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に“Auto”モードに設定されます。



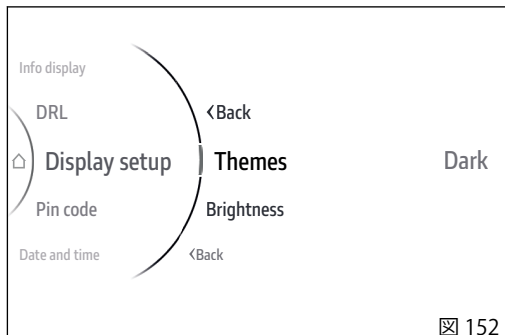
Setting menu – Display setup

この機能では、ディスプレイの明暗のテーマを設定し、明るさを調整します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Display setup (ディスプレイ設定)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



「Themes(テーマ)」と「Brightmess(明るさ)」が表示されます。
右側には現在の設定レベルが表示されています。
ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。



テーマ

この機能から明暗のテーマを設定できます。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Display setup (ディスプレイ設定)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Themes (テーマ)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

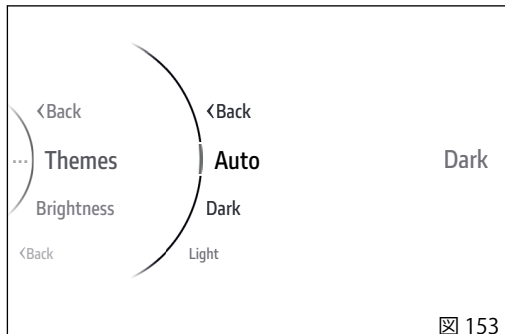
「Auto」、「Light」、「Dark」が表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。「Auto」モードでは、ディスプレイのテーマが外光の強さ(インストールメントパネルが検出)に応じて自動的に変更されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するテーマを選択することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back (戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。



参考

バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に「Auto」モードに設定されます。



Backlight (バックライト)

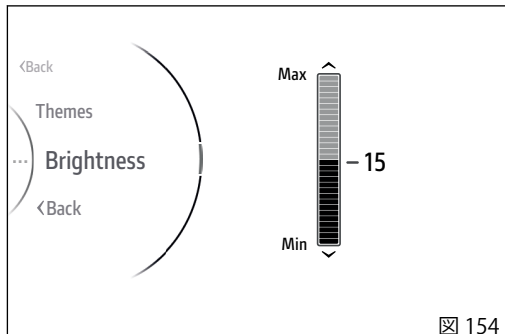
この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Display setup (ディスプレイ設定)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Brightmess (明るさ)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

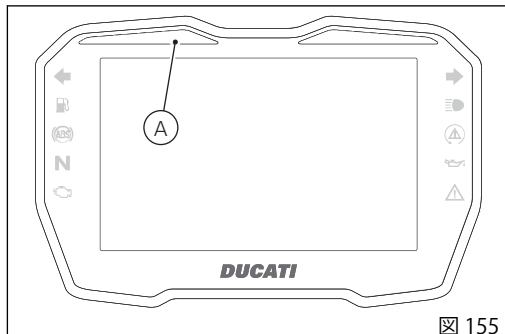
バーグラフが現在設定されている強度で表示されま

す。右側には現在の設定レベルが表示されています。明るさは、インストルメントパネルが検出した周囲の明るさに応じて自動調整されます。バックライトの明るさ調整は、インストルメントパネルによる検出をもとに算出されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して、バックライトの明るさを調整することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back (戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。



インストルメントパネルの明るさは、フォトダイオードで検出された周囲の明るさに応じて自動調整されます (A)。バックライトの明るさ調整は、フォトダイオードによる検出をもとに算出されます。



Setting menu – PIN Code

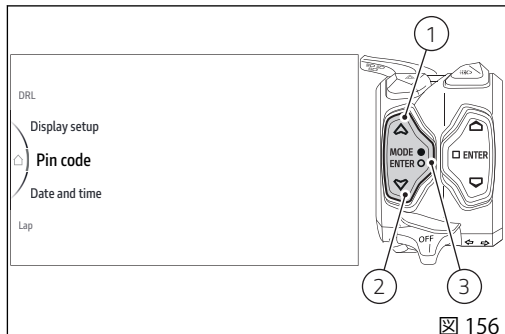
この機能でPIN Codeの有効化または変更を行います。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「PIN code」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

PIN Code は最初車両に登録されていないので、ユーザーが4桁のPIN をインストールパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に車両を一時起動することができません。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、「PIN Code による車両の解除」の手順に従います。

これまでにPIN Codeが登録されたことがない場合は、メニュー内に「New PIN」と表示され、PIN Codeの登録を行えます。PIN Codeがすでに登録されている場合は、メニュー内に「Modify PIN (PIN の変更)」と表示され、保存されているPIN Codeを変更することができます。



156



警告

PIN Code の登録および保存は、車両の所有者が行います。自分のものではないPIN Code がすでに登録されている場合は、Ducati 正規ディーラーにPIN Codeのリセットをご依頼ください。その際Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただきますことがあります。

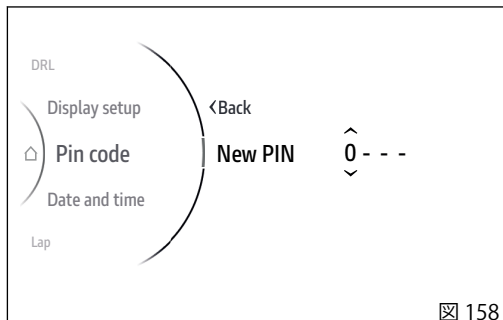
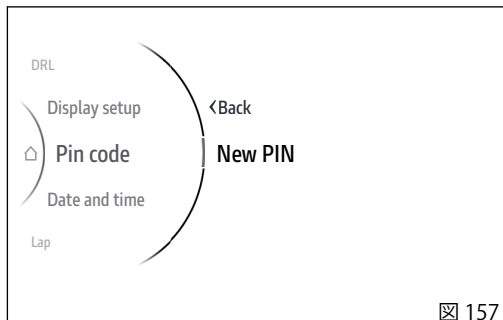
新しいPIN

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「PIN code」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「New PIN」を選択し(図 157)、「ENTER」(3)を押します。

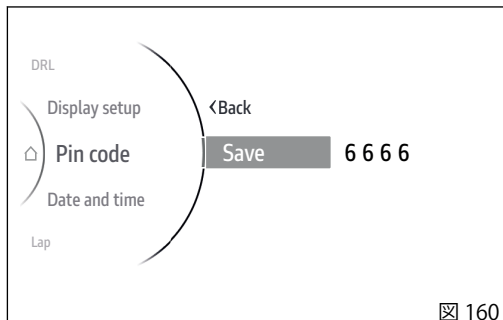
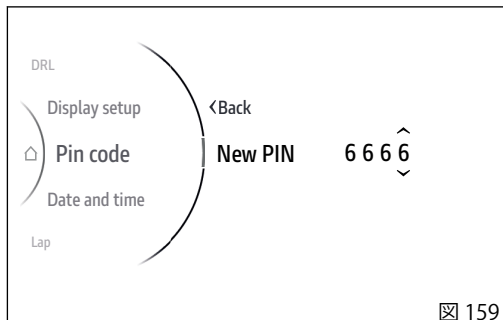
PIN 入力用の 4 桁の 1 桁目が表示されます (図 158)。

コードの入力：

- 数字の上下にある数字は、ボタン(1)、(2)を使用して数字を 0~9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」(3)を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。



最後の桁を決定すると (図 159)、「Save? (保存しますか)」の文字が表示されます。(図 160)。「ENTER」(3) を押して決定すると、「Saved (保存されました)」の文字が数秒間表示されます。インストルメントパネルは前の画面に戻り、「New PIN」の代わりに「Modify PIN (PINの変更)」が表示されます。



PIN の変更

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「PIN code」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Modify PIN (PIN の変更)」を選択し(図 161)、「ENTER」(3)を押します。
- 「Current PIN (現在のPIN)」が表示され、「ENTER」(3)を押して入力に進みます(図 162)。

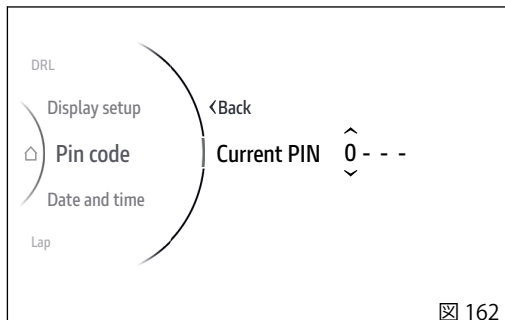
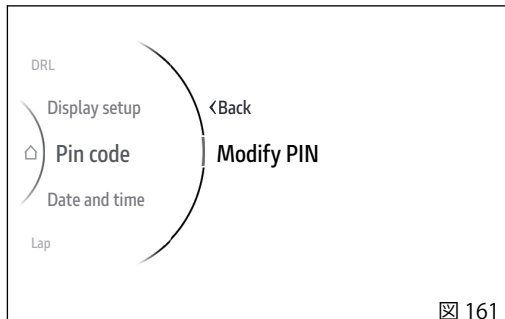
コードの入力：

- 数字の上下にある数字は、ボタン(1)、(2)を使用して数字を0~9の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」(3)を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。

4桁目を入力してから「ENTER」ボタン(3)を押すと、以下ようになります。

- PIN が正しく入力された場合は、「Correct」と表示されます。
- PIN が正しく入力されなかった場合は「Wrong」と表示され、現在のPINをもう一度入力できるようになります。

PIN が正しい場合は、新しいPINの入力に進みます。



PIN 入力用の 4 桁の 1 桁目が表示されます (図 158)。

コードの入力：

- 数字の上下にある数字は、ボタン (1)、(2) を使用して数字を 0~9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」(3) を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。

最後の桁を決定すると、「Save? (保存しますか)」の文字が表示されます。

「ENTER」(3) を押して決定すると、「Saved (保存されました)」の文字が数秒間表示されてから、インストールパネルが前の画面に戻ります。

Setting menu – Date and time

この機能で日時と形式を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Date and time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

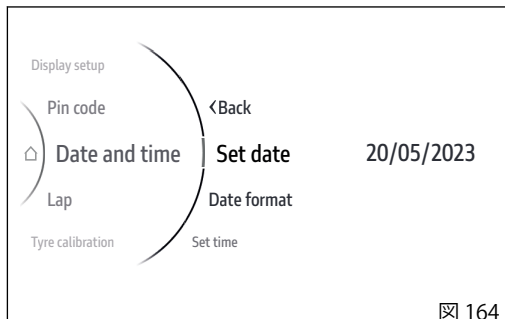
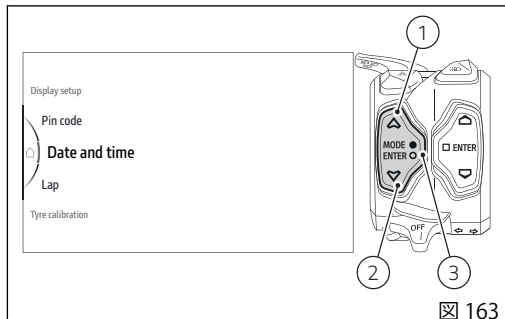
「Set date (日付の設定)」、「Date format (日付形式)」、「Set time (時間の設定)」、「Time format (時間形式)」が表示されます。右側には、現在の設定が表示されています。

ボタン (1) と (2) を使用してスクロールし、設定するパラメーターを選択できます。「ENTER」(3) を押して決定します。



参考

日付と時間がまだ設定されていない場合は、それぞれの値の代わりに点線「-」が表示されます。



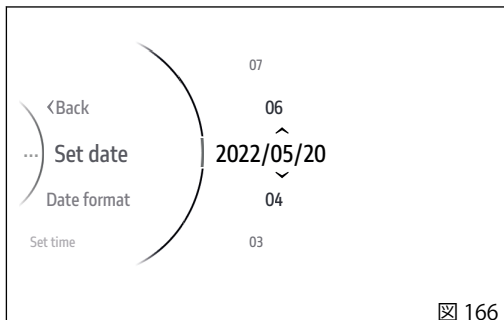
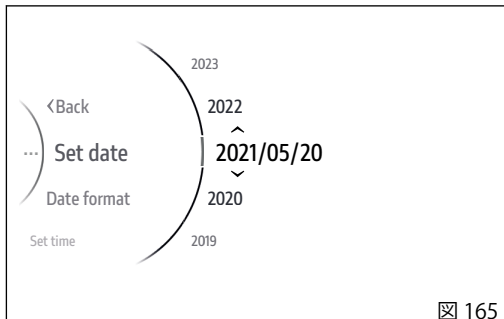
日付の設定

この機能で日付を設定します。図中例の日付形式は「年/月/日」です。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Date and time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Set date (日付の設定)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

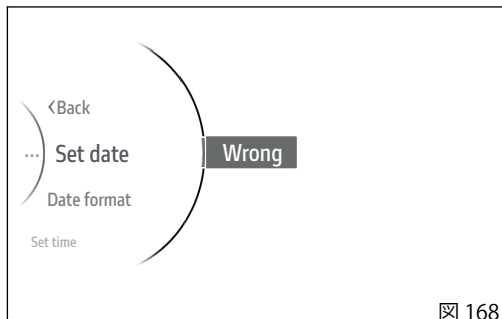
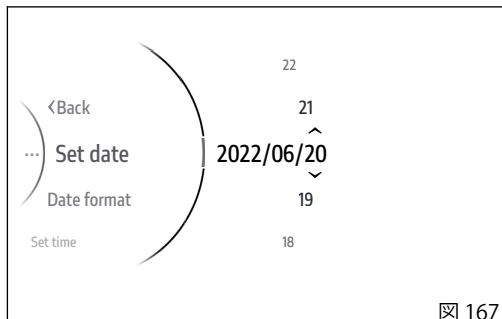
日付の最初のパラメーター(図例では「年」)が変更できるようになり、上下に2つの矢印が表示されます。また、選択されたパラメーターの上下に設定できる数値も表示されます(図165)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、次のパラメーターに移動します。

矢印と設定できる数値の表示が、2番目のパラメーター(図例では「月」)に移動します(図166)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、次のパラメーターに移動します。



矢印と設定できる数値の表示が、3番目のパラメーター(図例では「日」)に移動します(図167)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。

日付の最後のパラメーターを決定した時点で、入力された日付が無効な場合は「Wrong」が数秒間表示されます(図168)。その後、正しい日付の入力に進みます。

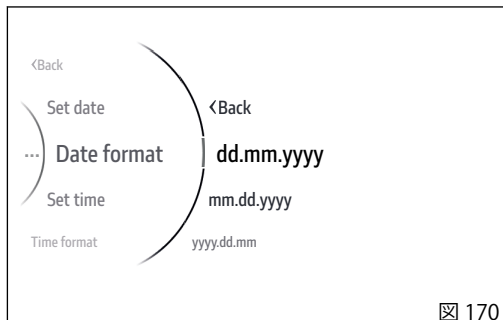
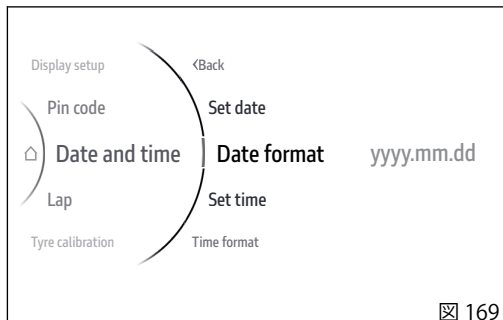


日付形式

この機能で日付形式を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Date and time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Date format (日付形式)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

設定できる形式「dd.mm.yyyy」、「mm.dd.yyyy」、「yyyy.dd.mm」、「yyyy.mm.dd」が表示されます。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する形式を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。

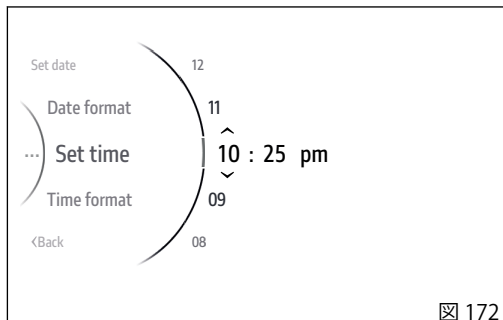
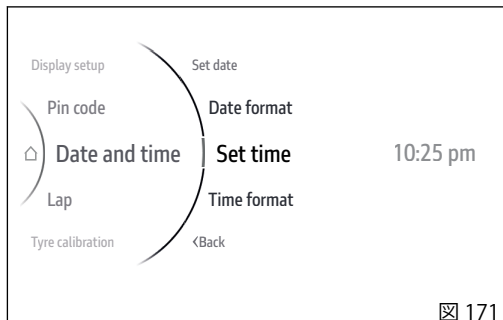


時間の設定

この機能で時間を設定します。図中例の時間形式は12時間制 (AM/PM) です。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Date and time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Set time (時間の設定)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

「時」の数字が選択できるようになり、上下に2つの矢印が表示されます。また、選択されたパラメーターの上下に設定できる数値も表示されます (図 172)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、「分」の数字に移動します。



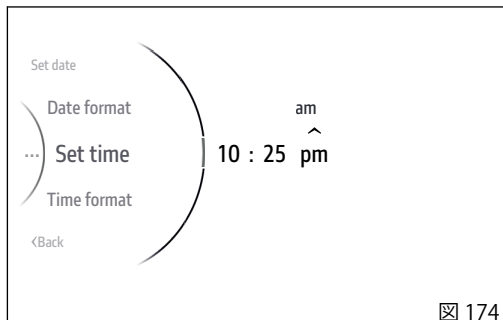
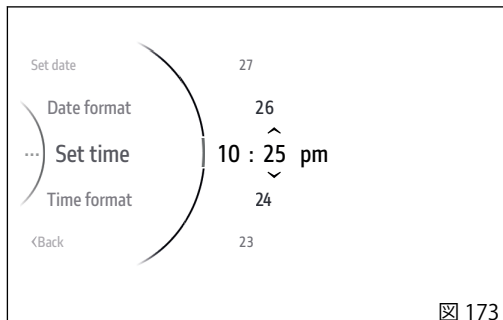
矢印と設定できる数値の表示が分数に移動します(図 173)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、「AM/PM」の選択に移動します。

「am」または「pm」を選択可能になります(図 174)。ボタン(1)とボタン(2)を使用して、目的の値を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。



参考

現在の時間形式に24時間制を設定している場合は、パラメーター「AM/PM」は表示されません。

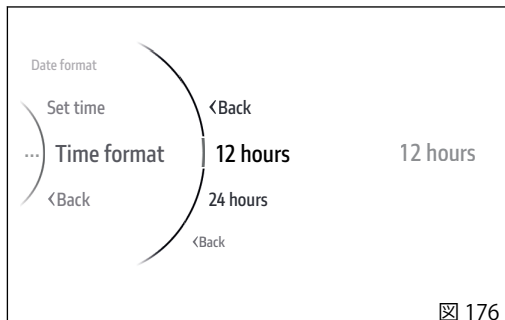
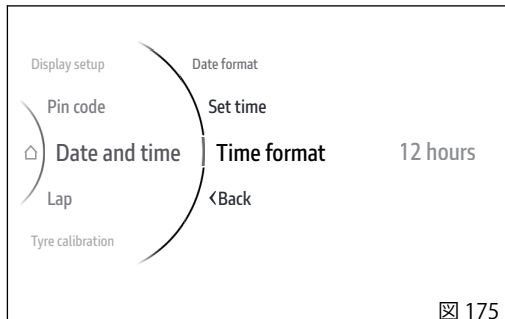


時間形式

この機能で時間形式を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Date and time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Time format (時間形式)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

形式「12 hours (12時間)」と「24 hours (24時間)」が表示されます(図 176)。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する形式を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。



Setting menu – Lap

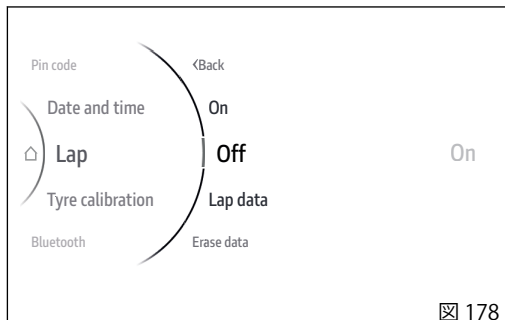
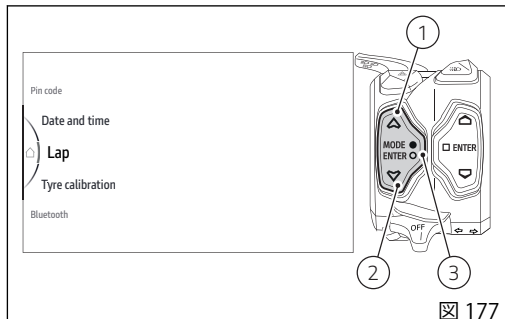
この機能で Lap 機能の起動/解除 (ページ 116 参照)、記録されているラップタイムの閲覧と消去が可能です。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

このメニューに入ると、画面右側に機能の現在の状態が表示され、左側に次の項目が表示されます。

- 「On」: Lap 機能を起動します。
- 「Off」: Lap 機能を解除します。
- 「Lap data」: 記録されている Lap を表示します。
- 「Erase data」: 全 Lap 記録を消去します (ラップ記録が存在する場合にのみ表示)。

ボタン (1) と (2) を使用して目的の表示を選択し、「ENTER」ボタン (3) を押します。
車両に GPS EVO が搭載されているかどうかで、「Lap data」機能の記録ラップの表示が LAP BASIC モードか LAP EVO モードのいずれかで表示されます。
車両の起動時、Lap 機能は常に「Off」に設定されます。



Lap data (LAP BASIC モード)

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Lap data (ラップデータ)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

この機能に入ると、「Best laps」と記録されているセッション(最大値60)が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して、記録ラップをスクロールし、表示することができます。

各記録ラップごとに表示されるデータ：

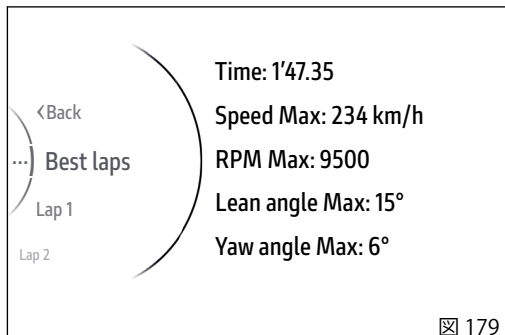
- 「Time」 - ラップタイム(最大タイム 8'59"99)
- 「Speed max」 - ラップ中に到達した最高スピードと設定単位
- 「RPM max」 - ラップ中に到達した最高エンジン回転数
- 「Lean angle (max)」 - 最大リーン角
- 「YAW angle (max)」 - 最大ヨー角

「Best laps」を選択すると、記録ラップ中のベストラップのデータが表示されます。



参考

最大60ラップまで記録することができます。



ラップ記録が存在しない場合は、メニューに入ると「No lap」と表示されます。

Lap data (LAP EVO モード)

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Lap data (ラップデータ)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

この機能に入ると、「Best laps」、「Best intertime 1」、「Best intertime 2」と記録されているセッション(最大6)が表示されます。

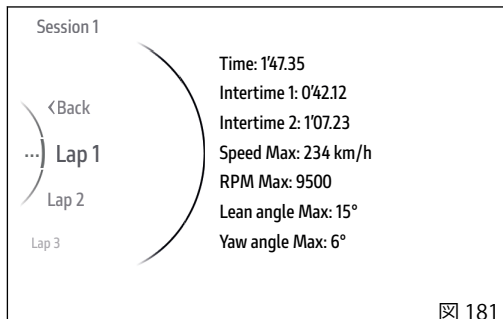
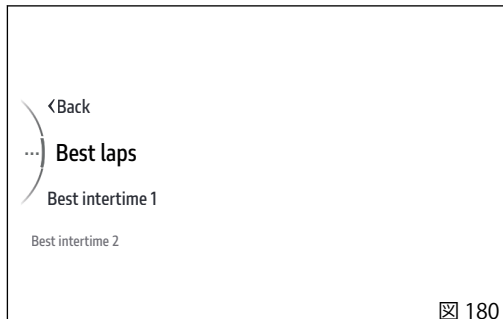
セッション内の記録ラップを表示するには、表示するセッションを選択し、「ENTER」ボタン(3)を押します。

選択したセッション内に記録されている全ラップが表示されます(図 181)。

ボタン(1)とボタン(2)を使用して、記録ラップをスクロールし、表示することができます。

各記録ラップごとに表示されるデータ：

- 「Time」 - ラップタイム (最大タイム 8'59"99)
- 「Intertime 1」 - 第1中間点が設定されている場合 (最大タイム 8'59"99)
- 「Intertime 2」 - 第2中間点が設定されている場合 (最大タイム 8'59"99)
- 「Speed max」 - 最高実スピードと設定単位 (GPS EVO が検出したスピード)



- 「RPM max」 - ラップ中に到達した最高エンジン回転数
- 「Lean angle (max)」 - 最大リーン角
- 「YAW angle (max)」 - 最大ヨー角
- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Erase data」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



参考

6セッションあわせて最大60ラップまで記録することができます。

ラップ記録が存在しない場合は、メニューに入ると「No lap」と表示されます。

中間タイム地点の設定とラップ/セッションの記録については、ページ116をご覧ください。

Best laps (LAP EVOのみ) :

「Best laps」を選択すると(図180)、各セッション内に記録されたベストラップのデータが表示されます。

Best intertime 1、Best intertime 2 (LAP EVOのみ) :

「Best intertime 1」または「Best intertime 2」を選択すると、中間タイム1または中間タイム2の各セッションで記録されたベストタイムに関するデータが表示されます。

Erase data

この機能でラップ記録を消去することができます。

次に、右側に「Wait...」の文字が2秒間表示され、続いて「Erased」の文字が2秒間表示されます。その後のメニュー画面に戻ります。

Setting menu – Tyre calibration

この機能では、タイヤの円周長のキャリブレーションと自己学習、または初期設定値への回復の手順を行います。また、基準適合構成に変更があった場合にも、最終減速比（フロントスプロケット/リアスプロケット）を正しく学習することが可能です。このモデルで許容されるフロントスプロケット/リアスプロケットの組み合わせの表がある場合は、それを参照してください。

したがって、タイヤキャリブレーション機能は、次の場合に使用する必要があります。

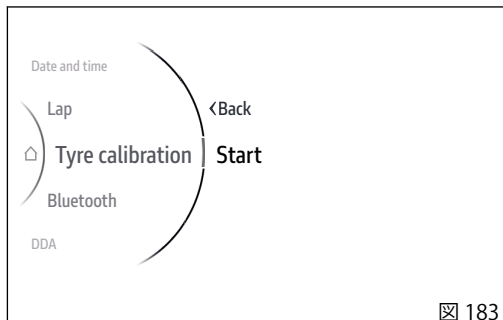
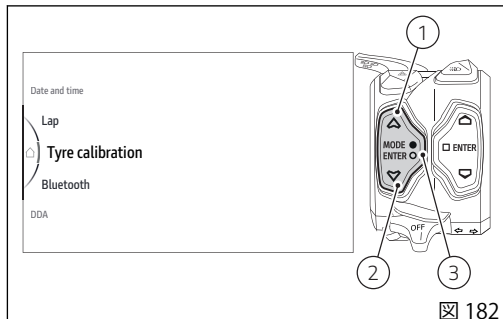
- タイヤを交換する場合
- 最終減速比を変更する場合

この機能にアクセスするには以下のように操作してください。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Tyre calibration (タイヤキャリブレーション)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

まだタイヤのキャリブレーションを実行したことがない場合は、「Start」と表示されます。

すでに実行したことがある場合は、「Start」の代わりに「Default」と表示されています。



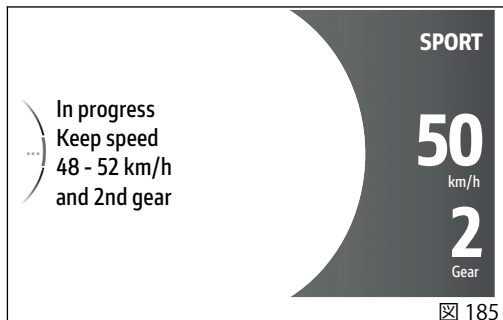
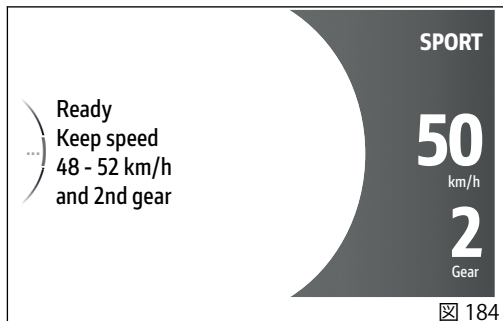
Tyre calibration - Start

この機能に入り、「Start」と表示されているときに「ENTER」(3)を押すと、インストルメントパネルにキャリブレーションを進める画面が表示されます。

この画面内には「Ready (開始可能)」の文字と、2速ギアを入れた状態で維持する速度(49 km/h (30 mph) ~ 51 km/h (32 mph))が表示されています。画面右側には、速度と現在のギアが表示されます。

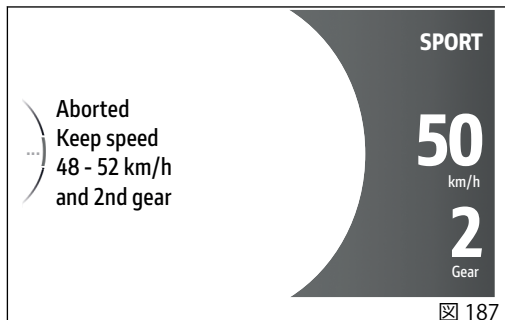
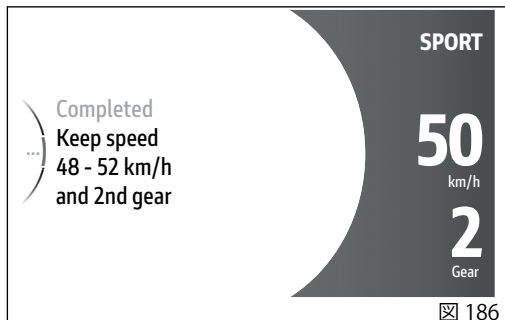
速度とギアが指定の状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、「Ready (開始可能)」の代わりに「In progress (実行中)」が表示されます。

速度とギアが指定のパラメーターに5秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。



自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに「Completed (完了しました)」の文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

キャリブレーション手順を中止するには、ボタン(1)を長押しします。この場合は、インストルメントパネルに上記の全情報が表示され、「In progress (実行中)」の文字(図 185)が「Aborted (中止されました)」の文字に変わります。そして数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

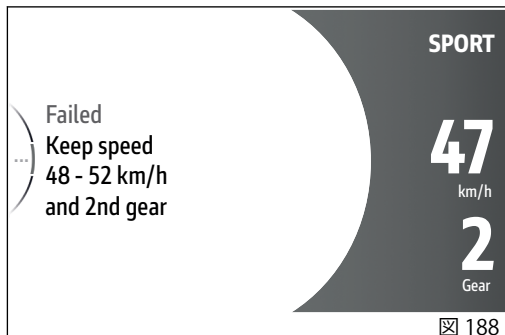


キャリブレーション実行中に速度とギアの指定条件から外れた場合や、エラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに「Failed (失敗しました)」と表示され、数秒後に前のメニューに戻ります。



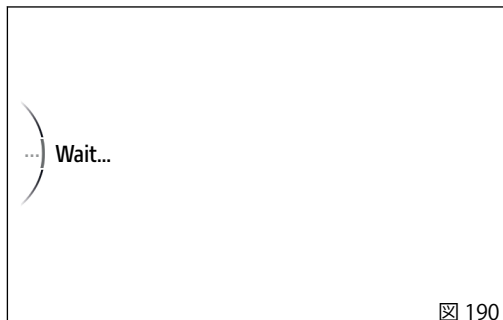
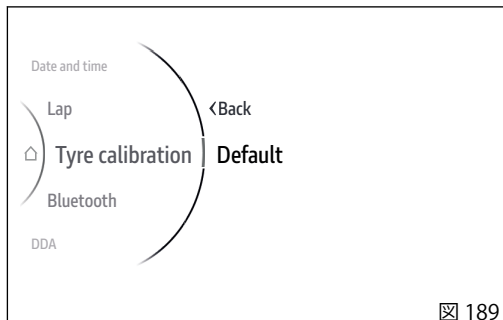
参考

キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が100 km/h (62 mph) を超えるか、もしくは車両をオフにすると、キャリブレーションは中断されます。



Tyre calibration - Default

この機能に入り、「Default (デフォルト)」を選択した状態で「ENTER」(3)を押すと、インストルメントパネルに「Wait… (お待ちください)」と2秒間表示され、その後「Default restored (デフォルトに回復されました)」と2秒間表示されてから、前のメニュー画面に戻ります。



**警告**

最終減速比の変更は、クローズドサーキットで車両を使用する場合に限り許可されるものです。公道走行には使用できません。

**警告**

最終減速比の変更は保証を受ける権利の即時失効を伴い、保安基準適合バージョンに相当しなくなることから公道走行には使用できません。

最終減速比	リアスプロケット							
	39	40	41	42	43	44	45	
フロントスプロケット	15	2.6	2.67	2.73	2.80	2.87	2.93	3
バックスプロケット	16	2.44	2.5	2.56	2.63	2.69	2.75	2.81

Setting menu – DDA

ここでは DDA 装置の起動および解除、メモリー占有率の表示、装置のメモリー削除を行うことができます。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「DDA」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

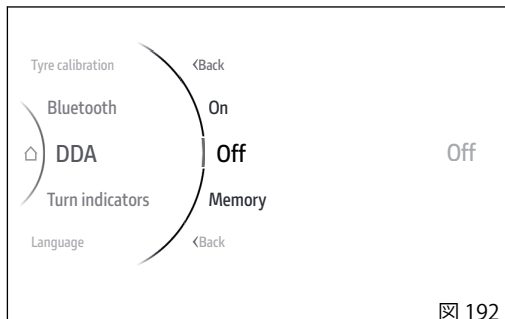
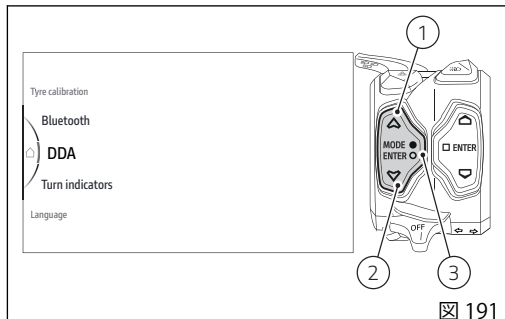
メニュー内には「Off」、「On」、「Memory」の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。



参考

Key-OFF する度に DDA システムはインストールメントパネルにより自動的に解除されます。



メモリ

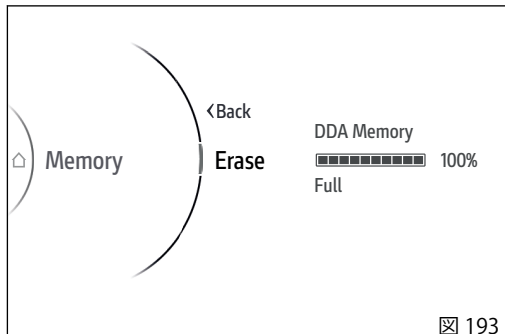
DDA が記録したデータの表示と削除を行います。

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「DDA」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Memory(メモリ)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

記録が存在しない場合、機能に入ると「Empty」の文字が表示されます。そうでない場合は、メモリの状態を表すパーセンテージとバー、「Erase」の項目が表示されます。メモリが一杯の場合は、「Full」の文字が表示されます。

すべての記録データを消去する場合は、「Erase」を選択し、「ENTER」ボタン(3)を押します。

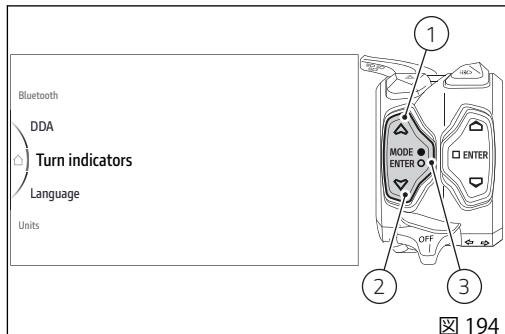
メニューを終了して前の画面に戻るには、「戻る」を選択して「ENTER」ボタン(3)を押します。



Setting menu – Turn indicators

この機能では、ターンインジケータ操作を自動モードまたは手動モードに設定することができます。ターンインジケータ自動解除ストラテジーは、リーン角度、走行速度、走行距離から算出されたデータを基にしています。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Turn indicators (ターンインジケータ)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



「Auto-off(自動消灯)」と「Manual-off(手動消灯)」が表示されます。
画面右側には、現在設定されているモードが表示されています。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望するモードを選択することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back(戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。



参考

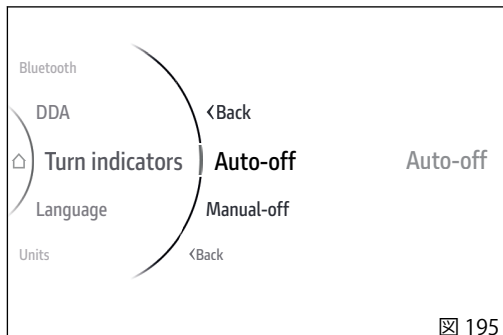
バッテリーの接続が切れた場合は、自動モードに設定されます。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケータが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケータボタンを操作することにより、車両速度が20 km/h (12.4 mph)を超えると作動します。

ターンインジケータは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケータボタンが操作された時の車両速度に応じて、200～2,000メートル(656～6,562 フィート)までの範囲で変化します。

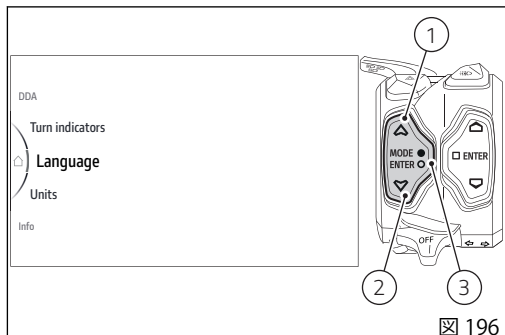


ターンインジケータの作動中、ターンインジケータを作動させようとしてターンインジケータボタンを再び押し、自動解除機能は再度初期化されます。

Setting menu – Language

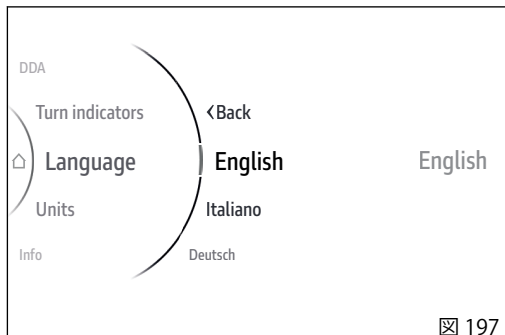
この機能でインストルメントパネルの言語を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Language (言語)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



「English、Italiano、Deutsch、Francais、Nederlands、Espanol」が表示されます。画面右側には、現在設定されている言語が表示されています。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する言語を選択することができます。「ENTER」(3)を押して確定すると、「Back(戻る)」が選択され、もう一度「ENTER」(3)を押して終了します。



Setting menu – Units

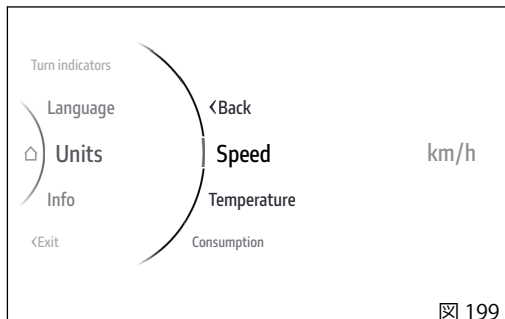
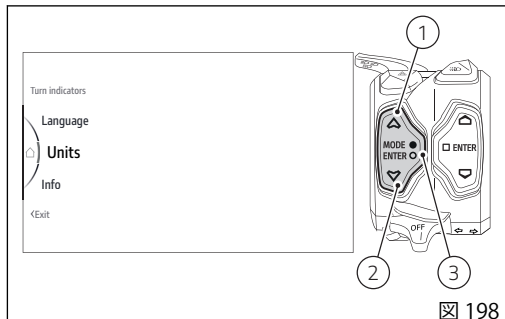
この機能はインストルメントパネルの表示単位を設定します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。

「Speed (速度)」、「Temperature (温度)」、「Consumption (燃費)」、「Pressure (圧力)」、「Default (デフォルト) (ひとつ以上の測定単位が変更されている場合のみ)」が表示されます。

右側には、選択している項目の現在の設定単位が表示されています。

ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3) を押して決定します。



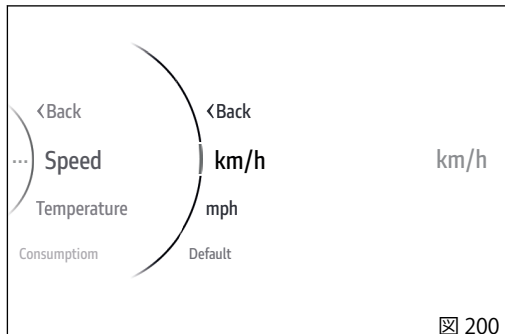
速度

速度の単位を設定する場合：

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Speed (速度)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

「km/h」、「mph」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、前の画面に戻ります。



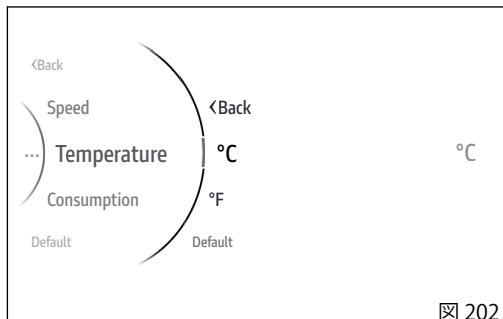
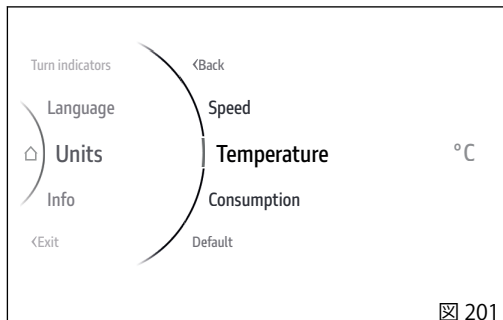
Temperature

温度の単位を設定する場合：

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Temperature (温度)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

「° C」、「° F」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、前の画面に戻ります。



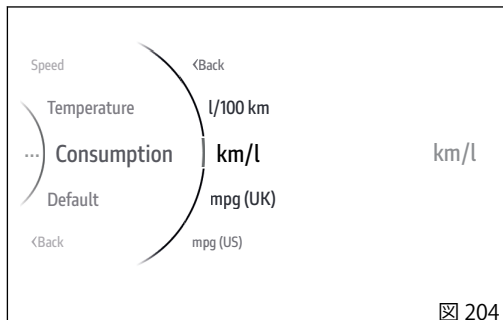
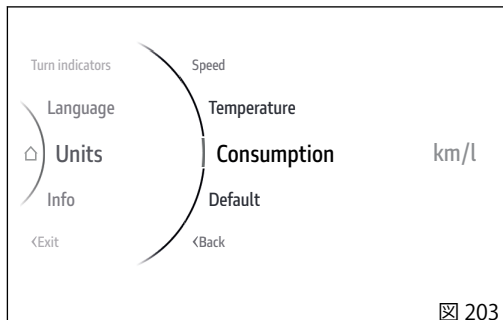
Consumption

燃費の単位を設定する場合：

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Consumption (燃費)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。

「l/100」、「km/l」、「mpg UK」、「mpg US」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。

ボタン(1)とボタン(2)を使用してスクロールし、希望する項目を選択することができます。「ENTER」(3)を押して決定し、前の画面に戻ります。

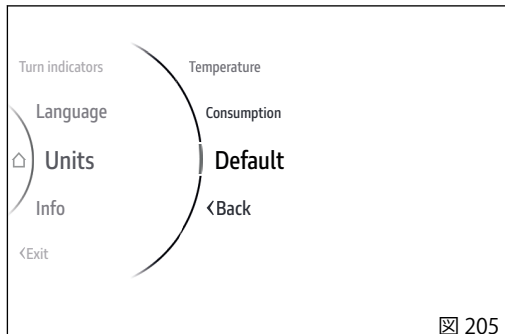


測定単位の初期設定回復

すべての測定単位、または個別の測定単位を初期設定に戻します。

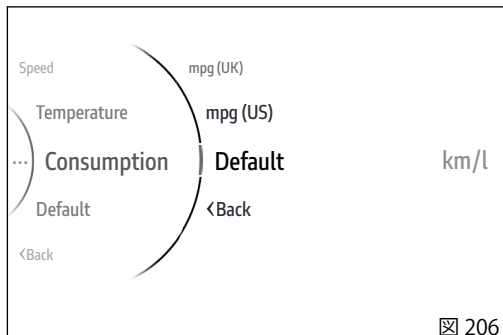
すべての測定単位を初期設定に回復する場合：

- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 表示されていれば「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。「Wait… (お待ちください)」が数秒間表示されてから「Restored (回復されました)」と表示され、その後「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。



個別の測定単位を初期設定に回復する場合：

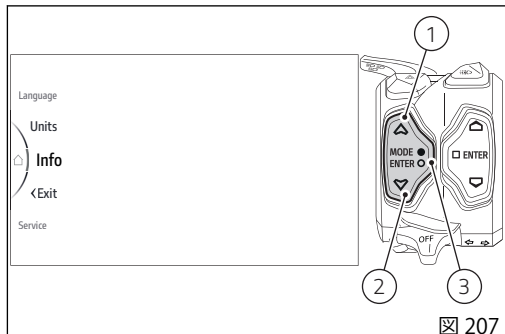
- インタラクティブメニューからボタン(1)とボタン(2)を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 「Units (単位)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 初期設定に戻す項目 (例：Consumption) を選択し、「ENTER」(3)を押します。
- 表示されていれば「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」(3)を押します。「Wait… (お待ちください)」が数秒間表示されてから「Restored (回復されました)」と表示され、その後「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。



Setting menu – Info

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

- インタラクティブメニューからボタン (1) とボタン (2) を使用して、「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」(3) を押します。
- 「Info」を選択し、「ENTER」(3) を押します。



バッテリーに関する情報とエンジン回転数がデジタル形式で表示されます。

バッテリー電圧が11.0～11.7Vの場合、もしくは15.0～16.0Vの場合は、バッテリーのデータが赤色で点滅表示されます。

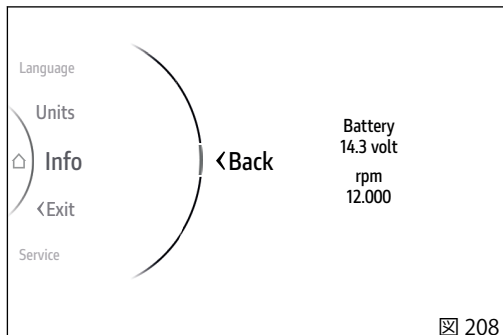
バッテリー電圧が11.0V未満の場合、データの代わりに「LOW」の文字が赤色で点滅します。

バッテリー電圧が16.0Vを超えている場合は、データの代わりに「HIGH」の文字が赤色で点滅します。



参考

この機能については変更はできません。



ドゥカティパワーローンチ (DPL)

この機能は、ドゥカティパワーローンチ (DPL - Ducati Power Launch) 機能を起動します。

DPL ボタン (4) を押して、ローンチコントロールメニューに入ります。この操作は走行速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合にのみ有効です。

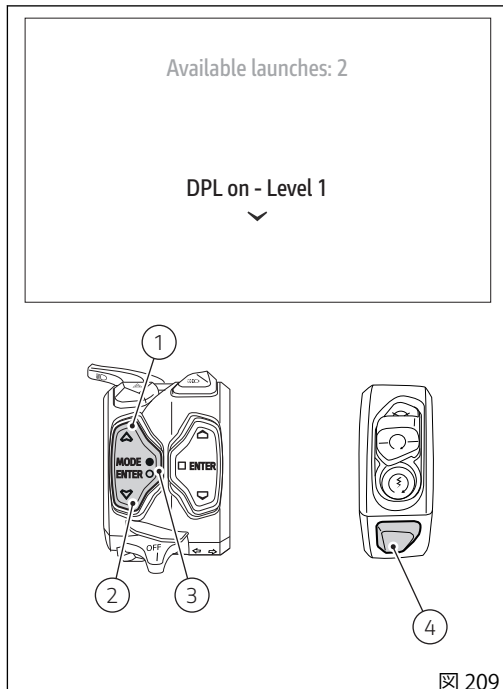
ローンチコントロールメニュー内では、UP ボタン (1) および DOWN ボタン (2) を使用して好みの DPL レベル (1、2、3) を選択することができます。一方、ENTER ボタンを 2 秒間長押しすると、選択したレベルが設定されます。

参考

このメニュー内で 10 秒間変更が行われなければ、インストルメントパネルは DPL を OFF に設定し、前の画面に戻ります。

参考

利用可能なローンチがない場合、"No launches available" が画面に表示されます。



DPL レベルが設定されると、待機画面が2秒間表示されます。待機画面の表示中に「ENTER」ボタン(3)を押すと待機フェーズが中断され、インストルメントパネルはメイン画面に戻ります。この場合、DPLはOFFに設定されます。

続いて「ローンチコントロール」画面が表示されます。

ローンチコントロールが終了するとインストルメントパネルはDPLをOFFに設定し、メイン画面に戻ります。

ドゥカティ社のDPL初期設定はOFFに設定されています。

Launch waiting...

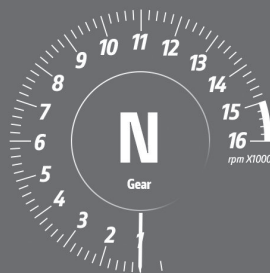
**Pull the clutch
Engage 1st gear
Open Full Throttle**

<Exit

☒ 210

**Ready
to launch**

**Gradually
release the clutch
and start**



☒ 211

DTC が “Off” に設定されている場合に DPL ボタンを押すと、インストルメントパネルには "DTC off DPL not available" が 5 秒間表示され、その後メイン画面に戻ります。

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能にしてくれます。

DPL システムは3つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

下表は、発進時の運転タイプに適したDPL介入レベルを示します。すべてのレベルは標準装備のOEMタイヤに合わせて最適化されています。

DPL レベル	パフォーマンス	用途
1	High	非常に熟練したライダー向けに最大のパフォーマンスを発揮。システムはウィリーおよびリアホイールのスリップを可能にしますが、これらの現象発生時の速度を抑えます。
2	Medium	熟練ライダー向け。システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を軽減するだけでなく、これらの現象が発生した場合には大幅な介入を行います。
3	Medium	すべてのライダー向け。システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるだけでなく、これらの現象が発生した場合には継続的に介入を行います。



警告

DPLシステムは、路面のグリップが良好な状態の直線および平坦なルートでのみ使用してください。DPLシステムは整備された環境またはクローズドサーキット内での使用を考慮しています。このため、安全上の理由から不適切な場所での使用はしないでください。

発進方法

発進操作は、主に次の二段階に分けられます。

- 第一段階は、クラッチを完全に放していない状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、クラッチの位置および滑りに依存します。
- 第二段階は、クラッチを完全に放した状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、エンジンが出力するトルクに依存します。

DPLシステムは停止状態からの発進時の第一段階にエンジンから出力されるトルクを自動的に調整してライダーをサポートする補助システムです。発進時の理想のエンジン回転数を維持することで、ライダーは急激なクラッチ操作ではなく、均一でソフトなクラッチ操作が可能になります。エンジントルクは第二段階においても調整されます。これにより、最大の出力を確保しながらウィリーおよびリアホイールのスリップを制限します。

クラッチの損傷を避けるため、DPLシステムは連続して実行可能な発進回数をリアルタイムで算定し、インストルメントパネルの専用メニューに表示します。発進完了ごとにカウントが1減少します。DPLシステムでは、車両の走行距離およびエンジン稼働/停止状態で経過した時間に応じてカウントが1増加します。発進可能回数がゼロでない限り、ローンチコントロールの使用が可能です。



警告

DPLシステムの使用により、エンジンおよびトランスミッションの機械部品の寿命が短くなる場合があります。

DPLシステムは、エンジンが動作温度に達した時のみ使用してください。

DPLのローンチコントロールを実行するには、車両が以下の条件を満たしていなければなりません。

- 走行速度 0 km/h
- 垂直姿勢
- エンジン作動
- DTC ステータス ON

ローンチコントロールの残りカウントがゼロでない限り、ライダーは専用ボタンで関連メニューにアクセスし、インストルメントパネルで希望のDPLレベルを選択することが可能です。

レベルを選択したら、ライダーはまずクラッチを引きます。1速ギアに入れ、スロットルグリップを最大位置まで完全に開きます。

上記の一連の操作が実行されると、DPLシステムはシステムのスタート準備が整ったことを知らせる確認画面をダッシュボードに表示します。

その後、スロットルグリップを完全に開いた状態でクラッチを徐々に離します。

走行速度が20 km/hを超えた時、インストルメントパネルの表示は通常機能の画面に戻ります。ただし、発進の間は選択されているDPLレベルが常に表示されます。

クラッチが完全に解放された後で以下の条件のいずれかが検知されると、DPLシステムはOFFになります。

- 走行速度が160 km/hを超えた
- 3速ギアが入れられた

クラッチが完全に解放された後、ライダーが発進操作の中止した場合、すなわちスロットルを閉じて走行速度を5 km/h未満に減速した場合にも、DPLシステムはOFFになります。



警告

システムはエンジンからの出力を管理しますが、クラッチを放す操作は管理しません。クラッチ操作はユーザーが制御します。

発進段階でクラッチを急激に放すと、車両の最適な動作を維持できません。また、クラッチ操作に長時間かけすぎると、クラッチが過熱し、クラッチの損傷につながるおそれがあります。



警告

ユーザーの車両上でのポジションがシステムの動作に影響を与える場合があります。

レベルの選択に際しての注意事項

レベル3を選択すると、DPLシステムは発進時のウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるように入ります。レベル2および1ではシステムの介入は少なくなります。

各自の運転に最も適したDPLレベルを見つけるには、システムを起動してまずレベル3を選択し、システムの特性を理解するために実際に発進します。その後、最善の介入レベルになるまでレベル2、1の順に試してください。

標準装備のOEMタイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きい

く異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

警告

DPLはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実に安心な運転を可能にすることを旨としたメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単に確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

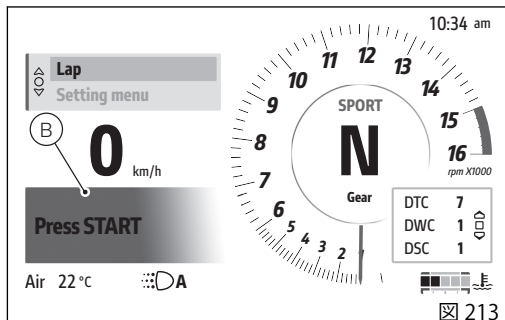
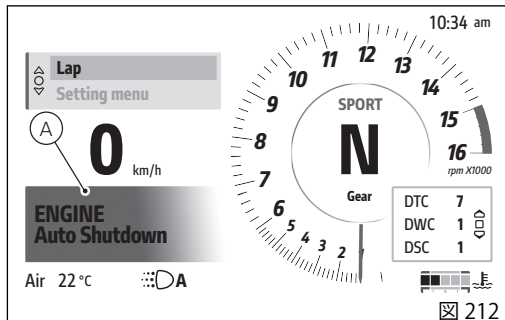
エンジン自動停止

この機能は、コントロールユニットによってエンジンが自動停止された場合に警告を発します。

停車中、エンジン温度に基づいてタイマーが作動し、タイマー終了時にエンジンが停止します。この場合、メイン画面(図中例: Info Mode Track)には次の警告メッセージが3秒ごとに交互に表示されます。

- 「Engine auto shutdown (エンジン自動停止)」 (A)
- 「Press start (スタートを押してください)」 (B)

エンジンを始動するには、始動ボタンを押してください。



警告表示

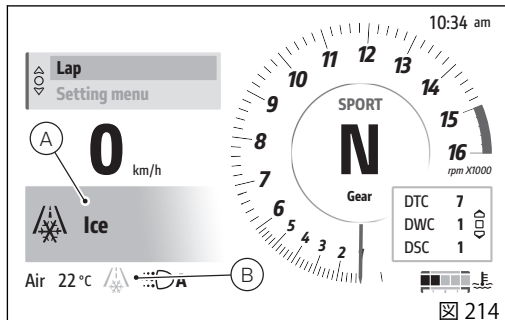
車両の使用中にユーザーに有用な情報を提供できるように、インストルメントパネルは一連の注意と警告を管理します。

Info Mode Track または Road に設定されている場合 (ページ 96 参照)、警告が存在する場と、インストルメントパネルに警告またはアラームの表示が現れます。最初の 3 秒間は大きく表示 (A) され、その後小さく表示 (B) されます。

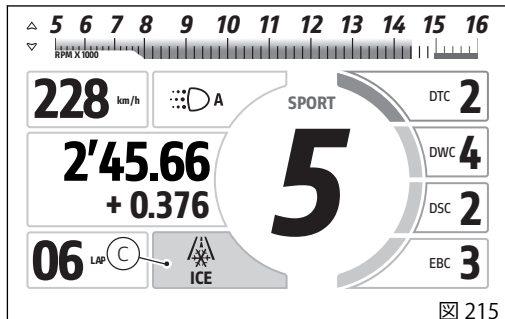
複数の警告またはアラームが存在する場合は、3 秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

Info Mode TrackEvo に設定されている場合、警告が存在すると、インストルメントパネルの専用エリア (C) に存在する警告やアラームが表示されます。複数の警告またはアラームが存在する場合は、3 秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

次の図には、左側にそれぞれの警告の大きい表示、中央に小さい表示、右側に Info Mode TrackEvo 用の表示を示しています。



☒ 214



☒ 215

Ice (凍結) (D)

黄色で表示され、外気温が低いため路面凍結の危険があることを示します。気温が4° C (39° F) 以下になると作動します。気温が6° C (43° F) まで上がると警告は解除されます。



警告

この警告は、気温が4° C (39° F) を超えている場合でも、凍結の可能性がないことを保証するものではありません。気温が低い時に日陰や橋の上を走行する際は、特に安全運転を心がけてください。

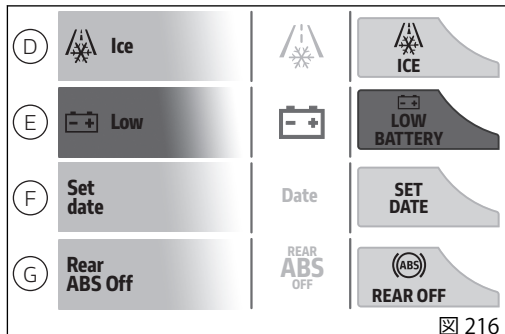
Low battery (バッテリー残量低下) (E)

赤色で表示され、バッテリー充電レベルが11.0V以下に低下していることを示します。

車両を始動できるおそれがありますので、専用のバッテリー充電器で速やかにバッテリーを充電してください。

Set date (日付の設定) (F)

黄色で表示され、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Date and Time (日付と時間)」機能から日付を入力する必要があることを示します (ページ 203)。



Rear ABS Off (G)

黄色で表示され、ABSに設定されたレベルがフロントホイールのみで作用することを示しています。ABSレベルの変更については、ページ 152 を参照してください。

Low fuel (燃料低下) (H)

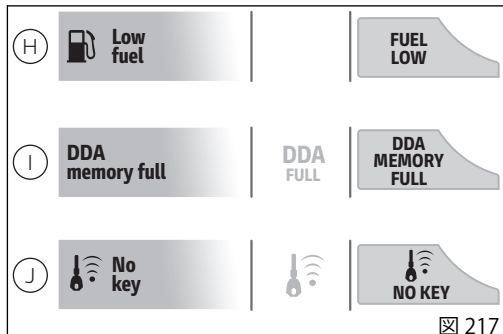
黄色で表示され、燃料レベルが低下していることを示します。この警告には小さい表示はありません。

DDA memory full (メモリーフル) (I)

黄色の表示は、DDAメモリーにこれ以上走行データを記録できないことを示します (ページ 220 参照)。

キー不在 (J)

黄色で表示され、キーが認識できなかったことを示しています。



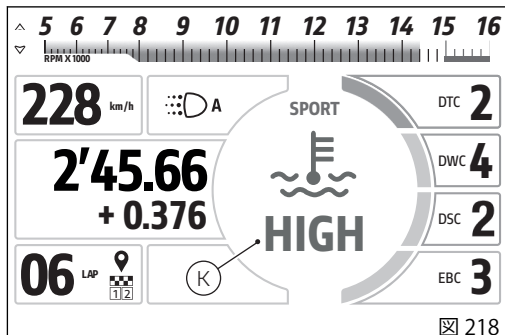
エンジンクーラント温度の過熱 (Info Mode Trackのみ)

Info Mode Trackに設定されている場合、過熱すると、警告 (K) が赤色で表示されます。

警告

過熱状態の時は、冷却システムがエンジン温度を下げるができるように、できるだけ低速で走行してください。低速で走行できない交通状況の時は、停車してエンジンを切ってください。

エンジンが過熱した状態で車両を使用し続けると、深刻な損傷を引き起こすおそれがあります。



エラー表示

インストルメントパネルは、車両の不具合をリアルタイムに特定できるように、エラーの警告を管理します。

エラーが発生すると、メイン画面に大きい通知 (A) が赤色で 10 秒間点滅表示されてから、小さい表示 (B) に変わります (Info Mode Track および Road、図 219) (Info Mode Track Evo、図 220)。

エラーが解決されるまで、通知が表示され続けます。複数のエラーが存在する場合は、5 秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

Traction control error!

このエラーが表示された場合は、DTC にエラーが発生しているため、Ducati 正規サービスセンターにご連絡いただく必要があることを示しています。

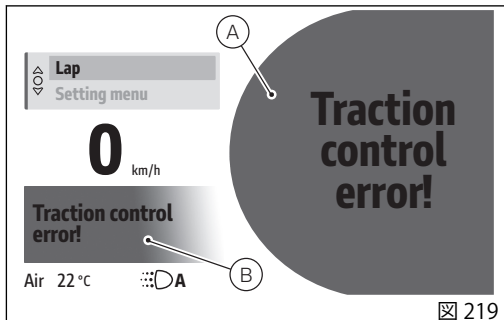


図 219

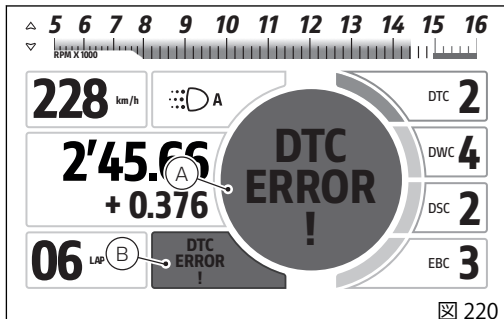


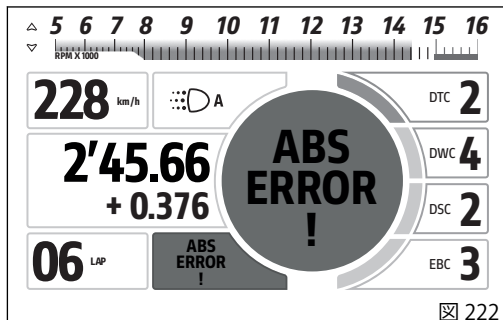
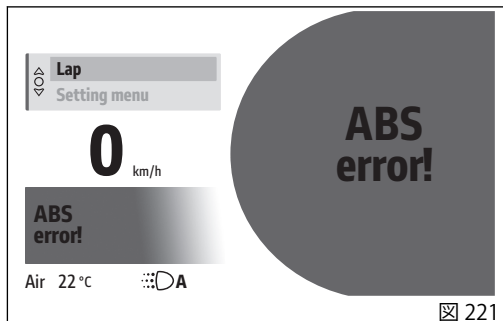


図 220

ABS error!

このエラーが表示された場合は、ABSにエラーが発生しているため、Ducati 正規サービスセンターにご連絡いただく必要があることを示しています
(Info Mode Track および Road、 221)
(Info Mode Track Evo、 222)。



主な整備作業とメンテナンス

フェアリングの取り外し

メンテナンスまたは修理作業を実施するために、モーターサイクルのいくつかのフェアリング部品を外すことが必要になる場合があります。

警告

取り外した部品を再度取り付けていなかったり、正しく取り付けられていないと、走行中に突然外れ、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

警告

塗装済み部品を破損しないよう、取り付けの際には必ずナイロンワッシャーを固定スクリューの位置に取り付けてください。

重要

フェアリングの取り外し作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

「メンテナンスプログラム」表で指定される間隔に従って、レベルを点検します。

フロントホイールのスペースから内側の点検用開口部から、車両右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。

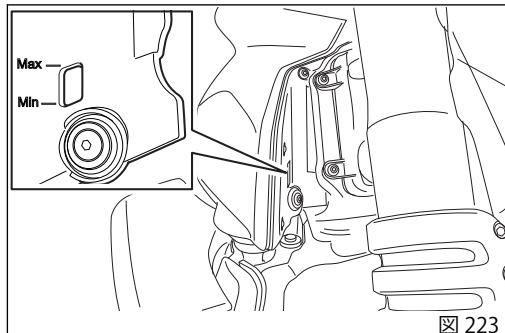
クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。

警告

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。

重要

クーラントの補充は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバタンクの MIN 目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

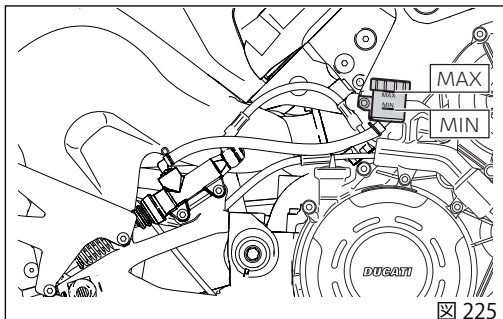
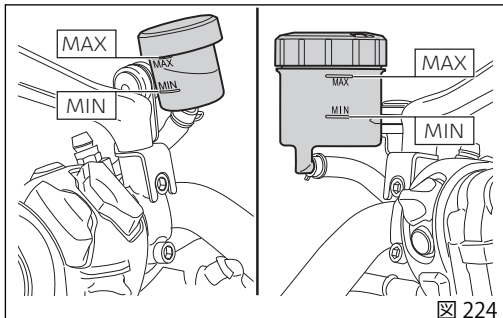
また、「メンテナンスプログラム」表に指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご依頼ください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。





警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。

これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。



警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください(最低レベル上3 mm (0.12 in))。

ブレーキパッドの摩耗点検

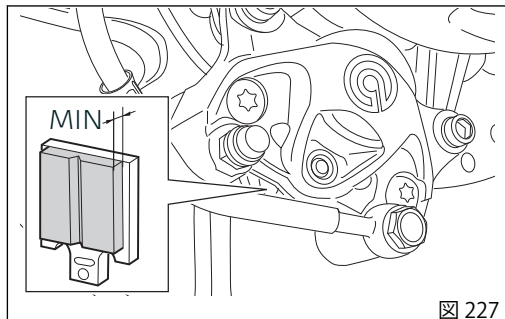
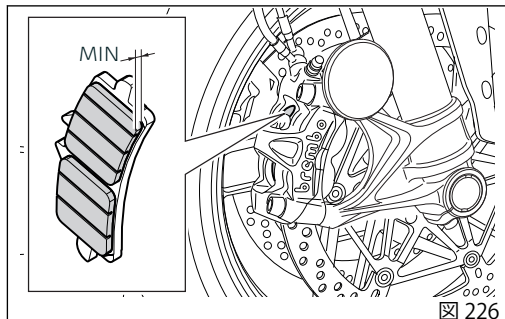
キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm (0.04 in) になっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



バッテリーの充電

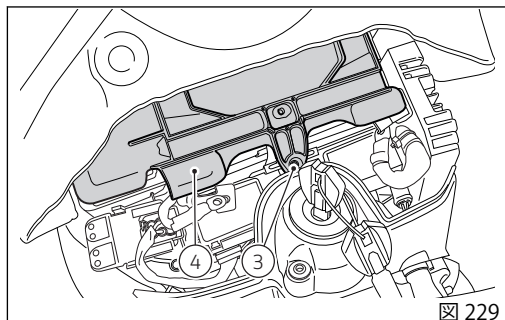
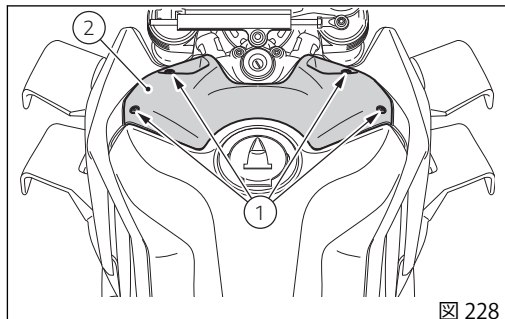
準備作業

リチウム電池の充電は、リチウム電池のプラス極とマイナス極に専用バッテリー充電器をクリップ付きケーブルで直接つないで行ってください。

これを行うには、以下に記載する各手順を実施してください。

4本のスクリュー (1) をワッシャーと一緒に外し、タンクカバー (2) を取り外します。

スクリュー (3) を緩めて外し、バッテリー固定用カバー (4) を取り外します。



バッテリー充電器をバッテリーに接続する

電源に接続されていないバッテリー充電器 (A) の赤色クリップ (5a) をプラス極 (5) にしっかりと接続します。黒色クリップ (6a) をマイナス極 (6) にしっかりと接続します。

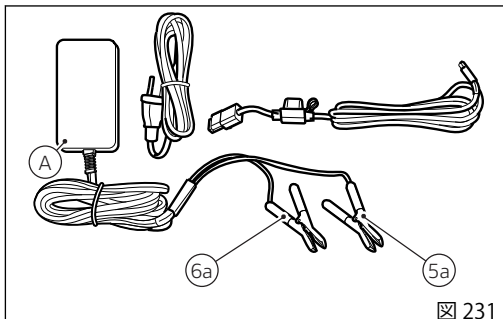
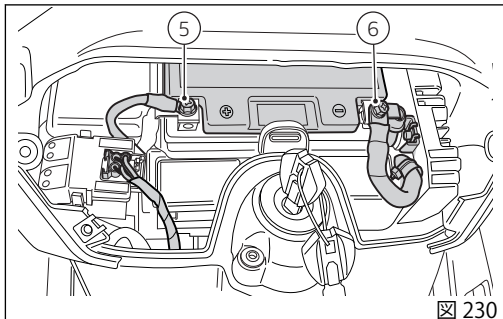
バッテリー充電器 (A) の電源プラグを壁のコンセントに差し込みます。



警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーの充電には、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器 (A) を使用してください。鉛蓄電池用バッテリー充電器や純正以外のバッテリーメンテナーや充電器は絶対に使用しないでください。バッテリーの充電は、気温 40° C (104° F) 以下の場所に車両を駐車して行ってください。

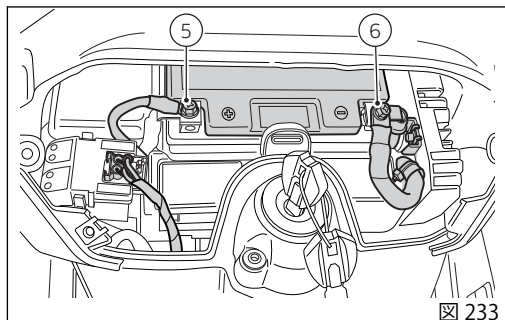
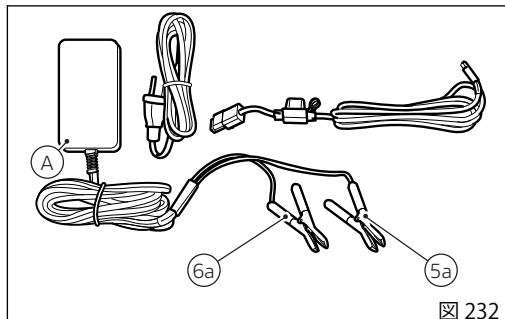


バッテリー充電器をバッテリーから外す

充電が完了したら、接続時と逆の手順でバッテリー充電器 (A) を外します。

まず、バッテリー充電器 (A) の電源プラグを壁のコンセントから抜きます。

黒色クリップ (6a) をマイナス極 (6) から外し、赤色クリップ (5a) をプラス極 (5) から外します。





警告

バッテリーメンテナーとして使用する場合にも、必ずドゥカティ純正リチウム電池用バッテリー充電器 (A) を使用してください。バッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601A (各国) またはバッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601AX (日本、中国、オーストラリア) は鉛バッテリー専用ですので、絶対に使用しないでください。



警告

車両のバッテリーが完全に放電しているために始動が不可能な場合、外部エンジンスターターや外部バッテリーを並列に接続してバイクを始動することは許可されていません。

実際、充電システムは、完全に放電したバッテリーでエンジン電子機器 (点火/噴射システムを含む) への正しい供給電圧を保証するようには設計されていません。これは、機能的に重大な問題を引き起こす可能性があります。

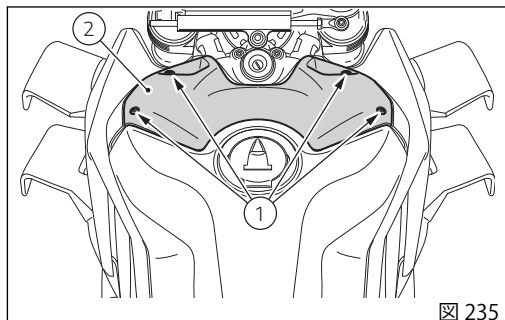
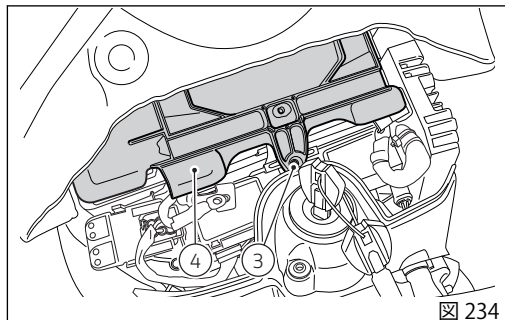
バイクを使用する前に、バッテリーの交換または充電を行い、点検してください。



警告

バイクの押しがけはしないでください。

バッテリー固定用カバー (4) を取り付け、スクリュー (3) を締め付けます。
タンクカバー (2) を配置し、4 本のスクリュー (1) を締め付けます。



長期間の保管

車両を長期間 (例：連続 30 日間) 使用していない場合は、バッテリーチャージャー/メンテナーをケーブルで診断ソケットに接続するようにしてください。詳しくは“冬季のバッテリー充電およびメンテナンス”を参照してください。

トランスミッションチェーン張力の点検

! 重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。チェーンピンの中心とチェーンライダーのプラスチックとの間の距離 (A) を測定します。

A = 18~20 mm (0.70~0.78 in)

! 重要

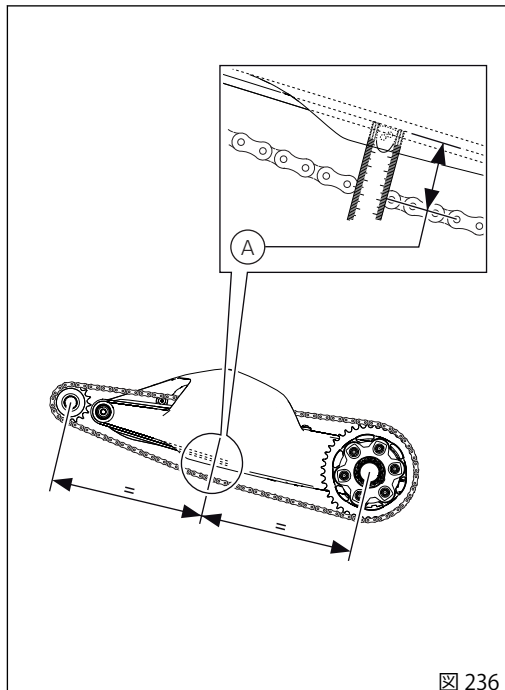
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

! 重要

チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

! 重要

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするため、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。



チェーンの潤滑

⚠ 重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

⚠ 警告

この作業は、車両のスイッチを切り、乾いた平坦な場所にスタンドで駐車した状態で実施してください。

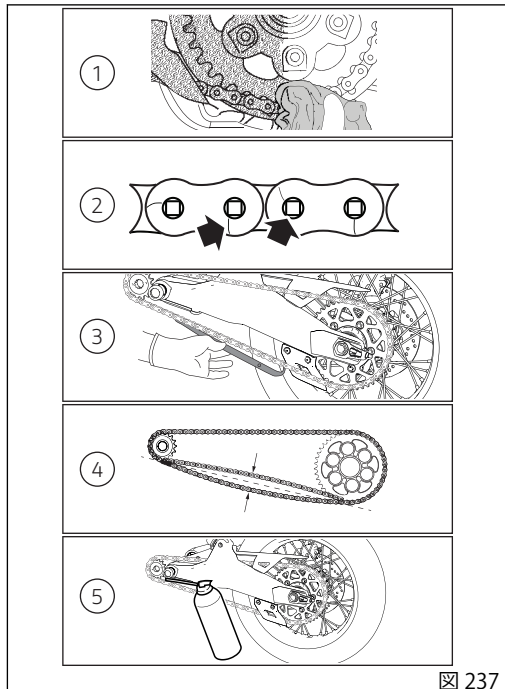
清掃

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、頑固な汚れをまず湿らせた柔らかい布 (1) でやさしくしてからウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30 cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

チェーンの点検

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ O リングガasket 付きチェーンが装着されています。



指定箇所 (2) のリンクを点検して、チェーンの摩耗状態を確認します。



警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。



警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

チェーンスライダーの点検

チェーンスライダー (3) の摩耗状態を確認し、必要な場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

チェーン張力の点検

「ドライブチェーン張力の点検」の記載に従って、チェーン張力 (4) を確認してください。チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

潤滑システム

! 重要

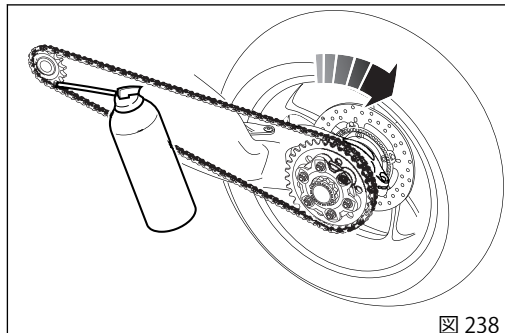
ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

! 警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑 (5) は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

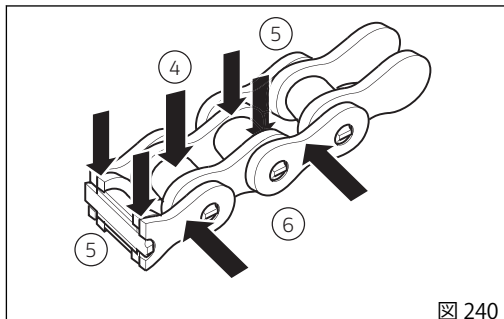
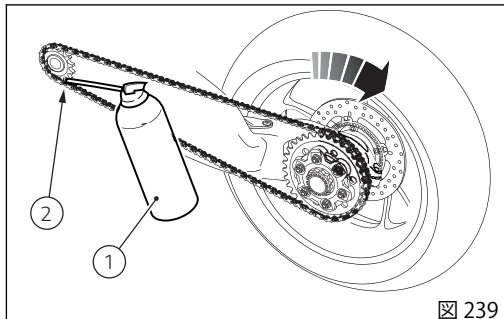
リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。



チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所 (2) で、潤滑剤 (1) のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保證します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部 (5) に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング (4) および外側のプレート (6) を潤滑します。



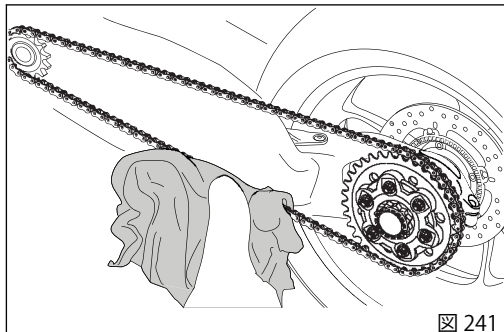
潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

⚠ 重要

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

⚠ 重要

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 毎に行ってください。外気温度が高い (40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後、より頻繁 (約 400 km (248 マイル) 毎) に潤滑を行ってください。

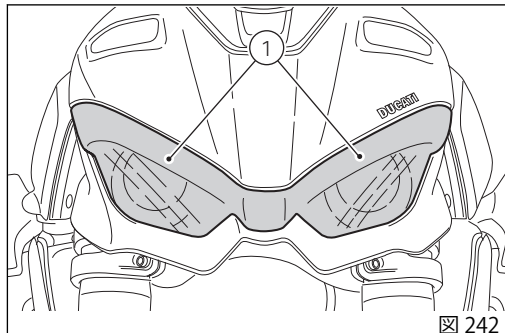


ハイビーム/ロービーム電球の交換

ヘッドライトユニットはフルLEDですので、メンテナンスの必要はありません。図ではハイビームランプ(HI)、ロービームランプ(LO)、パーキングランプ(1)の位置を示しています。ランプの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ターンインジケーター

ターンインジケーターライトはLEDなので、メンテナンスの必要はありません。



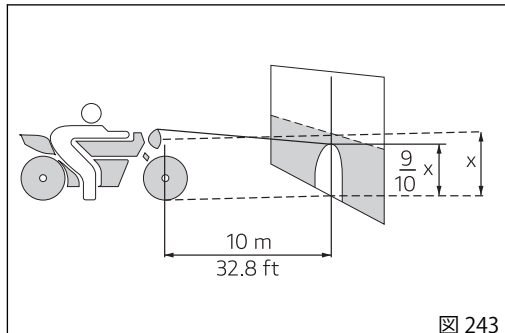
ヘッドライトの光軸調整



参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートル(32.8フィート)の場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、光軸調整を行います。片方のライトの調整中は、もう片方のライトをカバーしてください。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。



ヘッドランプの光軸調整を行うには、車両前部、左右に設けられたスクリュー (1) または (2) を回します。

左側のスクリュー (1) で、左ハイビーム/ロービームランプを調整します。

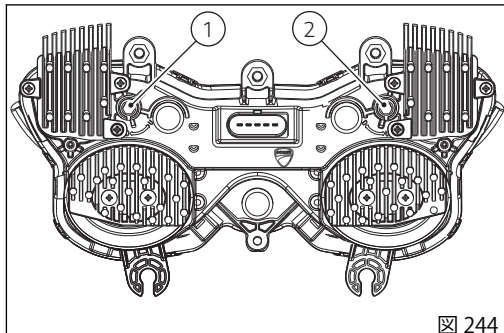
- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

右側のスクリュー (2) で、右ハイビーム/ロービームランプを調整します。

- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。



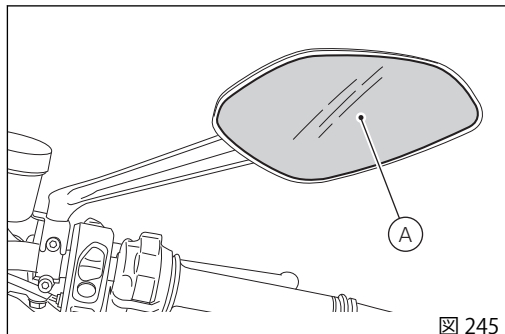
リアビューミラーの調整

リアビューミラー (A) を手動で好みの位置に調整します。



警告

ミラーを調節する際は、無理な力をかけてミラーを破損しないように慎重に調節してください。



チューブレスタイヤ

タイヤの種類とタイヤ空気圧については、「テクニカル仕様」セクションの「タイヤ」を参照してください。タイヤ空気圧

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。



警告

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar (2.90~4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換 (チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。



警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。



警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



参考

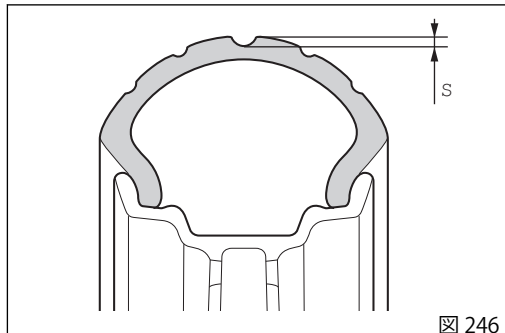
タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S)の溝の深さを測定します。溝の深さは2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。



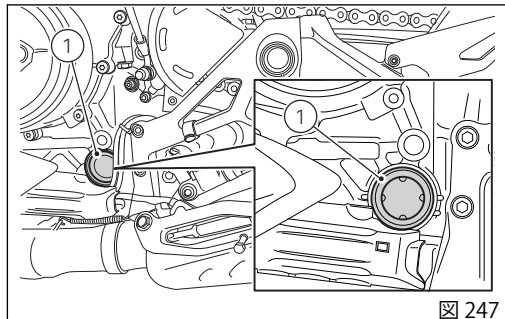
エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、エンジンブロック左側にある点検窓 (1) から見るができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社規定オイルはSAE 15W-50/JASO MA2のみで、推奨オイルはSHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API: SN) です。

車両右側にあるフィルターキャップ (2) を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィルターキャップ (2) を取り付けます。

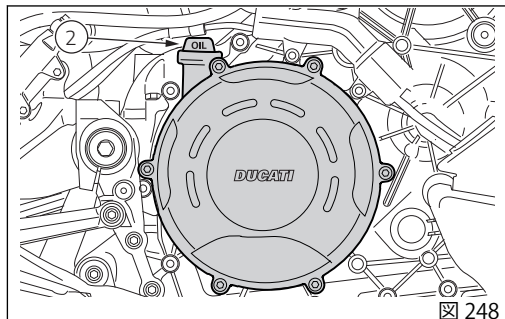


警告

エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、本冊子の「メンテナンスプログラム」に記載されている定期点検表に従い、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

- 1) オイルレベルの点検はエンジンを切ってから約15分後、エンジンが熱い状態で実施してください。
- 2) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。



3) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。

4) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。



警告

MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

シートのお手入れには、水と中性洗剤だけを使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

車両をめぐるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。



重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスカート、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。



参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。



警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。



警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。



警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。



参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。



参考

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。



重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。



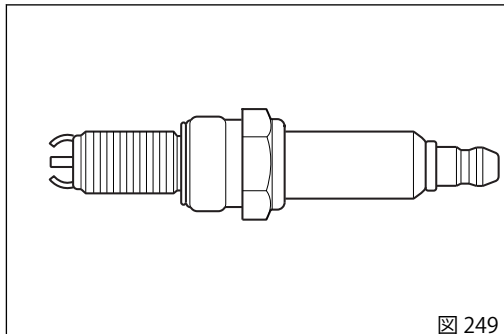
重要

複合コンポーネント、特に高温用途に設計された構造部品(例：スイングアーム)は、その性質上、経年変化や、天候、熱源への曝露によりマトリックスの色が変化します。したがって、これらのコンポーネントは時間の経過とともに色や外観が変化することがあり、これらの変更は、材料や製品、コンポーネントの不適合や劣化を示すものではありません。また、そのような変化は、外観上の欠陥(マテリアルの固有の特性)と見なされず、構造的な欠陥(構成要素の機能を絶対に損なうことなく)とは見なされません。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお勧めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- 接続を切り離し、バッテリーを取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電してください(“バッテリーの充電”参照)。
- 結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

一部の国では騒音規制の基準が設けられている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

車載されている様々な電子コンポーネントには、車両の状態、イベント、故障に関する技術情報を一時的または永続的に保存するデータメモリがあります。通常、これらの情報は、ひとつのコンポーネント、モジュール、システム、または環境の状態を記録しています。

- システムコンポーネントの動作状態(例：排出ガス制御システム)
- 車両と個別コンポーネントの状態のメッセージ(例：車輪回転速度、エンジン回転数、挿入ギアなど)
- システムの重要コンポーネントの不具合と故障(例：ライト、ブレーキなど)
- 特定の運転状況での車両レスポンス(例：トラクションコントロールシステムなど)
- 環境条件(例：気温など)

これらのデータは技術的な性質のものであり、故障を特定・修正して、車両の機能を最適化するために使用されます。

修理、メンテナンス作業、保証対象作業、品質保証などのサービスを実施する際、アシスタンスネットワーク(製造メーカーを含む)のスタッフは、特別な診断ツールを使用して、イベントや故障データメモリからこれらの技術情報を読み取ることができます。故障が解消されれば、故障メモリの情報を徐々に消去または上書きすることができます。

車両データは、お客様から要請されたサービスや契約に基づいて車両に実施されるサービスの際に収集されます。

これらのサービス環境において、お客様の個人情報、サポートの効率を高めるという Ducati の正当な

利益に基づき、また最終的な法的義務(例：修理・メンテナンスに関する情報義務)を果たすために、現行の個人データ保護規則に従って取り扱われます。必要に応じて、個人データの読み取りが行われ、車両識別番号と併せて使用されます。
当社のコントロールユニットが位置情報データを収集することはありません。

車両の運搬

別の車でモーターサイクルを運搬する前に、安全に関する以下の指示に従ってください。

- 1) 確実に固定されていない物やアクセサリを車両から取り外してください。
- 2) 運搬に使用する車に対して真っすぐになるように前輪を進行方向に向けて配置し、前輪が動かないように適切に固定してください。
- 3) ギアを1速に入れてください。
- 4) 固定用ベルトを使用してください。固定用ベルトは硬い部品(フレームなど)の位置で固定するようにし、ハンドルバー(またはハーフハンドルバー、装備に応じる)や破損する危険のある部品(グリップ、リアビューミラーなど)には取り付けないでください。
- 5) ベルトやロープが車両の塗装部品をこすらないように取り付けてください。
- 6) 運搬中に路面からの振動に対する車両の動きが少なくなるように、可能であれば、サスペンションを部分的に圧縮された位置に設定してください。

ロープをハンドルバーに固定しないでください。

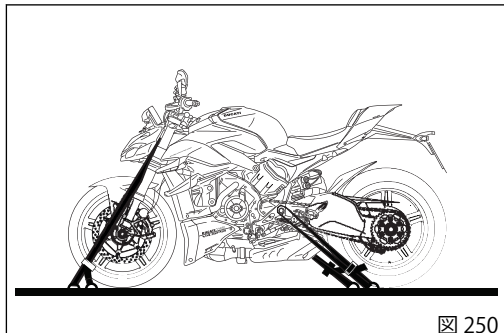


図 250

メンテナンスプログラム




メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス

本メンテナンスプログラムは本車両の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。


車両を競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになりたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。




	Annual Service 			
	DESMO Service 			
	OIL Service 			
	OIL Service 1000			
DDS 3.0 による不具合メモリーの読み取り、DSC から技術アップデートとリコールキャンペーンの有無の確認	•	•	•	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換	•	•		12

				Annual Service 年
				DESMO Service 年
				OIL Service 年
				OIL Service 1000
エアフィルターの点検と清掃			•	12
エアフィルターの交換			•	
バルブクリアランスの点検と調整			•	
セカンダリーエアリードバルブの点検			•	
スパークプラグの交換			•	
クーラントの交換			•	48
フロントフォークオイルの交換				36
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	•	•		12
クラッチプレートパッキの厚みの点検			•	
クラッチハウジングの交換				48,000km / 30,000mi ごと
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	•	•		12
ブレーキ/クラッチフルードの交換				24
フロント/リアブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検			•	12

Annual Service 年			
DESMO Service 車			12
OIL Service 油		•	
OIL Service 1000			•
フロント/リアブレーキキャリパースクリュー、フロントブレーキディスクスクリューの締め付け点検		•	
リアブレーキディスクのスクリューの目視点検(締め付け点検。六角レンチグリップの付いたブレーキディスク固定スクリューの場合は、リアホイールシャフトの取り外しを伴う)		•	
フロント、リアホイールナットの締め付け、リアスプロケットナットの締め付け点検		•	12
エンジン、スイングアーム、リアショックアブソーバーへのフレーム固定の締め付け点検		•	
リアバンク右マウント固定の締め付け点検		•	
ホイールハブベアリングの点検		•	12
リアスプロケットのクッシュドライブダンパー点検、リアホイールシャフトの潤滑		•	
チェーン、チェーンスライダー、リアスプロケット、フロントスプロケットの摩耗点検 チェーンの張力、潤滑、伸びの点検 伸び測定値： _____ (mm)		•	12
 参考 ファイナルドライブチェーンキットは、走行距離 20,000km/12,000mi を超える前に交換してください。		•	
ステアリングチューブベアリングの遊び点検		•	12

Annual Service 年				
DESMO Service 年			12	
OIL Service 年		12		
OIL Service 1000			12	12
サイドスタンドの作動、締め付け点検	•	•		
目視できるすべてのカバーやフレキシブルホース (燃料供給、ブレーキ、クラッチ、冷却システムのフレキシブルホース、ブリーザーホース、ドレンホースなど) に亀裂や漏れなどがなく、正しく取り回されていることを点検する	•	•	12	
リアブレーキペダルの遊び点検、ハンドルレバーおよびペダルコマンドの潤滑	•	•	12	
タイヤ空気圧、磨耗点検	•	•	12	
電気安全装置の作動点検 (サンドスタンドとクラッチセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)	•	•	12	
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の動作点検	•	•	12	
エキゾーストバルブオープニングボーデンケーブルの DDS 3.0 による調整	•	•	12	
安全装置 (ABS、DTC など)、エレクトリックファン、アイドルリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト	•	•	•	12
クーラントレベルの目視点検、回路の密閉状態の点検	•	•	•	12
車両のソフトクリーニング、DDS 3.0 による定期点検の登録とインストルメントパネルのサービス警告灯のリセット、定期点検実施の車載書類 (サービスブック) への記入	•	•	•	12

OIL Service 1000 は、慣らし運転 1,000 km/600 mi 終了後に実施します。

OIL Service  は、12,000 km/7,500 mi ごとに実施します。
DESMO Service  は、24,000 km / 15,000 mi ごとに実施します。
Annual Service  は 12 カ月ごとに実施します。

メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイル x1000	0.6
	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

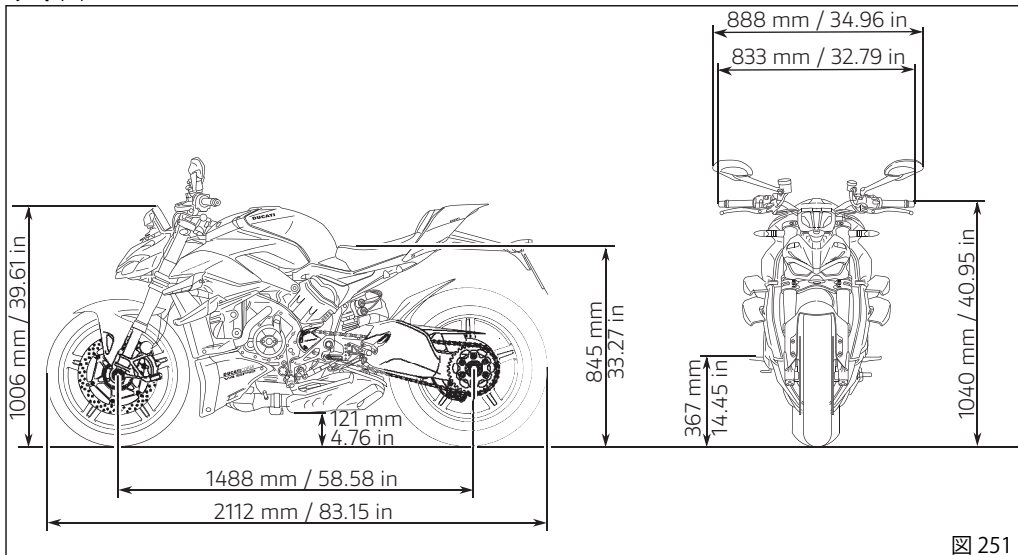
車両重量 (燃料90%を含むすべての液体類を装備-93/93/CEガイドラインに準拠)	196.5 kg (433.20 lb)
車両重量 (液体類、バッテリーを含まない)	177 kg (390.21 lb)
車両総重量 (最大負荷)	424 kg (934.76 lb)



警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ



補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4.5 リットル (0.99 UK ガロン) を含む	オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL V-Power を使用してください。	17 リットル (3.73 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ	ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/ JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。	3.4 リットル (0.75 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	DOT 4	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク		オイルレベル : 200 mm (7.87 in) 411 ± 4 cm ³ (25.08 ± 0.24 cuin)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めずに使用)	2.5 リットル (0.55 UK ガロン)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

デスモセディチ・ストラダーレ：90°、V型4気筒、逆回転クランクシャフト、シリンダーごと4バルブのデスモドロミックタイミングシステム、水冷式。

ボア：81 mm (3.19 in)

ストローク：53.5 mm (2.11 in)

総排気量：1103 cm³ (67.3 cuin)

圧縮比：14.0 ± 0.5:1

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW/HP：

153.2 kW/208 HP / 13000 rpm

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW/HP

(ベルギー / フランスバージョンのみ)：

84 kW/114.2 HP / 7750 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X：

123.2 Nm / 12.5 kgm / 9500 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X

(ベルギー / フランスバージョンのみ)：

105.4 Nm / 12.5 kgm / 7500 rpm

最高回転数、rpm：14,500 rpm / 15,000 rpm (6速ギア)



参考

エンジンがアイドルリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECUはリアバンクの2本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー (ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある) の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。このストラテジーはライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。



重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。



参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

潤滑システム

バイパスバルブ内蔵トロコイド式オイルデリバリーポンプと2つの回収オイルポンプ。オイルクーラー。

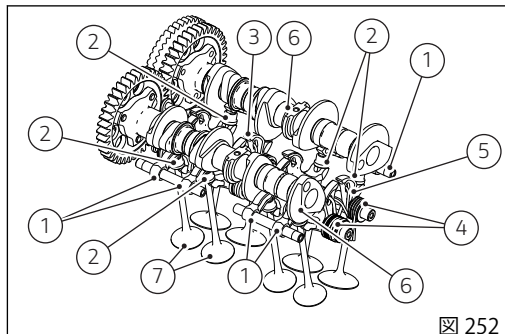
燃費：7.6 l/100 km
排出量：CO2 178 g/km
適合規格：Euro 5

タイミングシステム

シリンダーごとに4バルブのデスモドロミックタイミングシステム

デスモドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング (アッパー) ロッカーアーム
- 2) オープニングロッカーシム
- 3) クロージング (ロア) ロッカーシム
- 4) ロッカーアームリターン springs
- 5) クロージング (ロア) ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ



性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK

タイプ：LMDR10A-JS

燃料供給

電子制御式間接燃料噴射装置、誘導放電式、可変長ダクトによるエアインテークシステム。

スロットルボディ：フルライドバイワイヤシステムとエアロダイナミックスロットルバルブ搭載楕円型。

円相当径：52 mm (2.05 in)

シリンダーごとのインジェクター数：2

ガソリン燃料：95-98 RON



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

ブレーキディスク

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ハウジング材質：アルミニウムとアルミニウム合金

ディスク径：330 mm (12.99 in)

ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)

ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.5 mm (0.18 in)

ディスクブレーキ面積：264 cm² (40.92 in²)

ブレーキコントロール

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ブレーキキャリパー

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：Stylema® M4.30 bモノブロックラジアルマウント (コーナリング ABS EVO)
キャリパーのピストン数：4
キャリパーシリンダー径：30 mm (1.18 in)
ブレーキパッド材質：BRM 10A HH。
ブレーキマスターシリンダー
ポンプシリンダー径：16 mm (0.63 in)
ポンプタイプ：PR16/21

リア

ブレーキディスク

穴あき固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm (9.6 in)
ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)
ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.5 mm (0.18 in)
ディスクブレーキ面積：219 cm² (33.95²)

ブレーキコントロール

車体右側ペダルによる油圧コントロール

ブレーキキャリパー

キャリパーメーカー：BREMBO
キャリパーのピストン数：2
ピストン径：34 mm (1.34 in)
コーナリング ABS 標準装備
ブレーキパッド材質：TOSHIBA SH TT2172 HH
ブレーキマスターシリンダー

ポンプタイプ：PS 13
ブレーキキャリパーポンプピストン径：13 mm (0.51 in)



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

スリッパークラッチ機構付き油圧制御乾式クラッチ、左側ハンドルのアジャスタブルレバーによる操作。エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

一次減速比：1.80:1

一次減速比：フロントスプロケット/リアスプロケット比 30/54

6速ギア、ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/DOWN EVO2、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/42

変速比：

1速 38/14

2速 36/17

3速 33/19

4速 32/21

5速 30/22

6速 30/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー：DID 525HV3 KAI

リンク数：116

メーカー (CHN)：DID 525HV3 KAI

リンク数：114



重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。



警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与えるおそれがあります。

フレーム

剛性が最適化されたアルミニウム合金製「フロントフレーム」

アルミニウム合金リアサブフレーム

キャスト角：24.5°

ステアリングアングル：左側 28° / 右側 28°

トレール：100 mm (3.94 in)

ホイール

フロント

カーボン製 5 本ダブルスポーク

寸法：3.50x17"

リア

カーボン製 5 本ダブルスポーク

寸法：6.00x17"



重要

複合コンポーネント、特に高温用途に設計された構造部品 (例：スイングアーム) は、その性質上、経年変化や、天候、熱源への曝露によりマトリックスの色が変化します。したがって、これらのコンポーネントは時間の経過とともに色や外観が変化することがあり、これらの変更は、材料や製品、コンポーネントの不適合や劣化を示すものではありません。また、そのような変化は、外観上の欠陥 (マテリアルの固有の特性) と見なされず、構造的な欠陥 (構成要素の機能を絶対に損なうことなく) とは見なされません。

タイヤ

タイヤの種類

フロント

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso IV
Corsa

寸法：120/70-ZR17

リア

チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso IV
Corsa

寸法：200/60-ZR17

タイヤ空気圧

用途	フロント	リア
公道走行時	2.3 bar (33.35 psi)	2.5 bar (36.26 psi)
サーキット走行時	1.9 bar (27.55 psi)	2.2 bar (31.91 psi)



警告

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar (2.90~4.35 PSI) 上げてください。

サスペンション

フロント

ÖHLINS 製 NIX3 TiN コーティング、43 mm (1.69 in) フルアジャスタブル倒立フォーク。

Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのセミアクティブモード制御。

ホイールトラベル：

120 mm (4.72 in)

リア

ÖHLINS 製 TTX36 モノショックアブソーバー、フルアジャスタブル。

Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのセミアクティブモード制御。

アルミニウム製片持ち式スイングアーム

ストローク：65 mm (2.56 in)

ホイールトラベル：

130 mm (5.11 in)

アジャスタブルピボット位置：±3 mm (0.12 in)

Steering Damper (ステアリングダンパー)

ÖHLINS 製 NIX30 電子式アジャスタブルステアリングダンパー

エキゾーストシステム

4-2-1-2レイアウト：4 in 2 in 1 in 2 構造のエキゾーストシステム

ラムダセンサー：4

触媒コンバーター：2

カラーバリエーション

モノポストテールエンド：

ダークステルス+レッド GP 19 (STV 022 + STV 208)

- ベース 1-ベース 2K ホワイト、供給元 Lechler、コード：DS20052
- ベース 1-レッド GP 19、供給元 PPG、コード：0084
- ベース 2-ベース 2K ブラック、供給元 Palinal、コード：873.A002
- ベース 2-ブラックステルス、供給元 Palinal、コード：929.R223
- クリア-クリア 2K マット、供給元 Palinal、コード：9231.2176

アンダーフェアリングマウント 右/左ダークステルス+レッド GP19

- ベース 2K ホワイト、Palinal、873AC001
- ベース レッド GP19、PPG、0084
- ベース ブラックステルス、Palinal、929.R223
- クリア 2K マット、Palinal、923I2105

ヘッドライトウィスカ：ダークステルス+レッド GP19

- ベース 2K ホワイト、Palinal、873AC001
- ベース レッド GP19、PPG、0084
- ベース ブラックステルス、Palinal、929.R223
- クリア 2K マット、Palinal、923I2105

左右フューエルタンクカバー：ダークステルス

- ベース 2K ブラック、Palinal、873.A002
- ベース ブラックステルス、Palinal、929.R223
- クリア 2K マット、Palinal、923I2105

フューエルタンクセンターカバー：ダークステルス

- ベース 2K ブラック、Palinal、873.A002
- ベース ブラックステルス、Palinal、929.R223
- クリア 2K マット、Palinal、923I2105

モノポストテールエンド：ダークステルス

- ベース 2K ブラック、Palinal、873.A002
- ベース ブラックステルス、Palinal、929.R223
- クリア 2K マット、Palinal、923I2105

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

インストルメントパネル

カラー TFT ディスプレイ

ヘッドライト

ロービーム：LED 2個

ハイビーム：LED 2個

パーキングライト / DRL (装備している場合)：LED 6個

ハンドル上スイッチ

フロントターンインジケータ：LED 15個

フロントターンインジケータ電球 (USAバージョン) タイプ：

RY10W (12V-10W) オレンジ色

リアターンインジケータ (ヨーロッパバージョン)：LED 1個

リアターンインジケータ電球 (USAバージョン) タイプ：

RY10W (12V-10W) オレンジ色 1個

テールライト

テールライト：

パーキングランプ：LED 18個

ストップランプ (stop)：LED 18個

ナンバープレートランプ：LED 3個

警告ホーン

ストップランプスイッチ

リチウムイオンバッテリー：

リチウムバッテリー SKY HJT7B-FPZ-SCR 4Ah LX

ジェネレーター (Denso)：

14V - 425W

電子レギュレーターは、バッテリー横のスターターコンタクター上に設けられた30Aヒューズで保護されています。

スターターモーター：

Denzo BA06 12V - 0.6 kW

インストルメントパネル/ダッシュボード：5カラー TFT ディスプレイを備えるデジタル式



参考

電球の交換は、「ハイ/ロービーム電球の交換」を参照してください。

ヒューズ

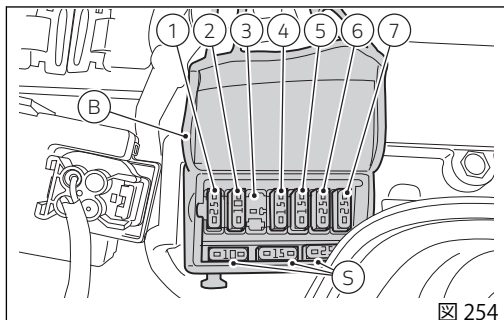
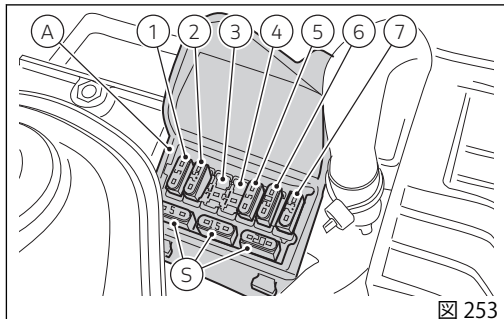
電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックス内に12個、スターターコンタクター上に1個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが1個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

左フロントヒューズボックス(A、図253)および右フロントヒューズボックス(B、図254)は、バッテリー上に配置されています。

ヒューズの作業を行うには、“バッテリーの充電”の記載に従いタンクカバーを取り外します。

ヒューズを交換するには、ヒューズボックスの保護カバーを持ち上げます。保護カバーには各ヒューズの配置と定格が表記されています。



左フロントヒューズボックス凡例 (A)		
配置	保護装置	容量
1	EMS / ABS / IMU	5 A
2	DASH / BBS / SMEC	7.5 A
3	-	-
4	-	-
5	アクセサリ / SW	5 A
6	インジェクションリレー	20 A
7	診断 / 充電	7.5 A
S	スペア	20 A
S	スペア	15 A
S	スペア	5 A

右フロントヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
1	EMS 負荷リレー	25 A
2	燃料ポンプリレー	10 A
3	-	-

右フロントヒューズボックス凡例 (B)		
4	インストルメントパネル	15 A
5	Black Box システム (BBS)	15 A
6	ABS UBMR	25 A
7	ABS UBVR	10 A
S	スペア	25 A
S	スペア	15 A
S	スペア	10 A

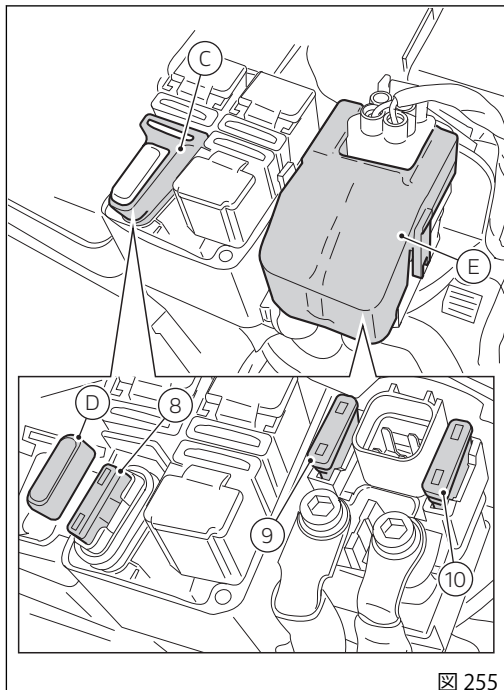
メインヒューズ (8) で作業を行うには、保護キャップ (C) とカバー (D) を取り外してください。
 スターターコンタクターヒューズ (9) とスペアヒューズ (10) で作業を行うには、カバー (E) を取り外してください。

メインヒューズボックス凡例

配置	保護装置	容量
8	メインヒューズ	30 A

スターターコンタクターヒューズ凡例

配置	保護装置	容量
9	スターターコンタクターヒューズ	30 A
10	スペア	30 A



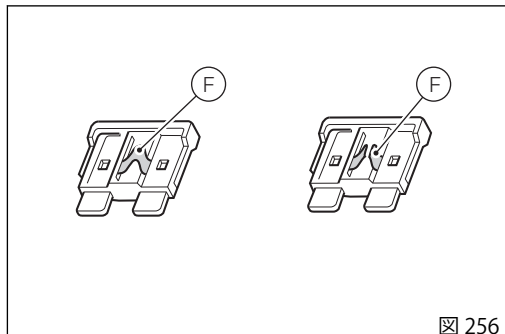
切れたヒューズは、インナーフィラメント (F) が溶断しているかどうかを確認することができます。

⚠ 重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。

⚠ 警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、電気システムシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。



オープンソースソフトウェア

オープンソースソフトウェアに関する情報

車両のいくつかのコンポーネントは、オープンソースソフトウェアを使用しています。使用されているソースコードとオープンソースに関連する情報は、次のリンクからオンラインで入手できます。

<https://www.ducati.com/ww/en/home/open-source-software>

EU 適合宣言書

EU 適合宣言書

EU 指令 2014/53/EU



無線部品製造業者の住所

すべての無線部品には、欧州指令 2014/53/EU の規定に基づき、製造業者の住所が記載されていなければなりません。その性質または寸法の問題上シールを貼付できない部品については、法律に規定される通り製造業者の住所を表示 2 に記載します。



参考

本機器の取扱い、設置は経験のある人のみが行ってください。

表 1

車両に装備されている無線機器	周波数帯域	最大送信電力
インストルメントパネル	134.6 KHz 119 KHz ÷ 135 KHz	< 66dB μ A/m (10m)
ドゥカティマルチメディアシステム (Bluetooth)	2402 ÷ 2480 MHz	4.4mW
盗難防止装置	433.92MHz (\pm 75KHz)	<0.6mA
GPS	1575,4 MHz	

表 2

車両に装備されている無線機器	製造業者の住所
インストルメントパネル	MAE Via Presolana 31/33 24030 Medolago (Bergamo), Italy
ドゥカティマルチメディアシステム (Bluetooth)	COBO S.p.a. Via Tito Speri, 10 25024 Leno (BS), Italy
盗難防止装置	PATROLLINE Via Cesare Cantù, 15/C 22031 Albavilla (CO), Italy
GPS	DANFOSS A/S 6430 Nordborg Denmark CVR nr.: 20 16 57 15

Dichiarazione di conformità EU semplificata

[Austria]

Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: certifications.ducati.com

[Belgium]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[Bulgaria]

Твоят мотоциклет е оборудван с различна по вид радиоапаратура. Производителите на тази радиоапаратура декларират, че тя съответства на Директива 2014/53/ЕС, съгласно изискванията по закон. Пълният текст на декларацията за съответствие ЕС, ще намерите на следния адрес: certifications.ducati.com

[Croatia]

Vaše vozilo je opremljeno nizom radio uređaja. Proizvođači ovih radio uređaja tvrde da su uređaji u skladu s Direktivom 2014/53/UE ako je propisano zakonom. Cjelokupan tekst deklaracije o sukladnosti dostupan je na: certifications.ducati.com

[Cyprus]

Το όχημά σας εξοπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσυσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι συσκευές συμμορφώνονται με την οδηγία 2014/53/ΕΕ, όπου απαιτείται από το νόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: certifications.ducati.com

[Czech Republic]

Vaše vozidlo je vybaveno řadou rádiových zařízení. Výrobci těchto radio zařízení, prohlašují, že zařízení jsou v souladu se směrnicí 2014/53/EU, pokud to vyžaduje zákon. Úplné znění prohlášení o shodě EU je k dispozici na internetových stránkách: certifications.ducati.com

[Denmark]

Dit køretøj er udstyret med et udvalg af radioudstyr. Producenterne af dette radioudstyr erklærer, at dette udstyr overholder direktiv 2014/53/EU, hvis det kræves i henhold til loven. Den komplette tekst af EU-overensstemmelseserklæringen findes på følgende webadresse: certifications.ducati.com

[Estonia]

Teie sõiduk on varustatud raadioseadmete seeriaga. Selle raadioseadme tootjad kinnitavad, et see seade vastab direktiivile 2014/53/EÜ, kui seadus seda nõuab. EÜ vastavusdeklaratsiooni terviktekst on saadaval järgmisel veebisaidil: certifications.ducati.com

[Finland]

Ajoneuvossasi on radiolaitteita. Näiden radiolaitteiden valmistajat vakuuttavat, että laitteet vastaavat direktiiviä 2014/53/EU lain edellyttämällä tavalla. EU-vaatimustenmukaisuusvakuutuksen täydellinen teksti on saatavilla seuraavasta osoitteesta: certifications.ducati.com

[France]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[Germany]

Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: certifications.ducati.com

[Greece]

Το όχημά σας εξοπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι συσκευές συμμορφώνονται με την οδηγία 2014/53/ΕΕ, όπου απαιτείται από το νόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: certifications.ducati.com

[Hungary]

Járműved egy sor rádió készülékkel van felszerelve. Ezeknek a rádióberendezéseknek a gyártói kijelentik, hogy a készülékek megfelelnek a 2014/53/EU irányelvnek, ahol ezt a törvény megköveteli. Az EU megfelelőségi nyilatkozat teljes szövege az alábbi címen érhető el: certifications.ducati.com

[Ireland]

Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: certifications.ducati.com

[Italy]

Il tuo veicolo è dotato di una serie di apparecchiature radio. I costruttori di queste apparecchiature radio dichiarano che esse sono conformi alla direttiva 2014/53/UE laddove richiesto per legge. Il testo completo della dichiarazione di conformità UE è disponibile al seguente indirizzo: certifications.ducati.com

[Latvia]

Jūsu transportlīdzeklis ir aprīkots ar dažādām radioierīcēm. Šo radioierīču ražotājs apliecina, ka ierīces atbilst Direktīvas 2014/53/ES prasībām, ja to paredz attiecīgjie tiesību akti. Pilnīgo ES atbilstības deklarāciju skatiet šajā tīmekļa vietnē: certifications.ducati.com

[Lithuania]

Jūsų transporto priemonėje įdiegta daug įvairios radijo įrangos. Šios radijo įrangos gamintojai patvirtina, kad ji atitinka 2014/53/ES direktyvos reikalavimus, kaip tai numato galiojantys įstatymai. Visas ES atitikties deklaracijos tekstas pateikiamas svetainėje adresu certifications.ducati.com

[Luxembourg]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[Malta]

Il-vettura tiegħek hija mgħammra b'firxa ta' tagħmir tar-radju. Il-manufatturi ta' dan it-tagħmir tar-radju jiddikjaraw li dan it-tagħmir jikkonforma mad-Direttiva 2014/53/UE fejn meħtieġ mil-liġi. It-test kollu tad-dikjarazzjoni ta' konformità tal-UE huwa disponibbli fuq l-indirizz tal-web: certifications.ducati.com

[Netherlands]

Uw voertuig is voorzien van diverse draadloze apparatuur. De fabrikanten van deze draadloze apparatuur verklaren dat deze, daar waar dit door de wet voorschreven wordt, overeenstemmen met de richtlijn 2014/53/EU. De volledige tekst van de EU-verklaring van overeenstemming is beschikbaar op het volgende webadres: certifications.ducati.com

[Poland]

Państwa pojazd został wyposażony w szereg urządzeń radiowych. Producenci tych urządzeń radiowych oświadczają, że są one zgodne z dyrektywą 2014/53/UE, tam, gdzie wymaga tego prawo. Pełny tekst deklaracji zgodności UE jest dostępny pod następującym adresem internetowym: certifications.ducati.com

[Portugal]

O seu veículo é dotado de uma série de equipamentos de rádio. Os construtores desses equipamentos de rádio declaram que os mesmos estão em conformidade com a diretiva 2014/53/UE sempre que a lei o

determinar. O texto completo da declaração de conformidade UE está disponível no seguinte endereço: certifications.ducati.com

[Romania]

Vehiculul dvs. este dotat cu o serie de aparate radio. Producătorii acestor aparate radio declară că acestea sunt conforme cu directiva 2014/53/UE, dacă legea impune acest lucru. Textul complet al declarației de conformitate UE este disponibil la următoarea adresă: certifications.ducati.com

[Slovakia]

Vaše vozidlo je vybavené rádiovými zariadeniami. Výrobcovia týchto rádiových zariadení prehlasujú, že tieto zariadenia sú v zhode so smernicou 2014/53/EÚ v rozsahu predpísanom zákonom. Úplný text ES prehlásenia o zhode je k dispozícii na nasledujúcej adrese: certifications.ducati.com

[Slovenia]

Vaše vozilo ima tudi vrsto radijske opreme. Proizvajalci teh radijskih naprav izjavljajo, da so ti v skladu z uredbo 2014/53/UE, kjer zakon to predvideva. Celotno besedilo izjave o skladnosti EU je na voljo na spodnjem naslovu: certifications.ducati.com

[Spain]

Su vehículo está equipado con una serie de equipos de radio. Los fabricantes de dichos equipos de radio declaran su conformidad con la directiva 2014/53/UE, como requiere la ley. El texto completo de la declaración de conformidad UE está disponible en el siguiente sitio: certifications.ducati.com

[Sweden]

Ditt fordon är utrustat med radioutrustning. Radioutrustningens tillverkare förklarar att denna utrustning uppfyller direktiv 2014/53/EU där så lagen kräver det. Fullständig text om EU-försäkran om överensstämmelse finns på följande adress: certifications.ducati.com

[Turkey]

Aracınız bir dizi radyo ekipmanı ile donatılmıştır. Bu telsiz ekipmanının üreticileri, yasaların gerektirdiği durumlarda bu ekipmanın 2014/53/EU Direktifine uygun olduğunu beyan eder. AB uygunluk beyanının tam metnine aşağıdaki web adresinden ulaşılabilir: Certificates.ducati.com

[United Kingdom]

Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: certifications.ducati.com

United States (USA)

"This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation."

"Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment." "NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help."

- RF exposure Information according 2.1091/2.1093 / OET bulletin 65:

Radiofrequency radiation exposure Information: This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The manufacturers of these radio equipment declare that devices comply with the FCC

DASHBOARD	FCC ID: 2AVGH-DSBV4HTG
Ducati Multimedia System (Bluetooth)	FCC ID: Z64-2564N

Canada

This device contains licence-exempt transmitter(s)/ receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause interference.

(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;

(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

RF Exposure Information:

This equipment complies with Canada radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

Déclaration d'exposition aux radiations: Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

DASHBOARD	IC: 25794-DSBV4HTG
Ducati Multimedia System (Bluetooth)	IC: 4511-2564N

DASHBOARD

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



R-R-mAe- DSBV4HTG

DUCATI MULTIMEDIA SYSTEM (Bluetooth)

Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: www.anatel.gov.br.



07755-17-10873

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



R-R-Cbo-1080795

91376751JA



03/2023 ED.01 に更新されました。



Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management
and Coordination activities of AUDI AG